

第54日 7月17日(火) 曇

帯広市～広尾町 広尾町 [シーサイドパーク広尾・キャンプ場] テント泊
4時30分起床。菊地さんは早くから起きて支度をしている。話を交わしながら私も支度をする。彼は、今日は輪行して美瑛方面へ向かう。北海道は毎年この時期に、もう10回位来ているという。今年も、5日間で行きたい所へ行き、見学し走るのだそうだ。挽馬見学もそのねらいの一つであったとのこと。5時30分頃出立を見送る。

私は昨日の日記を書き、出発準備をして7時30分出発する。天気は曇だが、雨の降る様子はない。気温もいくらか上がっている感じだ。上衣だけ合羽を着る。

宿から国道236号線に入るのに少し迷ったが、若い自家用車の男性が分かり易く教えてくれた。この人にも“頑張ってる”と励まされる。今日は広尾町まで南下する。昨日までと違って、反対方向に進むので向い風となる。そんなに強い風ではないが、速度は上がらない。時折、中程度の強さの風に悩まされることもあったが、この国道236号線は全くアップダウンがない平坦な道で走り易かった。

旧愛国駅で、大正7年製のSLを見る。旧幸福駅では駅舎にたくさんのチケットが貼られ異様な感じがした。

道の駅「なかさつない」、「忠類」で小休憩。このあたりは広い平野が広がり、見渡す限り豊かな農作地帯で大型・中型の農耕車も出て農薬散布や耕作作業をしていた。忠類には、「ナウマン象記念館」があったが、休館日で残念だった。



幸福駅



豊かな農作地帯

大樹町のレストラン「龍月」で昼食。名物の〈牛とろ丼〉を食べる。これもおいしかった。735円。すぐそばの百貨店「コスモール」にdocomoがあるということで、カメラ付きの携帯電話を購入する。素晴らしい自然や旅の様子を声だけでなく、映像で届けたいと思うようになっていたのだ。ここのスーパーで、夕食・朝食を購入した。

つづけて、国道236号線、国道336号線を走り、広尾町に入る。広尾海洋水族科学館には、横綱北勝海の展示場が

あったけれど、ここも休館日だった。

シーサイドパーク広尾に到着し、樹林の中にあるキャンプ場管理人の建物に行き、キャンプの手続きをする。寒いからと毛布を1枚無料で使用させてくださった。

今日は、風呂は遠いのでやめる。テントで夕食後、寒いので寝ることにする。19時30分就寝。

【追記】帯広市街から出る頃から、右手遠くに日高山脈の山々が見えてきた。大樹町から見たひとときわ高い三角形の山は神威岳だったのだろうか？

釧路の金田さんとミッキーハウスのおばさんにお礼の電話をする。

※ 今日のデータ 出発 7時30分 到着 16時30分
走行距離 84.41 km 走行時間 4時間57分04秒
平均時速 17.0 km/h 最高速度 43.4 km/h
積算距離 4219.40 km 総走行距離 8214.65 km

第55日 7月18日(水) 曇

広尾町～浦河町

浦河町・ライダーハウス[えびす湯]

5時起床。今日も曇っている。洗面後、朝食をとりながら6時まで昨日の日誌を書く。太平洋の打ち寄せる波の音が聞こえる。今にも雨が降り出しそうなので、炊事場に荷物・テントを移動して片付けをし、出発準備をする。管理人さんにお礼の一筆を添えて、許可証・毛布を返却しておく。

上下合羽を着て、7時45分出発する。道は平坦、風は東北東の風で幸いなことに追い風である。雨は降らなくてよかった。音調津を過ぎ、黄金道路に入る。海は台風の後波と思われ、相当に荒れている。岸边近くでは大きな波の山が押し寄せ、白い大きなしぶきを上げている。この様子を携帯のカメラに撮り、妻・朝見さん・妹弘子・幸子・高広さん・豊中さん・ゆうスポーツクラブにメール送信する。しかし、まだ送信になれていないのでうまく送信できず、“届いてないよ”というメールが返ってくる。大樹町のdocomoに電話するが、朝早くまだ開店していない様子。写メールは後にして、先へ進む。



沿岸昆布漁

沿岸で昆布漁をしている漁師さんたちがある。先にカギのついた棹で岸から昆布を引っ掛けて採っている。浜に下りて話を聞く。海が荒れている時は石にくっついた天然の昆布がはずれて、または小さな石にくっついているものは石ごと波に流されて岸に近づく、これを採るのだそうだ。黄金道路の到る所で行なわれていた。写真撮らせてもらう。



黄金道路の覆道

黄金道路にはトンネルがあるが、覆道も多い。トンネルはこれまで一番長い3220mの宇遠別トンネルがあった。トンネル内で車の数を数えると、追越車は普通車3台・大型車1台、対向車は大型車3台だった。車は少ないし、トンネル内の幅員も大きく、明るかったので、自転車道がなくても恐くはなかった。

まだ、工事をしているトンネルや覆道もあり、その中にはトンネル内の片側通行もある。工事の人が対向車を止めて、安全に走らせてくれる

ので心配はなかった。

工事をしている覆道内で、自動車道から歩道に上がろうとしたところ、路面が濡れていて、歩道に上がる斜面も濡れていて、かなりのスピードも出ていたこともあって、前輪が歩道に上がる斜面でスリップして転倒、左手親指付け根を負傷(脱臼?)する。左腿も打撲、あとから左肋骨にも痛みが出てくる。自転車には異常は

ない。大したことはないと言われ走り続ける。

望洋台で太平洋、黄金道路を眺める。曇ってはいるが、霧はなく遠くまでよく見える。庶野で襟裳岬方向に進んだつもりが、4km位走ったあたりでどんどん山の中に入って行くので、どうもおかしい道を間違えたようだと思い、丁度下ってきた軽トラックを止めて聞くと、“それは道を間違えている。襟裳岬方面へ行く道まで乗せて行ってあげよう。”と、自転車を荷台に乗せて道道34号線の百人浜まで運んでくれた。お礼を言って、名刺をいただく。山一工務店代表の山本さん、ありがとうございました。



黄金道路



襟裳岬

追い風に乗って襟裳岬に着く。風が強く、帽子がかぶれない。写真は風で三脚が使えないので、夫婦連れのお客さんと灯台や襟裳岬の看板などをバックに互いに撮り合った。風の館では、岬の先端の岩場にいるアザラシを望遠鏡で見ることができた。大きなのが、いろんな所にたくさんいた。風速〇mの風の体験もした。食事をして、写メールの送信法がわかったので、先の8人の人に送信する。

再び、様似方面に向けて、追い風に乗って進む。東岸と違って西岸はアップダウンが多い。特に、えりも町まではきつかった。泊まりは様似のキャンプ場の予定だったが、雨が心配なのと洗濯もしたい、風呂にも入りたいので15km伸ばして浦河町のライダーハウス「えびす湯」まで進んだ。「えびす湯」のご主人、今はやっていないということだったが、日も暮れかかっているので気の毒がって水道を復旧して、泊めてくださった。しかも、無料。風呂代390円でよいとのこと。重ねて洗濯もただでさせていただく。



えびす湯

左手親指の付け根、大分はれて状態はよくない。湿布をして、薬を飲む。軽トラックの山本さんにお礼の電話をする。22時就寝。

※ 今日のデータ

出発	7時45分	到着	17時30分
走行距離	105.41km	走行時間	5時間27分59秒
平均時速	19.2km/h	最高速度	60.0km/h
積算距離	4324.81km	総走行距離	8320.06km

第56日 7月19日(木) 曇時々晴

浦河町～新冠町

新冠町節婦・ライダーハウス [遊々仙人クラブ]

4時40分起床。6時まで、昨日の日記を書く。朝食をとり、洗濯物を取り入れ、出発準備。天気は曇だが、これまでよりはやや温かそうなので、下はレグウォーマー、上は合羽を着るのみとする。



美しい海岸線

7時30分、ご主人にお礼を言って出発する。風は今日も追い風、国道235号線は萩伏で小さいアップダウンがあったものの、後はずっと平坦で快走した。風景も沿岸に沿って遠くまでよく見える。とても美しい景色だ。道の駅「みついし」で競走馬の牧場見学についての資料をもらう。女性の事務員さんが丁寧に説明してくださった。三石町の本桐牧場に電話すると、どうぞ来てくださいという返事。国道から右折して、約2km走って当牧場へ行く。

事務所で説明をいただき、絵葉書をもらい、どうぞ自由に見学してくださいということで、かつての名馬〈ハギノカムイオー〉を見に行く。約1a（100mの正方形）の柵の中に一頭ずつ悠々と生活している。〈ハギノカムイオー〉は現在28歳、かつて活躍して引退した馬もずっと大切に余生を過ごさせているのだそうだ。牧場内には、いくつもの大きな柵があり、これからの馬がそれぞれ6～10頭ずつ生活していた。

厩舎に行って、生産飼育係の3名の方々に話を聞く。厩舎には、一つ一つの部屋に馬の名前が書いてあり、そこがそれぞれ自分の部屋だ。夜はここで眠る。係の佐久間さんの話では、楽しいことは自分たちが誕生させ育てた馬が、成長して活躍してくれること。苦しいことは、馬が病気になって苦しんだり、亡くなったりすること。日常の仕事は、はじめは苦しいこともあったが、今はむしろ楽しいことになっているということだった。この話は胸にじんときた。

佐久間さんが、〈ハギノカムイオー〉の手綱をもっている所を写真に撮らせてもらう。馬も人間と一緒に、注射や体重計に乗ること、薬を飲むことなど嫌がるそうだ。



ハギノカムイオー・本桐牧場

本桐牧場を後にして、大空と青く広い太平洋見ながら静内に向けて快走する。左手親指が気になる。ポーチを開けることや、ギヤの切り替えの時痛む。突き指と思うが、病院できちんと手当を受けた方がよいだろう。左の肋骨は、抑えると少し痛むが大したことはない。日高三石のコンビニで牛乳を飲み、整形外科医院を尋ねると静内のセイコーマートの近くにあるという。木曜日で診療は午前中なので、スピードを上げて走り、11時50分に到着する。

菊池整形外科でレントゲンを撮り、診察を受ける。左手親指第二関節が骨折しており、親指をギブスで固定しなければいけないという。少々ショックだったが仕方ない。“左手親指を使わないで、運転できますか？”と聞かれ、“できます。”と応える。予定通り旅を続



青く広い太平洋

けることにする。紹介状を書いてもらい、一週間毎に病院で診てもらいなさいと指示をいただく。保険証の写しを提出したが、診療費8,200円は痛かった。

病院を出て、静内のレストラン「天政」で昼食。刺身定食840円を食べる。ごはんは大目にしてもらおう。コーヒー付きで安かったしおいしかった。

新冠町に着き、道の駅「サラブレッドロード新冠」に行く。ハイセイコーの銅像があった。ここでも競走馬の見学について聞く。競走馬のふるさと案内所を教えてください。また、ライダーハウスは「遊々仙人クラブ」がよいと勧められる。早速、電話するとOKということで、ここから4km先の節婦まで走りほどなく到着する。

ライダーハウスに荷物を置き、母屋の方へ呼ばれる。オーナーの中村さんご夫妻、旅行者の黒田さん(20代の女性)、南さん(30代男性)、二井矢さんご夫妻(広島県安芸郡)と歓談する。入浴も洗濯もさせていただき、夕食もここです。食後のコーヒーもよばれる。宿代は100円以上いくらでもよいとのこと。この代金はすべてユニセフに寄贈されるそう。殊勝な方だ。とても親切にしてください。つづけて、お酒もよばれて歓談する。22時退出。ハウスに戻って就寝。



遊々仙人クラブ・オーナーの中村さんご夫妻

【追記】迫口さんから電話があり、白老町の畠中直さん宅に泊まるように連絡してあるからということで、ありがたく畠中さんに電話する。歓迎するとの返事で、21日(土)の宿泊をお願いする。

※ 今日のデータ	出発	7時30分	到着	16時00分
	走行距離	59.50 km	走行時間	2時間52分30秒
	平均時速	20.6 km/h	最高速度	? km/h
	積算距離	4384.31 km	総走行距離	8379.56 km

第57日 7月20日(金) 雨

新冠町

新冠町節婦・ライダーハウス [遊々仙人クラブ] 連泊

6時起床。夜中、肋骨の状態よくない。明日も病院へ行こうと決める。昨日の日記を書き終えて、7時30分オーナーに菊池医院へ連れて行っていただくようお願いする。OKということで、8時30分オーナーの車で病院へ向かう。黒田さんも、



自転車旅行中の南さん・黒田さんと

捻挫の足を診てもらおう。雨の中を9時前に到着。患者さん何人か来ていたが30分もしない内に診てもらえた。レントゲンの結果、“肋骨にひびは入っていないようだ。入っていても軽い。当面は湿布をして様子を見よう。次の医者にもう一度見てもらうように。”ということだった。何かはっきりしないが、一応大事にはならずほっとする。黒田さんの捻挫も軽かったようだ。

帰りに、ホームセンターとマックスバリュに寄り、大きなゴム手袋(雨の日でも

濡れずに走れるように)と昼食・夕食・朝食を購入する。腹にさらしを巻いて寝るとよいということで伸縮性のマクラカバーを買った。

今日は雨で進めない。11時過ぎ早めの昼食(ごはんと温めたカレー)。午後は、身辺整理と計画の見直しをし、日誌を書く。畠中さん宅に、雨と負傷で新冠に留まっている。そちらへは22日(日)の予定と電話する。妻に負傷のことを電話する。「日高ケンタッキーファーム」に明日の見学お願いの電話をする。“9時～17時、いいですよ。雨でも馬は見れますよ。きてください。”ということであった。明日は、大雨の時以外は出発することに決める。南さん・黒田さんから誘われている「青森ねぶた祭り」も見たいが日程が合いそうにない。

夕方は、テレビで大相撲観戦。夕食は、ごはんとコロケ3種、みんなと一緒に楽しくとる。食後は、黒田さんの友人から差し入れのメロンと焼酎をいただきながら歓談する。

今日は一日中雨だった。奥様には、今日も洗濯、入浴、コーヒー等いただく。

※ 今日のデータ 起床 6時00分 就寝 22時00分

午前 菊池医院へ・新冠町で買い物 午後 中村オーナー宅で交歓

第58日 7月21日(土) 小雨

新冠町～富川町

6時目覚めたが、雨なので出発しないで、静内へお土産を買いに行くことにする。7時30分まで寝て、中村オーナーに相談する。買い物OKということで、朝食をとる。8時には雨は小降りになってきたので、買い物に行き、昼前に出発することに決める。8時30分中村オーナーの車で奥様と三人で買い物に行く。

中井水産直売所で、日高昆布(300g900円×10コ、150g450円×10コ)を9月4日到着で購入する。帰りに、マックスバリュ果物売場でフルーツの盛り合わせを購入、お世話になっているお礼に奥様にプレゼントする。

11時、宿に帰着。出発準備をする。南さん・黒田さんも出発したいと言っている。雨天走行の完全装備で、12時玄関で写真撮影。握手を交わす。

12時05分、手を振り合って出発する。小雨が降っている。国道235号線、大小のアップダウンがあったが、強い追い風にも助けられて、20km/h以上のスピードで快走する。雨で景色はよく見えない。ほぼ、海岸線に沿って進む。

門別を過ぎて、上り坂を登って少し行った所にセイコーマートがあった。「日高ケンタッキーファーム」はもう少し先で右折の予定なので、店員さんにあとどれ位行った所で右折か聞くと、この手前の信号から入った方が近いと、買い物に来ていたおじさんと一緒に親切に行き方まで教えてくれる。北海道の人は、

富川町・ライダーハウス[西陣]



ライダーハウス「遊々仙人クラブ」



「日高ケンタッキーファーム」

四国・沖縄の人と同様でみんなとても親切だ。

13時30分、「日高ケンタッキーファーム」に着く。このインストラクターの方が、すぐに私の所へやってきて、“日本一周しているのですか。名馬がいますよ。いろいろイベントもありますよ。”とケンタッキーダービーの馬券を無料でプレゼントしてくれる。名馬を見たいと言うと、“今日は雨で厩舎に入っているが、…”と、98” 秋天皇賞で優勝した<オフサイドトラップ>、97” 安田記念で優勝した<タイキブリザード>を見せてくれた。馬はさすがにきれいな体をしていた。このインストラクターは松下さんといった。

ケンタッキーダービーのいただいた馬券で5馬の内4番マルコプリンセスにかけた。この馬と3番のサツキグループが抜きつ抜かれつの接戦を演じたが、最後のカーブでマルコプリンセスが抜き去り1着でゴールした。挽馬競馬に続いて、今回も当選した。賞品に乗馬券をいただき、乗馬体験をすることにした。



乗馬体験

乗馬した馬は、スリンガー（牝馬）、インストラクターは石川彩子さん。彼女は東京の人で高校卒業後、馬の専門学校（東京）に学び、本年この北海道の日高ケンタッキーファームにやって来た。ホヤホヤの馬牧場のインストラクター（まだ身分は研修生）だ。馬の乗り方、手綱の使い方（出発・止まれ・左右へ曲がる）等を教わり、柵内で約10分、牧場内を約20分乗馬歩行した。高さが以外に高く感ずる。だいたい思うように動いてくれて、マリンガーと石川さんに感謝したい気持ち。楽しく乗れた。この時、雨はやんでいた。



ライダーハウス「西陣」

ここから宿泊地富川町までは30分かからなかった。ライダーハウス「味処・西陣」に着き、荷物を解き、部屋に入れる。入浴は「中村亭」であるが、無料券をいただき入浴に行く。帰りに、スーパーで夕食、朝食を購入し宿でゆっくりと落ち着く。今日はお刺身で晩酌をした。

21時30分頃、同宿者が二人やってきた。バイクで旅行中の人だ。おそかったので、あいさつ程度の話で、22時就寝した。

※ 今日のデータ	出発	12時05分	到着	17時00分
走行距離	37.02 km		走行時間	1時間55分27秒
平均時速	19.2 km/h		最高速度	? km/h
積算距離	4421.33 km		総走行距離	8416.58 km

第59日 7月22日（日） 曇後晴

富川町～白老町

白老町 [畠中直氏宅]

6時起床。外の天候曇だが、気温はこれまでよりは高そう。「西陣」をバックに写真撮影。同室者に撮ってもらう。朝食を済ませ、荷物をまとめる。出発準備をした後、昨日の日記を書く。

9時30分出発。国道235号線、追い風に押されて緩やかな長いU.D.（以後、アップダウン）をいくつか越えて走る。門別競馬場は今はやっていない。主に旭川でやっているそう。

鵜川町の道の駅「四季の館」で、「社台ファーム」の場所、行き方を尋ねる。〈ディーブインパクト〉を見るためだ。ここで畠中さんへのお土産を買う。ここからは、平坦な直線道路を走り、厚真という所で右折、道道287号線に入る。上厚真からほぼ直線の田園地帯を北上していく。「四季の館」で聞いた通りの道で、間違わずに「社台ファーム」に到着する。12時過ぎだった。



ディーブインパクト

〈ディーブインパクト〉や各名馬が、それぞれの柵の中に放たれていた。30名ばかりの見学者が、すべて〈ディーブインパクト〉を目当てに見学カメラを向けている。私も見学台に上がり見学、写真を撮る。近くに来て30m位離れているし、柵もあるので大きくきれいな写真は撮れない。〈ディーブインパクト〉は引退したとはいえ、動きが軽快で、時折走ったりはねたりしていた。他の馬も、有名な馬だそうだが、私には名前は分からない。約1時間見学して、ここのレストランで昼食をとる。鴨ラーメン(700円)。14時出発する。



苫小牧

道道482号線から国道234号線に入り、苫小牧に向かう。南下する方向なので、やや向い風となるが、道は平坦でひたすらこいで白老町をめざす。この頃から、空は晴れて真青になる。

苫小牧市は、軽工業都市という感じだった。都心を過ぎて日本製紙苫小牧工場があった。朝見さんのために写真を撮る。さらに南下して、青葉というあたりから、右手に遠く支笏湖周囲と思われる山が見えてくる。頂には雲がかかっていた。

左は太平洋、長い長い砂浜が続く。太平洋の空は雲一つなくなってきた。

「いといの湯」を過ぎて、真直ぐに南下。白老町に入る。畠中さん宅は、白老町役場からさらに16km下った所の竹浦にある。17時到着の予定にしているので、懸命にこいで行く。17時45分ようやく目当てとなる竹浦「北海道リハビリテーション病院」に着く。電話をすると奥様が迎えに来てくださった。

あいさつをして、入居。ご自宅には温泉が引いてあり、露天風呂を作っておられる。早速、入湯させていただく。すべすべして、疲れがいっぺんに取れるような感じだ。風呂から上がると、すぐに夕食、懇親会となる。清酒〈男山〉を飲み交わしながら、お刺身やカニなどご馳走をいただきながら、歓談する。畠中さんは、現在80歳。元は町の職員で、主として消防の方に勤めておられた方だ。五十歳で退職し、旅を続けておられる。キャンピングカー一台と改造車一台を持っておられ、一年の内三分の二日は日本全国を旅しておられる。易学の免許、整体の免許も持っておられる。



畠中直氏ご夫妻

洗濯もしていただいて感謝。二階に休ませていただく。22時就寝。

※ 今日のデータ	出発 9時30分	到着 17時45分
走行距離	98.33 km	走行時間 5時間17分33秒
平均時速	18.5 km/h	最高速度 60.2 km/h
積算距離	4519.66 km	総走行距離 8514.91 km

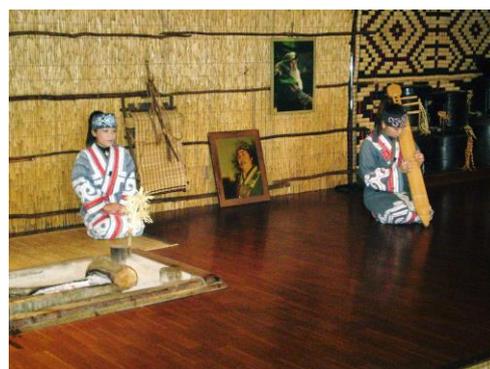
第60日 7月23日(月) 曇後晴

白老町～室蘭市

室蘭市 [室蘭YH]

6時起床。昨日の日記を書く。朝の温泉に入り、8時朝食。卵焼き・納豆・みそ汁等いただく。たいへんお世話になる。

今日は霧が深い。9時過ぎにご主人に車で「ポロトコタン」見学につれて行っていただく。アイヌの生活や文化について展示資料を見たり、話を聞いたり、歌や楽器、踊りを見学したりした。中でも興味深かったのは、口琴ムックリで、風や川の流れなどを表現していた。古式舞踊<イオマンテリムセ>も興味深かった。



アイヌの住居・服装・楽器

アイヌは「人間」を意味するアイヌ語で、ポロ(大きな)、ト(湖)、コタン(集落)ということだそう。カヌーのような舟は、太い一本の木をノミでくりぬいて作る。一艘つくるのに一人の作業で一月位かかるとのことだ。

11時帰着し、出発準備。奥様手作りのおむすびをもらって、11時30分出発する。霧が深く景色はまったく見えない。ほとんど真直ぐな平坦な道で、国道36号線を室蘭に向かう。登別でマリパークとJR駅前に立ち寄ってみる。再び国道



雲海に浮かぶ断崖・トッカリショ

36号線に戻り海岸線沿いに進む。霧が水滴となりメガネや顔が濡れてくる。幌別のコンビニで休憩、鳥の皮串を買って、奥様にいただいたおにぎりと一緒に昼食をとる。

室蘭市に入り、地球岬方面への道を取り、少し上ると「室蘭YH」に到着した。14時だった。受付をし、市内観光についてたずね、荷物を部屋に入れて、身軽くなって市内見学に出かける。約7kmの曲がりくねったU.D.の道道919号線を走り、地球岬に向かう。途中、トッカリショという所で、雲海の中から断崖の山の部分が浮かんで見える珍しい景色が見えた。止まって写真に収める。



日本一周中の吉岡正彦さん

ここで、私と同じ自転車日本一周をしている大阪の吉岡正彦さんに出会う。彼は54歳、網膜剥離と診断されて、目が見える内に日本を周りたいと仕事を退職、時計の逆回りに日本一周をしている。お金を使わないということで全てテント泊、食事も自炊で行っているし、充電装置等たくさんの工夫をしておられる。

トッカリショから坂道を登って峠を越えて地球岬に至る。YHを出るとすぐに霧が晴れてきたので、地球が丸く見える水平線が見えるかと期待する。はたして、地球岬に立ってみると、太平洋には遠くの水平線上に霧がかかり残念ながら水平線は見えなかった。白亜の灯台をバックに写真を撮る。



地球岬

ここから、山を下って室蘭駅に至る。長崎屋という大きな百貨店があった。ここからは道道699号線を走り、白鳥大橋のそばを通過して絵鞆岬に立った。ここでは霧が深く、眺めは全くだめだった。白鳥大橋が霧（雲）にかかり、上の部分だけ長く見えていた。帰りに道の駅「みたら室蘭」に寄り、白鳥大橋を展望する。ここからは全景がきれいに見えた。美しい。

道道699号線を引き返し、途中「室蘭観光案内所」でパンフレットをもらい、長崎屋に寄って、夕食を購入する。ここから国道36号線を走っていたところ、自転車の走れない高速道路に入ってしまう、車の運転手に言われて気が付く。丁度、ランプの入口だったので一般道に戻り、事なきを得る。

輪西から右に坂を登ってYHに帰着する。丁度、夕日が沈むところで、真っ赤な円い太陽が室蘭の山に沈んでいった。この時、中学生が二人“日本一周、すごいですね。どこからですか？”と聞いてくる。さらに、“室蘭の焼肉食べましたか？”と聞く。焼肉が室蘭の名物と、ここで知った。



室蘭YH

帰着後、入浴。夕食。洗濯。8人の人にメール。23時就寝する。

※ 今日のデータ	出発	11時30分	到着	14時00分
走行距離	28.01 km	走行時間	1時間36分27秒	
平均時速	17.4 km/h	最高速度	33.0 km/h	
室蘭市内観光	出発	14時20分	到着	17時30分
走行距離	31.49 km	走行時間	1時間49分54秒	
平均時速	17.1 km/h	最高速度	47.8 km/h	
積算距離	4579.16 km	総走行距離	8574.41 km	

第61日 7月24日（火） 晴

室蘭市～長万部町

長万部町 [長万部公園キャンプ場] テント泊



室蘭焼肉弁当

4時30分起床。6時20分まで日誌を書き、朝食をとる。吉岡さんよりメールあり、昨夜はイタンキ浜にキャンプしたとのこと。返信する。天気は快晴、風もなし。7時40分出発する。

国道37号線に行く。室蘭市内で弁当屋さんを見つけて、昼食に「室蘭焼肉弁当」を購入。お茶も付いて490円安い。市街地を出ると、いきなり長いU.D.の大きく曲がった道となり、それもいくつも連続している。つら

いが観念してこいで進む。左手に新日本精製製油所の大きな工場が並ぶ。白鳥大橋が朝日に照らされて、とても美しい。本当に白鳥が大きく羽を広げているようだ。黄金（こがね）からは多少向い風ではあるが、平坦な道になり気持ちよく走る。

道の駅「だて歴史の社」で小休憩。伊達市は戦国時代の後、伊達家の人々がこの地に開拓して入って開いた所だそう。

このあたりから、有珠山・昭和新山がよく見え



白鳥大橋



有珠山



昭和新山

るようになる。遠くには羊蹄山も、少し雲にかかっているが、高くそびえている。何枚も写真を撮る。有珠山は煙は昇っていなかった。

洞爺から小さなU.D.を越えて、道の駅「とよら」に到る。ここで昼食にする。室蘭で購入した「室蘭焼き鳥弁当」を食べる。美味だ。食後にソフトクリーム（いちごとかぼちゃのミックス）もおいしかった。稚内から来られたご夫婦より、旅のことをいろいろと聞かれる。

13時出発。小さいトンネルを三つ抜けて、大岸に到り、ここから上り坂となる。かなり登りトンネルを抜けて礼文に下る。上ったらつぎの峠まで下らなければよいのと思うが、道は思うことを聞いてくれない。礼文から延長5.7kmずーと登っていった。標高175mの礼文華峠とあり、なかなか峠までは長かった。ここを越えて下って行き、つぎの峠標高150mの静狩峠にまた登って行くものと覚悟していたが、礼文華峠から下っ

て行って平坦になり、そのままの状態静狩峠となり、再度の登りはなくて助かった。静狩峠を過ぎて、どんどん下って行って太平洋に出る。ここからは海岸線沿いの真直ぐな長い直線道路となり、風もなく快走する。

長万部市街に入り、役場に行き旅行中の参議院選挙の投票の方法はあるか尋ねる。可能なようだ。ただ、手続き上日数が間に合いそうにない。もっと早く対処すればよかったと思う。

スーパーで食料を購入し、長万部公園キャンプ場に入る。受付を済ませテントサイトに行くと、すでに二人のチャリダーの方がテント設営しておられた。一人は名古屋の伊藤さんで日本一周中、もう一人の方は退職された方で札幌の高田さん、この方は北海道を旅しておられる。ベンチ・テーブルもあり、テント設営し身辺整理のあとこのテーブルで夕食をとる。夜、三人で明かりをつけて交歓する。



長万部公園キャンプ場・伊藤さん

長男の啓にメール、二男潤には電話つながらない。22時就寝。

【今日の夕食】ライス大213円・アジのフライ55円・ポテトサラダ198円・

切干大根100円・うにくらげ248円・ビール2缶370円

※ 今日のデータ 出発 7時40分 到着 17時00分
走行距離 89.68 km 走行時間 5時間58分08秒
平均時速 15.0 km/h 最高速度 ? km/h
積算距離 4668.84 km 総走行距離 8664.09 km

第62日 7月25日(水) 晴

長万部町～森町 森町砂原・道の駅 [つーどるプラザ・さわら] テント泊
5時起床。テーブルに朝食を置いて洗面に行く。帰ってみると朝食をカラスに食べられていた。大失敗。今日の朝食は、薄皮クリームパンにバターとチョコ入りのコッペパン、それとおいしい牛乳だったのに。隣の伊藤さんから、小型のパン4個いただく。すみません。ありがとうございます。

トイレ等の清掃員の方は、早朝5時から作業に来ておられる。感謝です。6時30分まで、昨日の日記を書き、出発準備をする。荷物は自転車に取り付けたままで、大カバーをかけていたので、準備作業は大分楽だった。

7時45分出発。出発してすぐのコンビニで、牛乳とおにぎりを購入、朝食の追加とする。国道5号線に出て、森町に向かう。今日は向かい風、平坦で真直ぐな道だが、スピードは出ない。時折、強い向かい風となり12 km/h位まで落ちることもある。国縫のバス停で、由宇支所の豊中さんにTEL。旅行中でも選挙できる方法があるということで、その手続きについて話をしたが、時間的に無理とわかり選挙は断念する。ここで、函館の毛利剛さんにもTELする。



名物「いかめし」

黒岩、山崎と通り八雲に到る。昼食は、森町に名物「いかめし」があるということで森町まで走ることにする。落部あたりで、毛利さんからTELあり、“函館に自分で宿を開設した。無料である。どうぞ。”ということで、毛利さんの宿に27日(金)、28日(土)連泊することに決める。



駒ヶ岳の威容

石倉あたりから、駒ヶ岳の威容が眼前に見えてきた。二つ連なる山の姿は美しく、威厳を感じる。何度もズームを変えて撮影する。

13時、森町に入り森駅に行く。駅売店で、名物「いかめし」を購入。小さな折詰だったが、二匹のいかの中にごはんが入っている。珍しい作り方だった。結構おいしかった。森町の道の駅でキャンプと考えていたが、時間がまだ早いのでつぎの道の駅「つーどるプラザ・さわら」に行くことにする。

走りながら、間近に迫る駒ヶ岳は山肌がはっきりと見える。まもなく、「つーどるプラザ・さわら」に到着。事務員の方にキャンプをお願いすると、とても親切に芝生の中でもいいし、東屋の中でもいいと言ってくれた。屋根があり、床は板張りでテーブルとイスもついている東屋にテントを設営する。自転車はテーブルにもたれかけて、荷物も取り付けたままで貴重品と必要なものだけテント内に入れる。

携帯電話の電池が少なくなっていたので、駅の事務員さんに充電をお願いすると、快く応じてくださった。外の流しで洗濯をして、芝生の木と木にロープを張って干す。

近くのスーパーとコンビニに夕食と朝食を買いに行く。テーブルで、明るい内に夕食がゆったりとできた。こういう時のビールと刺身・とうふは特にうまい。

高広さんにTEL。松田君からもメールが入っていたのでTELする。陸上少年団も、指導者大変のようだが、キャンプや大会等も含めてとてもよくやってくれているし、子どもたちも頑張っているようだ。幸子・靖夫・朝見さん・豊中さんからメールが入っている。20時就寝。

※ 今日のデータ 出発 7時45分 到着 15時20分

走行距離	75.94 km	走行時間	4時間13分17秒
平均時速	17.9 km/h	最高速度	60.2 km/h
積算距離	4744.78 km	総走行距離	8740.03 km



つどるプラザ・さわら

第63日 7月26日(木) 晴

森町～函館市恵山

函館市恵山 [恵山海浜公園] テント泊

4時30分起床。洗面後、身辺整理。6時30分まで、日誌を書き、会計簿をつけ朝食をとる。今日も晴れ。うれしい。洗濯物も殆んど乾いている。



共生丸のご家族

8時出発。国道278号線を恵山に向かう。車もそんなに多くなく、朝日に照らされて右手の駒ヶ岳が輝いて見える。左手は太平洋、沖にはたくさん漁船が漁に出ている。遠くはかすんでいて室蘭方面の山々は見えない。U.D.も余りなく気持ちよく、新鮮な空気に当たりながら進む。

鹿部町に入り、鹿部湧水園で駒ヶ岳の水を汲みたかったが、入口で進入禁止になっていた。

鹿部漁港で、漁船のそばに年配の漁師さんがおられたので、漁について尋ねてみる。この方は8

3歳で、息子さん夫婦と三人で漁業を営んでおられる。漁は、今日はカレイを上げてきて、市場に出荷してきたとのこと。まもなく、息子さん夫妻とお孫さんがやって来られて、息子さんにも話を聞く。漁は、今はカレイとタコだ。魚類は定置網で、カレイ・ニシン・スケトウタラ・マグロなど。タコは箱を仕掛けておく。とのこと。今日は10km沖の網を上げてきた。タコは室蘭沖に仕掛けていそう。写真を撮らせてもらおう。船の名は「共生丸」という。

漁港からすぐの100m行った所に、「しかべ間歌泉公園」があり、入場する。約10分毎に間歌泉が吹き上がる様子は壮観だ。足湯温泉(無



しかべ間歌泉公園

料)もあり、他のお客さんと一緒につかる。ほどよい温かさで、少しすべすべしていて、気持ちよかった。

ここから10km走った所に、大船遺跡があったので見学してみる。縄文時代の遺跡・遺物が発掘された所だ。高さ30cm位の土偶、多くの壺、甕などが展示されていた。人骨も発掘されたという写真もあり、興味深かった。竪穴式住居跡も見る。古代の人々の生活がしのばれる。

ここからさらに10km走った南茅部という所で、昆布が天日干しでなく、日陰に吊るして乾かしている所を多く見るようになる。昆布を吊るして干してある所におられたご夫婦に、どうして日陰で吊るして乾かすのか聞いて見た。答えは、“地面に広げて干すと、場所が広く必要だし、手間もすごくかかる。屋根を作って吊るすと、場所は広くなくていいし、作業も早くできる。今は需要も多く、大量生産が必要なので、この方法でないと追いつかない。”と言われた。



土偶・大船遺跡



昆布養殖場・杉林さん

この漁師さん、杉林さんという。私に興味を持たれたようで、船で沖へ出てみないかとされる。願ってもないことで、出てみたいとお願いする。小型の船で約1km沖に出る。亀田半島の山々を見る。海から見る風景も美しい。少し遠くに駒ヶ岳も見える。海は青くきれいだ。昆布養殖の円い浮きの仕掛けてある養殖場に行って昆布を見る。太く長い昆布がきれいに並んで底に向かってぶらさがっている。杉林さん、カギのついた棒でその一つを引っ張り上げて見せてくれた。重たそう。

私も引っ張り上げようとやってみたが、重たくてうまく上がらなかった。こんな体験はそうできるものではない。ありがとう。

岸に戻り、ご夫妻にお礼を言って再出発する。尾札部の商店で、パンと野菜ジュースで昼食をとる。ここから、覆道やトンネルをいくつか抜けて檜法華に到る。恵山が見えてきた。火山というにふさわしい偉容だ。ここで、日本一周中の神戸大4年河野さんとすれちがい、健闘を誓い合う。

ここから、なだらかな坂を越えて今日のキャンプ地「恵山海浜公園」に到着する。道の駅「なとわ・えさん」のそばにあり、海辺に沿った芝生のきれいなキャンプ場だ。遠く右手方向に下北半島の山々が見える。私も含めて4張のテントが張られる。テント設営、荷物をテント内に入れ、恵山「浜の湯」に入湯に行く。地元の方々利用の浜にある露天風呂、男女混浴だ。働き盛りの男の方々と数人のおばあさんも一緒だった。こういう素朴な温泉(無料)がいい。



恵山・恵山海浜公園より

コンビニで夕食・朝食を購入。道の駅のテーブルで夕食をとる。テント泊のロッククライミングの若者と話を交わす。

妻と7人の人に写真入りでメールする。夜は、沖合いに漁の明かりが4つ光々と

光っていた。22時就寝。

【追記】夜の沖合いの漁の光は、イカ釣り漁船の光だと後から聞いた。〈いか〉は函館の名産だそうだ。

※ 今日のデータ 出発 8時00分 到着 15時00分
走行距離 67.09 km 走行時間 3時間43分43秒
平均時速 17.9 km/h 最高速度 43.5 km/h
積算距離 4811.87 km 総走行距離 8807.12 km

第64日 7月27日(金) 晴
恵山～函館市



恵山海浜公園キャンプ場

函館市 [毛利剛氏宅]

4時起床。洗面、近くのコンビニに携帯電話の充電をさせてもらう。ここで、昨日の日記を書き、朝食をとる。今日も快晴、風も弱い。夜露がかなり降っていたので、テントの露を拭き取り、乾いてからテントを撤収する。

7時45分出発。いざ出発してみると、向い風がきつくゆっくりでしか走れない。晴れているが、遠くはかすんでおり下北半島は見えなかった。やや長いトンネルを二つ抜けて、大体平坦な道を走る。

まもなく戸井という所あたりで、重そうな荷物を背負って函館方面という大きな表示をその荷物にぶらさげて、歩いて旅をしている若者に追いつく。この人、西山繁さんという香川県の方で27歳。昨年4月出発し、香川→和歌山→下関→鹿児島→沖縄(波照間島・与那国島へも行き)→鹿児島→下関→(日本海側)→青森→北海道(右回り)という。これから、→青森→(太平洋側)→和歌山→香川と、およそ一年半かけて日本一周するという。すごい。荷物は25kg位。一日平均30km進むそうだ。宿はすべてテント泊という。すごいバイタリティーだ。頭が下がる。



徒歩日本一周中の西山さん

汐首岬では、マグロ漁船の漁を終えて帰ってくる所を写真に撮るといふ人に出会う。大型のカメラを三脚にセットして待ち構えておられる。マグロ漁船の勇壮さが何とも言えないのだそうだ。山では、狐その他の動物も撮ったりするそうだ。本当に色々な人がいるものだ。

さらに進んでいると、ママチャリでトレーニング中の人を追いついて来て、声をかけられる。この人、函館の方で私と同じ67歳。元競輪の選手で防府競輪にも何度か出場されたことがあるそうだ。44歳で現役を引退された。今はお腹も出て体重も増えているので、マラソンやママチャリでトレーニングをしているとのこと。しばらく、話しながら並走する。

ずっと向い風の中、ようやく湯の川温泉に至る。ここに、湯の川温泉整形外科という病院があったの



マグロ漁船を撮るカメラ愛好

で、指と肋骨を診てもらおう。指と胸のレントゲンを撮り、診察。“指はずれたりしていない。まだついてはいないので、今まで同様固定しましょう。”ということであらためて固定する。“肋骨はひびが入っている様子はないので、今の湿布を貼ってみてください。”ということで、“また一週間後に経過を診てもらいなさい。”と菊池医院の紹介状に書き足して下さった。このあたりは温泉街で、大きな温泉ホテルが林立していた。

函館市内に入り、〈元祖もんじゃ焼き〉という店があったので昼食にする。話には聞いていたが、初めてもんじゃ焼きを自分で作ってみた。要領を説明書を見ながら理解して作ってみる。何とかうまく焼けた。おいしかった。でも少し少なかった。

「土方歳三浪漫館」に着き、今日の宿・毛利さんにTELする。すぐに迎えに来て下さった。



「・」で、宿主の毛利剛さんと

毛利さん宅は、日の出町20。自宅の隣の家が、ご両親様の住まいであったが、亡くなられてから改装して、旅人の宿にされたとのこと。ご自身は長く自転車レースに出ていたが、近年日本一周の方に接し興味を持たれて、4～5年前に日本一周されたそうだ。その時に多くのチャリダーに出会い、この方々のために役立ちたいと思い、最近になって無料宿をはじめられたとのことだ。今も、宿を改装整備中。

近くを車で案内してもらおう。身辺整理をしてから、自転車をみてくださる。ブレー

キシューがかなりちびているということで、毛利さんが取り替えてくださる。夕方、「日の出の湯」に入浴。洗濯も洗濯器を整備してもらって、させていただく。夕食は、二人で鍋を囲んで酒を飲み交わしながら歓談した。

【追記】毛利さんの宿の名は、「・」。毛利さんの名は「自・人」。おもしろい。

※ 今日の日データ	出発	7時45分	到着	13時30分
	走行距離	40.20 km	走行時間	2時間44分49秒
	平均時速	14.8 km/h	最高速度	40.9 km/h
	積算距離	4852.07 km	総走行距離	8877.32 km

第65日 7月28日(土) 雨

函館市

6時起床。今日は朝から大雨。函館観光できそうにない。7時30分朝食。新鮮な〈やりいか〉の刺身。今朝獲れたまだ生きていた〈いか〉を毛利さんが購入(売りに来る人から買う)し、刺身にしたもの。まだ、透明だ。おいしい。ほっぺたが落ちるとはこのことか。こんなのが食せるとは、本当にありがたい。

しばし宿で待機して、10時、毛利さんの車で大雨の中、函館駅横の「西波止場海鮮市場」に土産物を買に行く。13時過ぎまで2時間かかった。由宇町の自転車クラブC.C.C.会長の岡村さん宅には8月23日付、あとはすべて9月4日付で発送する。昼食は、回転寿司

函館市 [毛利剛氏宅] 連泊



名物〈やりいか〉の刺身

「函太郎」で会食をする。この頃には、雨は上がっており助かった。

午後は、一人で「自由市場」に自転車で行き、啓・潤・弘子さんに新鮮海産物を送る。毛利さんに、広島酒「酔心」を買って帰る。

夕方、昨年・本年と自転車日本一周を完了した山田さんがやって来る。彼女は、一昨年日本一周チャリを思い立ち、一年半練習、仕事も完了させて退職し、昨年5月23日出発、京都から本州→北海道→九州→沖縄と周り、沖縄の小浜島で半年間サトウキビ畑のアルバイトをして過ごし、本年再び沖縄→九州→本州→京都と7月4日に帰着、完走したとのこと。今回は「ねぶた祭り」参加のためにやってきた



同宿の山田さん

ということだ。すごい。テント泊もしっかりやってきたとのこと。彼女は、“景色を見ることもよかったが、人との出会いが一番の宝だ。”と言った。



函館山からの夜景

夕方から、函館夜景見物に行く。自転車で函館駅まで行き、ここからバスで函館山に登る。登頂した時はまだ明るくて、函館市の全景がよく見れた。徐々に暗くなっていき、灯が灯り、美しい夜景が現われてきた。多くの人で賑わっていた。函館湾と太平洋に挟まれて、写真のような形で美しい光の造形美が堪能できた。帰りは、暗い中少々道に迷いながら21時過ぎ宿に着く。

毛利さん・山田さんと三人で宴会。楽しく話し・飲み・食べた。

【追記】函館駅近辺には、赤レンガ造りの倉庫がたくさんあった。今は、観光土産店などの入った観光地になっている。この辺りには西洋風の建築物が数多くあった。

※ 今日のデータ 日の出町～函館駅 往復

走行距離	6.34 km	走行時間	28分51秒
平均時速	13.1 km/h	最高速度	? km/h
積算距離	4858.41 km	総走行距離	8883.66 km

第66日 7月29日（日）曇

函館市内・函館港～むつ市大間町 大間町 [大間崎テントサイト] テント泊
5時起床。日誌をつける。身辺整理。8時朝食、<いかのシュウマイ>をいただく。今日は、午前中は函館観光をするため、自転車に荷物は取り付けずにすぐ積めるようにしておく。

小雨が降りそうなので、上衣に合羽を着用し8時30分出発、五稜郭へ向かう。10分も走ると五稜郭に到着した。早速、展望タワーに上る。函館市内全景が360°見える。人口29万人の都市だ。五稜郭はきれいな星型を形成していて、きわめて芸術的な城郭だ。各種の展示資料を見ながらあらためて土方歳三の人物の大きさに感心する。タワーから出て、五稜郭内を散策する。明治



五稜郭

の初めに奉行所等は取り壊されて、唯一当時の建物として残っているのは、米など食糧を貯蔵していた倉庫だけだ。太い柱を使い、江戸末期の建築物の様子がわかる。この後、「啄木・土方浪漫館」に行き、見学する。

宿に帰り、自転車に荷物をセットして、お礼の一筆を書いて11時50分出発する。JR函館駅に立ち寄り、朝市の風情に触れる。東日本フェリーターミナルで乗船手続きを済ませ、待合所でコンビニ弁当の昼食をとる。



大間崎

まもなく乗船、13時50分出港する。相変わらず、どんよりした曇り空で、展望もはっきりしない。船室で、会計簿・日誌をつける。

15時30分大間港に入港。大間崎に向かう。風が吹いている。本州最北端の地大間崎に立ち写真撮影。弁天島を望む。大間崎テントサイトにテント設営、バイクの旅人が5～6人テントや炊飯棟に宿を取っており、交歓する。この方々から聞いて、フェリー乗場近

くの大きなスーパーまで、夕食・朝食の購入に行く。帰りは大回りをして大間の町を見ながら帰った。炊飯棟は壁も窓もある大きく立派な建物なので、結構暖かい。自炊をしている人もある。外は寒いので、炊飯棟の中でみんなでわいわい話をしながら夕食をとった。いろいろ旅の工夫を学びあうこともできた。ここで、携帯電話・デジカメの電池を充電する。



大間崎テントサイト

20時30分テントに帰り就寝する。

※ 今日の日	出発	8時30分	到着	11時30分	函館市内観光
	走行距離	5.48 km	走行時間	22分18秒	
	平均時速	14.8 km/h	最高速度	25.2 km/h	
	出発	11時50分	到着	15時50分	函館市～大間町
	走行距離	12.42 km	走行時間	44分39秒	
	平均時速	16.7 km/h	最高速度	33.2 km/h	
	積算距離	4876.31 km	総走行距離	8901.56 km	

第67日 7月30日(月) 曇

大間町～東通村白糖

東通村白糖 [サークルK東通店] テント泊

4時40分起床。洗面後、昨日の日誌の後半を書く。天候はどんよりとした曇、風が強い。清掃のおばさんから“<山背>が吹いている。尻屋崎へ向かうのは、南東の風だから大変ですよ。”と言われる。同宿のバイクの人たちは、一人を除いてみんな6時30分の船で北海道に渡る。私は、7時30分、上はアームウォーマーと合羽、下はレグウォーマーで出発する。国道279号線に行く。<山背>はそんなに強くないが、向い風でゆっくり進む。時折、強く吹くことがあり、その時は苦しい。多少のU.D.を越えて、まもなく平坦路になる。左手に津軽海峡を挟んで北海道が見える。3・4日前に走った恵山辺りであろうか。

蛇浦辺りで暑くなり合羽を脱ぐ。下北半島の海は風はあるものの、そんなに波はたっていないく静かな眺めだ。大小の石・岩の多い海岸だった。

赤川台で小休憩、尻屋崎の半島が見える。ここから少し走り、標高100m、上り1.2kmの曲った道を登り、木野部峠を越える。ここから下って行くと大畑に至る。ここの市街で、新潟中越地震の義援金を募集している婦人会らしい方々が募金活動をされていた。200円募金することを尋ねる。民宿数軒有り、コンビニなし、食堂有りということがわかった。大己貴神社で小休憩、ここで民宿にTELする。なかなか厳しい。今はやっていない所、満室の所などで、見つからない。小さな商店でパンとジュースを食べて腹の足しにしておく。



津軽海峡・遠くは尻屋崎

関根で左折、県道266号線を蒲野沢へ向かう。終盤所々ダートの道で、車輪をとられないように慎重に走る。この間、牧場を含む荒涼とした風景だった。

県道6号線に入り、尻屋崎へ向かう。岩屋の「海峡食堂・善」で昼食。ここで東通村役場にTELして、小田野沢にある宿を調べ三軒にTELするが、どれも厳しい。一軒は満室、二軒目は自転車旅行はお断り、最後の一軒はTEL出ない。小田野沢または白糠まで行って宿を探し、なかったら適当な所でキャンプしようと決める。



尻屋崎

快適なシーサイドラインを走り、尻屋崎へ到着する。白亜の洋式灯台をバックに写真を撮ってもらう。高知の団体さんありがとう。岬の先の海は岩石が変化に富んだ風景をつくっていた。岬の草原には、寒立馬が数十頭草を食んだり、横になったりして、のんびり過ごしていた。この草原には草花もたくさん咲いている。のどかな風景だ。

岩屋にもどり、〈ウニ打ち〉をしている作業場に寄ってみる。男女十人ばかりの方が上手にウニの殻を割って身を取り出していた。話を聞くと、今朝獲れたもので忙しいそうだ。殻を割って身の出してきたウニを食べさせてくれる。生地のウニは塩味がきいておいしかった

ここから2km走り左折、県道172・248号線を走り尻屋崎半島を横断し、下北半島東側を南下する。森林の中を走る。U.D.あるが、森林浴をしながら気持ちよく走る。途中、メーターが動かなくなり（感知器近くでは作動するが、遠ざけると作動しない）、右上のサイドバッグに入れて感知させることにして再出発する。

小田野沢に到る。ここから国道338号線となる。小田野沢は国道338号線から左に入らなければならないような標示だったので、白糠まで続けて走る。相変わらず森林の中を走り、海岸の見える白糠に至る。

町の入口に、コンビニ「サークルK」があったので、店長さんにテント設営をお願いすると、快くいいです



寒立馬

よと言われほっとする。このコンビニの横にテント設営、夕食を購入し、今夕は〈温かいおでん〉で一杯やる。洗面・トイレもどうぞということで、とても温かい店長さんだ。さらに、店長さんには空調の機械の音がうるさくはないかと心配までしていただく。本当に心から感謝いたします。

妻にTEL、豊兄にTEL、米山先生と弟靖夫にTEL、朝見さんよりTELあり。この日参議院議員選挙、民主大勝・自民敗北の報道あり。新聞を買って読む。22時就寝。

※ 今日のデータ 出発 7時30分 到着 17時30分
走行距離 100.21km 走行時間 6時間14分23秒
平均時速 16.0km/h 最高速度 60.2km/h
積算距離 4976.52km 総走行距離 9001.77km

第68日 7月31日(火) 曇後晴

東通村白糠～八戸市

八戸市[八戸ゆーゆーランド・新八温泉]

4時30分起床。洗面後、6時20分まで日誌を書く。その後、朝食をとる。店員さんにお礼を言って、7時40分出発する。

天気は、どんよりとした曇、今にも降り出しそう。上衣はアームウォーマーに合羽、下はレグウォーマー。国道338号線白糠の街を南下、白糠漁港から道が狭くなり、小さく曲る急坂となる。とても乗っては登れない。押して歩きながら、道を間違えたかと思いつつ対向の車に合図して聞くが、間違っていない。“もう少し頑張ると峠だから。”と言われ、安堵する。この峠は物見崎という所だった。ここからは下って行き、泊という所を過ぎると、六ヶ所村に入る。高台から海が見えたが、下ってからは海は見えなかった。白糠、泊、出戸と街並みはあるが、その間には民家はなく、森と牧草地帯だった。

国道338号線の二つに分かれる新町という所で、〈青森ねぶた祭り〉に行くか、八戸に向かうか思案したが、「自分の考えはあくまで日本一周が主体、観光・交流はその中でできる範囲で行なう。」ということだから、主眼を変えて青森に行くのは間違いと判断し、左手八戸に向かう。

尾鮫橋の所に休憩所があり一時休憩する。ここ尾鮫沼は白鳥の渡来地で、景色のよい所だ。この時期は白鳥はいない。写真撮影。鷹架橋を渡り再び国道338号線が一つになる。ここからしばらくは、道沿いに沼や湿地が点在していた。高瀬川ではワカサギなどの川魚をする網の仕掛けがあり、舟も出ていた。少し行くと大きななじゃがいも畑で大規模な収穫作業が行なわれていた。



尾鮫沼

国道338号線をさらに南下、海は見え

ない。天ヶ森を過ぎると、右手に仙沼という広大な湿地が広がっており、その向こうに湖面は見えないが、小川原湖があるようすがわかった。塩竈辺りから民家も現われるようになり、三沢市に近づくにつれ、街らしい様子になってきた。

面白い地名で、六川目、五川目、四川目、……一川目と連なっている。三川目の「三陸温泉」で昼食にする。日替り定食〈ビリ辛ラーメンとミニ玉子丼のセット〉を食べる。



じゃがいもの収穫作業

右耳の状態が2・3日前からおかしいので、耳鼻科はないか気を付けながら進む。一川目を過ぎて百石町に入る所で、海側の道道19号線を進むところを変更し国道338号線を進むことにする。ここで、簡易郵便局により、ゆうパックの用紙と定形封筒をもらう。まもなく、国道45号線に乗り、八戸市街に入っていく。下長という所で国道104号線を通り大橋を渡り、少し行って左折して市の中心部に入る。

八戸市は岩国市位の開けた街で、大きなビルや繁華街もある地方都市だ。本八戸駅に行き観

光案内所でパンフレットをもらい、観光の説明を受ける。今日は八戸三社大祭の前夜祭で、明日は本祭と言われる。今日と明日ゆっくり祭り見物をしていこうと決める。耳鼻科を覚えてもらい、コインランドリーや電気店なども覚えてもらう。近くの洲崎耳鼻科で診てもらい、鼓膜炎ということで、耳漏が出ていて、治療を要する。消毒し、薬を注入し、飲み薬をもらう。明日も滞在なら来てくださーいということだった。

その後、コインランドリーに行き、全部洗濯（合羽を着て）をする。洗濯できてよかった。駅の軽食レストランでカレーライスを食べ、八戸三社大祭の前夜祭を見物に行く。会場の市庁は、多くの人でごったがえしていた。夜店もたくさん並んでたいへんな活気だ。いくつもの山車が待機しており、大人や子どもが乗っていたり、周りにいて笛を吹いたり、太鼓をたたいて歌を歌い、すごく盛り上がっている。山車の中には煙をはいたりするものもある。



八戸三社大祭の山車

百貨店「さくら野」・「三春屋」の通りにも、たくさんの山車が並び人々の列でとても自転車では進めない。もう一つ裏の道を通り、今日の宿[八戸ゆーゆーランド・新八温泉]に向かう。コンビニで夜食を買い、21時30分宿に入る。

温泉に入浴し、夜食をとり、仮眠室で23時30分就寝する。

※ 今日のデータ 出発 7時40分 到着 15時30分

走行距離	87.39 km	走行時間	5時間05分24秒
平均時速	17.1 km/h	最高速度	? km/h
積算距離	5063.91 km	総走行距離	9089.16 km

第69日 8月1日(水) 晴

八戸市・八戸三社大祭見物 八戸市 [八戸ゆーゆーランド・新八温泉] 連泊
5時30分起床。朝風呂に入り、朝食をとる。昨日の日記の半分を書き、出発準備をする。天気は快晴。

8時45分出発。快晴の空に、半そで・短パンのユニホームで気持もうきうきする。洲崎耳鼻科で治療してもらい。炎症大分小さくなっているとのこと。明日からはこれをと、飲み薬と点耳用液体薬をいただく。“一週間位で直ると思う。仙台あ



八戸ゆーゆーランド「新八温泉」

たりで、もう一度診てもらおうように。”、と病院を紹介してもらおう。

メーターの電池を購入しようと、自転車専門店でTELするが電池はないとのこと。山田電器に行くことにする。

11時、病院を出て弟靖夫の勤めていた八戸工業大学に向かう。大分遠かった。大学のキャンパスは広々として緑も多く、よい環境の大学だ。学生も高校生が多く部活動を行っていたが、まじめな明るい感じだった。校舎内もよく整っていて、落ち着いていた。市内に帰り、山田電器に行く。メーターの電池2032あり、購入する。ただ、入れてみるがうまく作動しない。特殊なもの

だから店員さんもよくわからない。サイクルショップ「コアカザワ」にTELすると、来てみなさいということで、行く。ご主人に、きちんと作動するようにセットしてもらう。うれしい。

これから、お祭りの見学だ。山車の通るさくら野へ行く。駐輪場に自転車を置いて中心街に行ってみると、通路の両側にはもういっぱいの人がこれからやってくる山車を待っている。かいくぐりながら、いい場所に行くとグループホームの介護員の方が、私にイスをすすめてくれた。ホームの方々の後ろに座って見物する。介護員の方々に連れて来てもらって入所者の皆さんも幸せだと思ふ。介護員の方々にご苦労様と言いたい。



八戸工業大学・正門



大きく豪華な山車

山車は元気で豪華だ。多くの子どもたちが二本の太い綱で山車を引き、綱の中では大人や中学生たちが笛を吹いたり、太鼓をならして先導する。山車の中には、大きな人形や飾りが豪華にセットされている。それも、いろいろと工夫されていて、大きく広げたり、高く引き出したりしてより大きく魅力的に表現している。

三社のグループに分かれて進み、全部で20～30台は出ていたと思う。聞いてみると、単位自治会ごとに出し、毎年新しいものをこしらえるとのこと。費用も労力も大変と思う。17時、最後の山車が行って行進は終了する。

介護員の方から教えてもらった八戸の名物料理店「ぼてじゅう」に行く。八戸名物「うにとあわびのいちご煮」と「かつおの刺身」とビールを注文する。豪華な料理だ。ビールは2本すすむ。

18時30分頃、三社の一つ「神明宮」にお参りし、朱印をいただく。丁度この時、神明宮からの山車の方々が帰ってこられ、私の旅の安全を祈って獅子を舞ってくれ



名物「いちご煮」

た。とても、うれしい。一緒に写真を撮らせていただく。

19時30分頃、連泊の宿「新八温泉」にもどり、入浴。その後、ここのレストランで夕食。八戸名物の「磯ぞうすい」とごはん味噌汁のセットを注文する。「磯ぞうすい」には、うにや色々な磯の魚貝藻類が入っており、とてもおいしかった。

妻・靖夫・弘子・幸子と姪の牧さんにメールを送る。広間で、昨日の日誌の続きと今日の日誌を書き23時30分就寝する。

※ 今日のデータ 出発 8時45分 到着 19時30分
走行距離 50.68 km 走行時間 2時間49分47秒
平均時速 18.0 km/h 最高速度 43.5 km/h
積算距離 5114.59 km 総走行距離 9139.84 km



神明宮の獅子舞

第70日 8月2日(木) 晴後曇

八戸市～久慈市野田村 久慈市野田村 [玉川キャンプ場] テント泊
5時起床。朝風呂入浴。東川先生・森重さん・ゆうスポーツクラブ・朝見さんへメール。出発準備。

6時50分出発。天気快晴。出発してすぐのコンビニで、サンドイッチ・牛乳で朝食。市道から平中にて国道340号線に入り、八戸市の中心街三日町通りを通る。早朝の祭り明けの三日町通りを写真撮影。おじさんから、“どこから来たの？、今日はどこまでいくの？”、“気をつけて”と声をかけられる。



第81共徳丸の山崎さん

ここから、県道1号線を進む。まもなく左手に八戸漁港、寄ってみる。岸壁には数隻の大小の漁船が停泊していた。大きなイカとり漁船「第81共徳丸」の船員さん二人にあいさつをすると、“今朝とれたイカの煮物だが、食べてみないか？”と皿にのせて3匹くださった。お二人ともとても気風のいい方で、旅のことを聞かれたり、私からは船や漁のことを聞いたり楽しく会話する。ついでに“ご飯もどうぞ”と魚飯もいただく。イカもごはんも全部よばれた。

船に乗って、船室も見せてもらう。イカは網で囲んで捕獲するのだそうだ。それもイカ漁は7月・8月の一ヶ月間だけで、年間ではサバ・イワシなど色々な魚をとるということだ。とり方は全部同じ方法だそうだ。漁労長さん(船で一番えらい人・位は船長の上)より名刺をいただき、特によく接していただいた船員の山崎力さんの連絡先を教えてもらって、お礼を言って出発した。

蕉島にはウミネコで有名な蕉島神社があり、石段を登ってお参りした。島といっても陸続きで、本当にウミネコだらけだった。ウミネコは成鳥は白いが、ヒナは茶色で成長とともに色が変わっていくのだそうだ。

ここからは、県道1号線を海岸線に沿って走る。



ウミネコの蕉島



サーフィンの仲間達・大須賀海岸

小さなU.D.の連続で、結構疲れる。大須賀海岸の見える所で、サーフィンをする若者男女数人のグループと話をする。大須賀海岸は遠浅でサーフィンのポイントだが、今日は波が今ひとつで波が高くなるのを待っているという。結構格好いい。

種差海岸の展望台から見る海岸線も美しかった。おばあさんが二人おられ、密漁の監視をしていると言われた。密漁者がいるのだと複雑な気持ちになるとともに、認識を新たにした。

種市町の保育園では、園児たちがプールで水遊びをしていた。この間もずっと小さなU.D.の連続だった。種市町の中心街から国道45号線に入る。“種市町から久慈市まではコンビニもないよ”ということだったので、ここのコンビニで、うどんを食べる。

国道45号線も、中程度のU.D.が連続していた。宿戸を過ぎ、有家大橋、桑畑大橋を渡り、さらに岬峠を越えて久慈市に下って行った。朝からU.D.の連続だったので、やっと着いたという気持ちだった。明日の三陸海岸のU.D.はもっともっと大変らしい。

久慈市街に入り、久慈駅裏の「いっぷく亭」という店で昼食、休憩。久慈市からは、ゆるやかな峠を越えて野田村に至る。ここに海鮮スーパーがあったので刺身など夕食・朝食を購入する。

玉川キャンプ場は、入口がわかりにくかったが、来てみると諸設備も整っていて、芝生もきれいに刈ってあり、静かなよい環境のキャンプ場だった。テント設営を東屋の中にする。まもなく、仙台から二泊三日のバイク旅行という酒井さんがやってくる。彼は立派なテントを持ち、コンロ・ライトなどの装備もよく工夫していて、とても参考になった。旅の話を色々と交歓する。おばあさん手作りというおいしい漬物をいただく。



バイク旅行の酒井さん・玉川キャンプ場

妻より電話あり、台風○号が近づいているとのこと。影響の少ないことを願う。

※ 今日の日データ 出発 6時50分 到着 16時40分

走行距離	91.69 km	走行時間	5時間38分39秒
平均時速	16.2 km/h	最高速度	52.6 km/h
積算距離	5206.28 km	総走行距離	9231.53 km

第71日 8月3日(金) 曇後晴

久慈市野田村～宮古市

宮古市 [YH末広館]

5時起床。妻にTEL.台風は3時頃山口県を通過したが、大丈夫とのこと。天気は曇。日誌をつける。酒井さんと一緒に朝食。温かいみそ汁とハム・漬物をよばれる。

7時30分出発。朝は曇だったが、だんだん晴れてくる。国道45号線を南下。長いいくつかのU.D.を越えて普代村に至る。途中、高広さんよりTEL.あり、状況を報告する。高広さんは、私の旅の情報をブログに掲載してくれているのだ。

再度、妻にTELして台風の被害はないか尋ねる。被害はなさそう。ただし、通過後の吹き返しの雨・風が強いとのこと。

普代浜で写真撮影。普代漁港では、イカ・サバの漁があり30分前に出荷していったそう。

ここからいよいよリアス式海岸、県道44号線の三陸海岸に入って行く。いきなり急な上り坂となる。約1km登ったがもう限界で自転車から降りて押して登る。汗が目、腕にたらたらと流れ、メガネをかけては拭けないのではずす。拭いても100m登るともう汗が流れ、

止まって拭く。何度もこれを繰り返しながら約800m押して登り、少し緩やかな坂になったので、ここから乗ってこいで黒崎に至る。黒崎では展望台まで自転車で行った。景色はよかった。写真撮影。



普代漁港



北山崎の絶景

ここから小さなU.D.の高台を走って行くと、黒崎小学校があった。こんな辺境の山の中にも学校があるのだと、意外に思った。熊出没注意という看板もあり、子どもたちは大丈夫なのだろうかとも思った。

まもなく、北山崎に至る。ここでも展望台まで自転車で行った。ここには、大駐車場があり、いくつかのレストラン、食事処、観光者撮影用の被写台等があり、立派な観光地という趣だった。展望台に行くと、

本当に絶景だった。

これは観光ポイントになるはずだと思う。言葉ではいい表せないほど、素晴らしい景色だった。

ここからさらに、いくつかの小さなU.D.を越えながら絶景のリアス式海岸を眺めて走る。所々で止まって写真撮影をする。そして北山浜に下って行った。

北山浜から、すぐに急な上りとなる。弁天という所

だ再び押して登る。約700m押して登り、やや緩やかになったのでこいで登る。田野畑で小さい店に寄りレストランを聞くと、島の越にもないだろうと言われ、バナナとパンとフルーツジュースで第一昼食をとる。島の越に着いてみると、ラーメンなどの幟の立つレストランがあり開業していた。本昼食にカツカレーを食べる。



三陸のリアス式海岸

ここから国道45号線に行く道がまた大変だった。大分こいで登ったが、急な上り坂になり押して登る。ここでも約700m押して後、やや緩やかになったので乗ってこいで登る。左手木々の間から太平洋が見えた。かなり走って国道45号線に出る。

国道45号線に入って少しは楽になるかと思ったが、これまた宮古市までずっと長



いのや短いのやのU.D.の連続で、大変厳しくつらかった。

途中、国道から約3km左に入り「鶴の巣断崖」に行ってみた。いつもだそうだが、海面から霧が発生して景色は遠くになるほど見えなくなっている。でもこれも圧巻だった。海のアルプスを思わせる大断崖の上から見下ろす谷の海面には身がすくむ思いだった。再び国道45号線にもどり、厳しいU.D.の道を走りへとへとになって宮古市に着いた時は18時を過ぎていた。



「鶴の巣」大断崖

末広館には同室者に大間キャンプ場で会った松井さんがいた。彼は「ねぶた見物」で腰を痛め、昨日・今日・明日と連泊し、ゆっくりと腰を休ませるとのこと。また、食堂で早稲田大4年の学生さんとビールを飲みながら食事、色々と話す。公共の乗り物で東北の旅をしているとのこと。入浴・食事のあと、学生さんと一緒に近くのコインランドリーへ洗濯に行く。

山口県を通過した台風は弱まっているが、北海道南部に向かっているとのこと。明日の仙台の天気予報は曇のち雨。キャンプの予定だが、困った、どうしようかと悩む。22時就寝。

※ 今日のデータ 出発 7時30分 到着 18時20分
走行距離 98.88km 走行時間 7時間09分13秒
平均時速 13.8km/h 最高速度 62.9 km/h
積算距離 5305.16km 総走行距離 9330.41km

第72日 8月4日(土) 曇一時雨
宮古市～三陸町

三陸町[道の駅・さんりく]テント泊



YH「末広館」

4時40分起床。洗面後、6時10分まで食堂で日誌を書く。昨日の疲れは取れた様子。雨が降ってきた。荷物にはすべて防水カバーを取り付ける。出発前に雨が上がったので、合羽はバッグに入れてユニホームだけにする。

松井さんと学生さんに見送られて、7時20分出発する。国道45号線を三陸町に向かう。出発後すぐにコンビニにより、サンドイッチと鶏五目おにぎりとお牛乳で朝食をとる。左手沖に重茂半島

が見えるが霧がかかって、そこに半島があるなどという位の見え方である。津軽石、豊間根と津軽石川に沿ってずっと平坦な走りよい道だった。

豊間根を過ぎて徐々に上りになる。田名部の峠を越えて山田町に下って行った。山田湾には、カキ、ホタテ、ホヤのいかだがたくさんあった。ここでは、この三種の貝類の養殖が盛んだそう。山田漁港に寄ると、ここでもイカ、サバなどの漁から帰って、先程出荷が済んだところだというこ



山田湾の養殖いかだ

とで、漁師さん方はホースで水を流し掃除をしておられた。

この町の郵便局で5万円引き出す。大体8日間に一回引き出す位の間隔だ。この後、四十八坂海岸という所を走ったがそんなに坂はなく、海岸はよく見えないが少し遠くの半島や島の景色がよかった。



釜石港

吉里吉里村で雨が降り始める。自動車整備工場で雨宿りをさせてもらう。雨は上がりそうになく降り続く。30分経っても同じ状態なので、合羽を着て完全防水の体制で工場の方にお礼を言って出発する。

吉里吉里トンネルを抜け大槌町に入る。ここでは市街地を走る。つづいて大槌トンネルを抜けると板浜海岸が見えた。きれいだ。止まって写真撮影。さらに下って行くと、この海岸には多くの海水浴客がキャン

プをしており、とてもにぎわっていた。とにかく、トンネル毎に上り坂で汗びっしょりになり、メガネをかけているのは顔の汗が拭けないので、メガネはずしてはいた。

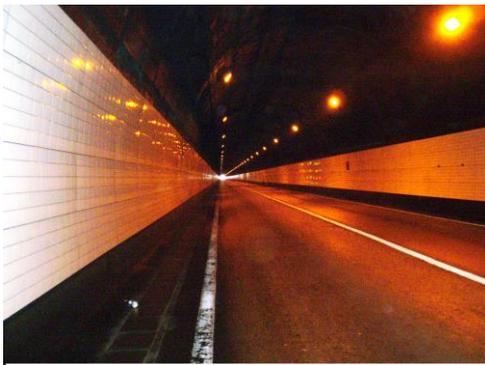
吉里吉里トンネルから後半は、大きなU.D.の連続だった。鳥谷坂トンネルを抜けて釜石市に入る。今は鉄の町の面影はない。釜石港には大きな貨物船が入港していた。鉄以外の工場がいくつか見られた。再び坂を上り「鉄の歴史館」を見学する。釜石大観音も見たかったが、ここから少し離れた山の上にあったので、後姿を拝むだけにした。

つづいて石塚トンネルへ上り、これを抜けて下った所にあったドライブイン「よしの」で昼食にする。少し体力をつけないといけないと思い「ジギスカン定食」1050円にする。自分で鉄板で焼いて食べるのもいいものだ。キャベツ、なす、ピーマン、かぼちゃ、もやしの野菜もふんだんにあってよかった。ここで雨が上がったので合羽を脱ぐ。少し晴れ間も出てきた。



鉄の歴史館

ここからが今日の極め付きで、標高135m 鉾谷峠（トンネル）と標高160mの羅生峠（トンネル）を越えなければならない。ともにカーブしたかなり急な上り坂で、それぞれ約2kmのずつの距離がある。頑張らずとこいで登って行った。羅生峠を越えて下って行った所にコンビニ



トンネルの芸術

ニがあり、ここで夕食・朝食を購入した。ここからあと2kmで今日の目的地・道の駅「さんりく」だが、この2kmもきつい上り坂だった。ここまできつい思いをしてきており、これでもかという感じだったが、これを登り切れば今日は終わりだと思い頑張って登った。

道の駅「さんりく」の芝生の中にテント設営。東屋のテーブルで夕食。やっと落ち着く。ゆっくりとくつろぐ。まもなく、暗くなってきたので、就寝することにする。20時だ。

夜21時頃、強い風が吹いてテントが飛びそうになる。起きてペグで止める。23時頃、車のエンジン音で目が覚める。ここには十数台のトラックや乗用車が止まっており、いくつかの車はエンジンをかけたままだ。よく眠れなかった。うとうととしては、また目が覚めるという状態だった。

※ 今日のデータ 出発 7時20分 到着 17時15分
走行距離 88.45 km 走行時間 6時間14分42秒
平均時速 14.1 km/h 最高速度 54.5 km/h
積算距離 5393.61 km 総走行距離 9418.86 km

第73日 8月5日(日) 曇すぐに晴

三陸町～気仙沼市

夜明け前の4時、テントにポツポツという音がして目が覚める。外に出てみると小雨が降り始めている。急いで避難することにして、荷物をテントから出し、屋根のある通路に運び軽くなったテントをそのままそこに運び移転する。あらためて少し寝て、4時45分起床。洗面後、昨日の日記を書く。6時05分まで。雨は降ったり止んだりだ。

7時35分出発。出発とともに晴れてくる。国道45号線は、出発してすぐにバイパスと分かれて旧道の急な上り坂となる。約200m押して、少し緩やかになったので後はこいで登る。三陸トンネルのある大峠まで2.5km頑張る。汗がたらたらと流れる。この国道は自転車と原付だけで殆んど車が通らないので、じぐじぐに運転して何とかこいで登れた。トンネルを出て大船渡市までは、気持ちよく下って行った。山が迫って景色はよく見えない。

気仙沼市[民宿・崎野屋]



道の駅「さんりく」



大船渡湾

市街地に入り、気温はどんどん増してくる。パンツもシャツもまくって、風を当てて走る。市街地を抜けると大船渡湾、向いの半島やいくつかの島の風景が変化に富んでとてもきれいだった。下船渡から、今日の最大の難所、標高173mの通岡峠に向かう。大きなヘアピンカーブのある上り坂を延々と登る。暑さと上り坂で、ここでも汗だくになった。峠の手前の展望所で一休みしてから、陸前高田市に下って行った。昼食は気仙沼でとることにして、道の駅「高田松原」で小休憩して、すぐに再出発。東浜街道を走る。小さいU.D.がある。

唐桑町に入り、今日の最後、三つ目の峠標高140m只越峠に登っていく。この峠の手前にも大きなヘアピンカーブがあった。峠の唐桑トンネルを抜けて、今日の目的地気仙沼市に下って行った。もうこの頃は、気温30°を優に越していると思われる程暑い。気仙沼市街には、県道26号線を通して入って行った。

魚町に着くと、気仙沼夏まつりの真っ最中だった。今からお祭りパレードがはじまるという。警備中の警察官に、パンフレットをもらい、自転車を押してパレードのコースに入る。最初、チンドン屋の団体がやって来た。カメラを向けると、みんな

なで集まってポーズを取ってくれた。やはり、日本一周の表示は大きな力を発揮する。つづいて、お祭りの山車やアンパンマンの山車などなど、色々な趣向を凝らしたパレードが続きつぎとやって来て、目を楽しませてくれる。疲れた体も癒される。



気仙沼夏祭り

港の方へ場所を変え、沿道にある食堂に入って、昼食をとりながらパレードを見物する。小学生の御輿や、中高校生・一般の吹奏楽パレードもあった。

食事を終えて出て行くと、私の「日本一周」の表示を見て、多くの見物客が声をかけてくれたり、励ましてくれたりした。港では、カッターボートの対抗戦が行なわれるのを見学した。ここから、パレードの最後尾について歩き、終点の「魚の市」で、この市のシークシアターを見学した。

16時近くになったので、岩井崎の宿に向かうことにする。親しく話しかけてくれた見物客に道を教えてもらう。県道26号線に入って南に向かい、まもなく国道45号線にもどり、気仙沼からおよそ10km走って岩井崎の民宿「崎野屋」に到着する。



民宿「崎野屋」にて、夕食

落ち着いたきれいな宿だ。ご主人も奥様もいい感じの方で、荷物を部屋に運び、すぐに入浴する。18時から部屋で夕食をする。この夕食の膳は豪華だった。うに、刺身、焼魚などおいしくいただく。

食後、福島鹿島町の鈴木良次さんにTEL.する。ずいぶん待っておられた様子で、“二日前にもう一度TEL.ください。みんなで待っています。”とのことだった。洗濯をして、軒下に干して、久しぶりにテレビなど見たり、これから

のコースを確認したりしながらゆっくりする。22時就寝。

【追記】岩井崎は、海に突き出た風光明媚な景勝地だった。

※ 今日のデータ 出発 7時35分 到着 16時40分

走行距離 62.85km 走行時間 4時間28分11秒

平均時速 14.0km/h 最高速度 57.4 km/h

積算距離 5456.46km 総走行距離 9481.71km

第74日 8月6日(月) 晴

気仙沼市～平泉町

平泉町 [金鶏山麓キャンプ場] テント泊

4時起床。洗面後、荷物を整理して、5時50分まで日誌を書く。洗濯物を取り入れ整理する。今日も晴。気温も高くなりそう。自転車に荷物を取り付けるだけで汗だくになる。上着は下着を着用せず。

お礼を言って、ご主人に見送られて出発する。国道45号線を北上する。気仙沼市の国道45号線は、フラワーロードパークと言われるように沿線がずーと花で飾ら



景勝「岩井崎」

れていた。ここで、8時15分、原爆の日一分間の黙禱の放送が流れ、サイレンが鳴らされた。私も止まって自転車から降り、脱帽して一分間黙禱を捧げた。松川ICの所から左折、国道284号線に入る。この気仙沼街道はJR大船渡線と平行して走っており、緩やかな上りであった。小山石油というGSで平泉観光案内所にTELし、金鶏山麓キャンプ場や観光地図等について聞く。いずれもOKということで安心する。



千厨の夫婦岩

折壁、矢越と過ぎ、峠を越えるのにそんなに苦労はなかった。峠を越えて、小梨、千厨と下って行った。千厨では市街地の方を通る。珍しい夫婦岩が街中に祀られていた。郵便局で北海道の地図や集めた資料等を自宅に送る。さらに下り、道の駅「かわさき」で昼食をとることにする。気温は32°を表示していた。

ここの道の駅の案内所で、平泉や一関市の整形外科医院を調べて、行き方を聞いた。一関市の岡崎医院に決めTELすると、午後

後は2時からということであった。昼食は、川崎名物の「ほどいもうどんかき揚げのせ」というのを食べた。珍しい料理だ。〈ほどいも〉というのは、ラムネの玉位の小型のいもだった。

ここから一関市三関にある岡崎医院へ、教えてもらった通りに県道160号線の北上川に沿って北上する。山間の平坦地を走り、千歳橋を渡って県道19号線を通って岡崎医院に着いた。到着直前に、にわか雨が降り出して、少々濡れた。

診察の結果は、骨折の指の具合は前回と同じで、“骨はずれていない。このままでくっつけるのでよい。まだついていないので、これまで通り固定します。”ということで、板を当ててテープで固定した。つぎの医院への紹介状は、新たなものでなく、これまでのものに書き加えてくださった。

平泉までの行き方を看護婦さんに聞いて、県道19号線・260号線を通って、国道4号線に入り、まもなく平泉駅に到着した。この時17時05分。平泉観光案内所は17時までということで閉まるころであったが、まだ間に合って「金鶏山麓キャンプ場」ほか平泉観光について資料と地図をもらう。親切に説明までしてくださった。食糧調達の店も聞き、ミニスーパーで夕食・朝食を購入する。ここで、地元の男子中学生に出会うと、興味深く旅の話聞いてきた。一通り説明したら、ガムまでくれて励まされる。

「金鶏山麓キャンプ場」着くと、私一人だった。テントを設営していると、バイクの男性旅行者がやってきた。彼は、社会人で一週間の休暇をもらって、今回は東北三大祭りを体験するという京都から来た菅山健作さんだ。外のテーブルで夕食をとる。

夕食後、近くの平泉温泉に入浴に行く。とてもいい湯だった。それから、広間で整理をしていて21時になったのでテントに帰り、少し菅山さんと話をする。彼は、京



金鶏山麓キャンプ場・菅山健作さんと

料理「たん熊」にお勤めの調理師だ。22時就寝した。

夜中に、雨がポツポツしたが、30分位で止んだ。

※ 今日のデータ 出発 7時45分 到着 18時00分
走行距離 69.67 km 走行時間 4時間10分25秒
平均時速 16.6 km/h 最高速度 62.3 km/h
積算距離 5526.13 km 総走行距離 9551.38 km

第75日 8月7日(月) 曇一時小雨

平泉町～津山

津山 [道の駅・津山] テント泊

5時起床。洗面後、テントの中の物を全て出して東屋のテーブルに置き、テント6時30分まで日誌を書く。雨が降るのか降らないのか微妙な時が、装備に一番困る。テントと銀マットだけ防水カバーをかけて、出発準備をする。



中尊寺・松尾芭蕉像

菅山さんとともに記念写真を撮り、8時20分出発する。一番行ってみたかった中尊寺に行く。バイク・自転車を入口に置いて、深閑とした杉林の月見坂を登って行くと、不動堂など、多くのお堂が左右にあった。本堂にお参りする。お賽銭はご縁がありますようにと準備していた五円玉。つづいて、讚衝蔵で拝観券を購入し、各種の国宝、重要文化財を見学する。

最も目当ての金色堂は覆堂の中にあった。屋根を除いて全て金箔がほどこされていた。極楽浄土を表したもので、阿弥陀様の下に、藤原四代の遺体が安置されているとのこと。英語や韓国語でも解説されていた。松尾芭蕉の像もあった。奥の細道にあるように、ここに訪れて感慨にふける句を多く残している。

中尊寺見学後、菅山さんは気仙沼に向かう。私は、毛越寺に行く。互いに感謝し合い、よい旅を祈って別れる。



金色堂

も立派だった。平泉はもっともっと見てみたい所があったが、ゆっくり散策すると一日以上かかると思う。またいつか来て見たい。雨は降らずよかった。逆に暑くなってきた。

国道4号線から県道26号線に入り一関駅に着く。ここで昼食。一関名物は餅だそうで、定食と別に珍しい餅を注文した。確かに珍味だった。

ここからは、一路国道342号線を南下していく。小さなU.D.があるが、比較的にも車も少なく、やや山間めいた道だった。この道に入って、まもなく、にわか雨に降ってきた。大きな農家の倉庫軒下に雨宿りさせてもらう。この辺りの空一帯に真っ黒の雲が覆っていた。農家の奥様冷たい飲み物をグラスに入れて持ってきて下さる。のども渇いており、感謝。30分すると殆んど止んできたので、お礼を言



って再出発する。花泉町を通り、さらに下って行くと弥勒寺という寺がありお参りする。ここの「みろく草庵」で<延命そば>を食べた。かたくりの入ったねっとりした汁だったがおいしかった。

ここから、さらに下って行くと北上川と平行して走るようになる。北上川はゆったりと流れていた。流れているのかいないのかわからない位多く水をたたえて、時には大きく蛇行して、海拔0mに近いのではないだろうかと思う。

登米町に入り、柳津本町という所のスーパーで夕食・朝食を購入、ここでも高校生から“すごい、どこから来たのですか？”と聞かれ、“山口県から”と応えると、びっくりしている。

ここから3kmで道の駅「津山」に到着する。外のテーブルで夕食をとり、駅の大きな軒の下にテントを設営する。ここは、よく整備された立派な道の駅だ。工芸館や物産店・レストランもあり、ロビーも広くテーブル・イスも素晴らしいものが設置されている。トイレもきれいで庭も美しい草花で整美されていた。仙台千登勢YHにTELし、明日の宿泊の予約をする。

指の骨折の状況だが、自転車の運転にはそんなに支障はない。ただ、ギブスで固定して親指は安静にして使わないようにしているのでかなり不便である。特に、洗面や入浴時には大きなゴム手袋をはめて行うので、厄介である。あと2週間でギブスがとれれば、洗面や入浴も普通になるので楽しみにしている。20時就寝。

夜中にしとしとという音がする。出てみると雨が降っている。軒下にテントを張ってよかった。でも、朝降り続いていると困るなー。

※ 今日のデータ 出発 8時20分 到着 17時50分
 走行距離 60.36km 走行時間 3時間20分39秒
 平均時速 18.0km/h 最高速度 ? km/h
 積算距離 5586.49km 総走行距離 9611.74km

第76日 8月8日(水) 雨のち曇
 津山～仙台市

仙台市 [仙台千登勢YH]

5時起床。今日は朝から雨。しとしとしと降っており全く止みそうにない。道の駅のパソコンで天気予報を調べると、仙台地方の降水確率A.M.60%・P.M.20%となっている。洗面、朝食のあと日誌を書く。テーブル・イスの立派なロビーが使える。

出発をどうしたものかと思案する。同宿したバイク旅行の2名の方も出発を迷っておられる。私は、少し様子を見ていたが止む気配はないので、完全防水装備をして出発することにする。

7時55分出発、国道45号線を北上川に沿ってひたすら南下していく。北上川



一関名物・餅御膳



みろく草庵・延命そば



北上川

は今日も多くの水を満々とたたえて悠々と流れている。河北市に至り民家が現われてくる。飯野川橋を渡り北上川と別れる。

まもなく雨が止む。追波川河川敷公園で小休憩し、ここで合羽を脱ぐ。再出発して天王橋を過ぎる頃、また雨が降り出した。皮肉なものだ。再び、上合羽と帽子を着用して進む。防水カバーをかけているので地図が見れないので不便だ。小雨の降る中、さらに黙々と走って東松島町に至る。鳴瀬大橋を渡る頃、ようやく止んできた。

空も明るくなってきたので、もう大丈夫と思い、合羽・帽子・フロントバッグのカバーをとり身軽くなる。

ここから、県道60号線に入り、松島に向かう。奥松島は水道をはさんで島に鳴っていた。水道には小舟がたくさん停泊していた。奥松島を過ぎると、いくつかのU.D.を越えて松島に到着した。仙台海鮮市場の入口で、東京から来た家族連れが声をかけてこられて、“一緒に写真を撮ってください”と言われる。一緒に写真に収まる。写真は後から送ってくださるとのこと。気持ちのよい家族連れに出会ったと思う。

ここで、気仙沼で食べられなかった〈ふかひれラーメン〉(気仙沼産)を食べる。880円。ここで、一昨年さくら会で一緒に松島に来た馬杉さんにTELする。しばし、日本三景「松島」の景観を眺めながら休憩する。五大堂をバックに写真撮影。



日本三景・松島

ここから、国道45号線を進んで仙台に向かう。途中、景色のよい所で何ヶ所か写真撮影をする。塩竈市、多賀城市と過ぎ仙台市に入る。

仙台市は今日まで七夕祭りで、仙台駅付近はきれいな七夕飾りが飾ってあり、多くの人の波だった。仙台市観光案内所へ行き、地図と七夕パンフレットをもらう。

地図を見ながら、鈴木耳鼻科へ行く。八戸の洲崎医院長先生からの紹介というのと、とても親切に丁寧に対応して下さった。“もう殆んど治っている”と、消毒と少し残っているカスを取って下さった。今後は、“もし、おかしいようなら点滴を注すように”といわれ、ほっとする。それから、観光案内所で教えてもらったSQハウスを探して散髪をした。



仙台・七夕祭り

ここから、仙台駅前で七夕祭りの雰囲気味わいながら、写真も撮りながら、仙台千登勢YHに到着する。

荷物を玄関横の荷物置き場に置き、必要物だけ部屋に持って入れた。部屋は大広間で8名の宿泊客と同部屋だった。入浴後夕食。入浴で一緒だった方は部屋も一緒に、この方は4日間の休暇がとれたので芭蕉の行った寺を訪ねるといふ。バイク旅行の方は、気仙沼で娘さんにさんまを送る予定だといふ。コインランドリーで洗濯、乾燥機をかける。よわく乾いていないも

のだけ、部屋に干す。明日のコースを調べ、22時就寝する。

※ 今日のデータ 出発 7時55分 到着 16時50分
走行距離 81.38 km 走行時間 4時間46分00秒
平均時速 17.0 km/h 最高速度 ? km/h
積算距離 5667.87 km 総走行距離 9693.12 km

第77日 8月9日(木) 晴一時にわか雨

仙台市～相馬市鹿島町

鹿島町 [鈴木良次氏宅]

5時起床。食堂で日誌を書く。6時～7時出発準備。7時から朝食。横須賀の水上市子さんや芭蕉の寺を訪ねる中年の男性の方、韓国の学生・先生方と話をしながら食事。韓国の学生の団体は光州市の学生で友好都市である仙台との交流、学習で選ばれて来日しているとのことだ。

天気は晴れ。暑くなりそうだ。8時出発したが、ヘルメットの着用を忘れ、急いで引き返す。どうしてこう忘れっぽいのか。

仙台駅裏を真直ぐに横断して、国道4号線に入る。昨日お世話になった鈴木耳鼻科の前を通る。通勤時間帯で人も車も多い。車道や歩道を縫うように走り、市街地を抜ける。河原町2丁目で右折して旧4号線を走るところを直進して4号線バイパスに入ってしまう。この道を真直ぐに南下していく。道は平坦で車は多いが走りよい。途中、名取市で三色最中の立派なお店があったので、鈴木さんへのお土産として購入。



仙台千登勢YH玄関にて



竹駒稲荷

まもなく、飯野坂で旧4号線と合流した。さらに走って岩沼市で市街地に入り、竹駒稲荷にお参りする。ここは、日本三大稲荷の一つといわれている。

阿武隈川を渡り、国道6号線を南下する。進んでいくと「馬上かまぼこ店」に至る。ここで、鈴木さんの仲間の方々に「笹かまぼこ」をお土産に購入。炎天下なので、保冷剤を入れて包んでもらう。

国道6号線陸前浜街道を、炎天下の中走る。山元町を通り、新地町から相馬市へと入っていった。

ここで、自転車で走っている高校男子生徒に声をかける。彼は、新地高校バスケット部の生徒でこれから部活に行くところだ。相馬市駅への行き方を尋ねると、駅まで案内してあげるといふ。いろいろ話しながら案内してもらって楽しく、また助かった。

観光案内所は、駅ではなく街中の商工会の中にあった。観光の場所や食事の名物・店などを聞いて、相馬牛を食べることにする。近くの「べこや」という食堂で焼肉定食(相馬牛)を食べる。ここで会計簿の整理をする。15時出発しようとして店から出てみると、にわか雨が降っている。自転車を軒下に入れて、少し雨宿りさせてもらう。

ようやく雨が上がった16時に再出発する。鹿島町までは1時間であった。市街地に入ると、すぐのガソリンスタンドで待っていてくれる人があり、2ヶ月前に出

会った消防団OBの方だった。“鈴木商店で17時に待っているよ”と道順を教えてくださいました。



鈴木良次さん宅にて歓待を受ける

17時10分、鈴木さん宅に到着する。奥様が迎え入れてくださる。鈴木さん宅には、ご夫妻と息子さん夫婦・娘さん二人・お孫さん七人がおられ、みんな同居しておられる。お孫さんたちが川で取ってきたという<ドジョウ>や<ざりがに>を見せてくれる。大きなスッポンもかっている。

ご主人が入浴にと、5Km離れた温泉「風穴の湯」に連れて行ってくださった。田舎のいい湯だった。もどってから、消防団OBの方々が集まって来られる。総勢7人と奥様・私で大宴会が始まる。駐在所のおま

わりさんも来られた。料理はたいへんなご馳走だった。カツオの刺身、ホタテ、焼き鳥、なすの漬物、グチの唐揚げ、……。ビールをジョッキ5杯は飲んだ。話も大いに弾み、大盛会だった。妻にもTELする。記念写真も撮る。

その場所にて宿泊、23時就寝。

※ 今日のデータ 出発 8時10分 到着 17時10分
走行距離 72.18km 走行時間 4時間01分33秒
平均時速 17.9km/h 最高速度 38.0km/h
積算距離 5740.05km 総走行距離 9765.53km

第78日 8月10日(金) 晴

相馬市鹿島町～いわき市新舞子浜

新舞子浜 [新舞子浜公園] テント泊

5時起床。洗面後、日誌を書く。6時20分まで。洗濯物を取り入れ、朝食をいただく。娘さんや奥様に大変お世話になる。食事や洗濯その他果物・お茶などなど。

出発準備をし、8時過ぎ玄関で記念写真を撮り、8時30分、ご家族のみなさん・消防OBの方々に見送られて出発する。なんと、県警鹿島駐在所の高橋さんの運転するパトカーが先導してくれる。これにはびっくり。でも愉快的な気持ちになる。国道6号線までのおよそ2kmを先導していただく。感謝。高橋



福島の田園風景



鈴木さんの「おにぎり弁当」

さんにお礼を言って陸前浜街道を南走していく。

とにかく暑い。殆んど平坦な道で走りは楽であるが、少し上りになり、こぎに全身の力が入ると顔や腕に汗が流れる。時折、メガネをはずす。福島県は農村県であろうか。田んぼを中心に田園風景が広がっている。見学するところもなく、時折止まって汗を拭いたり、水分を補給したりで、ひたすら走って行く。原町、小高町、浪江町、双葉町と通って行く。海は見えない。

右手は田園の向こうに福島山々が見え、左手海岸には福島第一・第二原子力発電所があるはずだ。国道に入口の標識があった。

大熊町に、桜の名所という案内板があり、桜の並木通りが見えた。豊岡町を過ぎ、楢葉町に入り道の駅「ならは」で昼食・休憩をする。奥様の作ってくださった「おにぎり弁当」をいただく。あらためて感謝する。ここで、ポーチとカメラを忘れて出発。すぐに気づいて引返し、事なきを得たがひやひやものだ。

広野町では、広野火力発電所の太く高い煙突が2本見えた。どんどん南下して海が見えてきた。波立海岸では白い波が印象的だった。すぐそばに波立薬師があったが、入口で見るだけにした。

四倉で、国道6号線と別れて県道382号線に入り舞子浜に向かう。太平洋岸の松林の中を走っていく。途中、サーフィンなどを行なうマリンスクエアにはキャンプ場もあり、多くの若者がキャンプしたり、サーフィンを楽しんでいた。途中、郵便屋さんによると、コンビニは舞子浜にはないということで、四倉まで約3km引き返し夕食・朝食を購入、予定より30分遅く新舞子浜公園に着いた。



波立海岸

テント設営後夕食をとり、かんぼの宿で入浴。汗をきれいに洗い流しさっぱりして、ロビーで少しくつろいでテントに帰る。鈴木さんにお礼の電話を入れる。藤田先生に玖波中同窓会欠席の連絡とメッセージを届ける。21時就寝。寝袋なしで寝ても全く寒くない。

※ 今日のデータ 出発 8時30分 到着 16時30分
走行距離 85.87 km 走行時間 4時間55分33秒
平均時速 17.4 km/h 最高速度 62.9 km/h
積算距離 5825.92 km 総走行距離 9851.40 km

第79日 8月11日(土) 晴

いわき市～ひたちなか市 ひたちなか市 [田の上キャンプ場] テント泊

4時10分起床。洗面をして、朝日を見に海岸に出る。まだ少し暗い。4時30分大分明るくなり、海面上も赤くなってくる。4時50分、水平線上の雲間から赤い太陽の姿が見えてくる。三脚にすえたカメラの照準を合わせて撮る。太陽の姿が

$\frac{1}{4}$ 、 $\frac{1}{3}$ 、 $\frac{1}{2}$ 、 $\frac{2}{3}$ … とだんだん現われてくる。熱く輝いている。



太平洋から昇る朝日・新舞子浜にて

朝食をとり、出発準備をし、7時30分出発する。県道382号線を南下する。今日も熱い太陽が照りつけている。スタート後の数kmは松林の中の道で涼しかった。薄磯海岸に出る。塩屋崎灯台を眺める。小名浜港までのこの海岸線は入り江と岬が入り組んでおり、U.D.も続いて、上りでは汗だくになった。海水浴場もたくさんあり、多くの人が海水浴を楽しんでいた。特に、遠浅の長い浜辺は白波がきれいだった。

三崎公園のマリントワーでは、エレベータでのぼり展望する。海岸線の展望は素晴らしかった。小名浜の工場地帯の風景もまた違った美しい感じがした。



小名浜の臨海工業地帯

県道239号線から国道6号線に入る。鮫川大橋を渡り勿来町に入る。太平洋の大海原を見ながら平坦な道を走る。海岸はいくつもの海水浴場のにぎわっている。色とりどりのビーチパラソルで花が咲いたようにきれいだ。

福島県と茨城県の境には鶺の子岬があった。ここが東北と関東を分ける岬だそうだ。茨城県に入ってから



勿来海水浴場

も国道6号線陸前浜街道をひたすら南下する。磯原町で野口雨情の記念館があった。日本の童謡詩人で私の大好きな人だ。入館する。しばし、童心に帰る。いつまでも日本人の心に残る人だ。

高萩、花貫と過ぎ、日立市川尻町で回転寿司屋「かっぱ寿司」で昼食をとる。一皿105円・10皿食べる。生き返るようだ。午後の太陽は、午前の柔らかさと違ってじりじりと酷暑という

感じになる。この寿司屋さんで、アームウォーマーとレグウォーマーを着けさせてもらう。熱射病対策だ。田尻町の公設市場前から国道6号線と分かれて、国道245号線に入る。海岸に沿って河原子町、日立おさかなセンターと通っていく。

東海村で、東海第二原子力発電所を見学する。エネルギーの大切さがわかる。公害を出さない万全の態勢にうなづく。

ひたちなか市に入り、ひたちはま海浜公園・田の上キャンプ場に向かう。大分迷って遠回りして



東海第二原子力発電所

しまう。おまけに、キャンプ場手前100mで前輪をパンク。前輪をさげてキャンプ場に押し入れる。もう遅いので、修理は明朝にしてテント設営。キャンプ中の近くの若者たちが一緒に写真を撮ってくれという。快く応じる。焼肉など差し入れをいただく。蚊がいないので助かった。前が海水浴場で、家族連れや若い人たちの仲間など、多くの人がキャンプしていてにぎやかだった。コンビニの夕食をとり、水洗い洗濯をして干す。日誌をつけて、20時30分頃就寝。



若者たちと・田の上キャンプ場

※ 今日のデータ 出発 7時30分 到着 18時00分
 走行距離 112.36 km 走行時間 6時間31分47秒
 平均時速 17.2 km/h 最高速度 62.3 km/h
 積算距離 5938.28 km 総走行距離 9963.76 km

第80日 8月12日(日) 晴

ひたちなか市～銚子市

銚子市 [藤田屋旅館]

5時起床。朝食をとり、パンクの修理。パンクのチューブを取替え、空気を入れて40分で完了。チューブを入れて車輪にタイヤをはめるのに少々苦勞したが、うまくできた。片付けて出発準備をしていると、出発は8時になってしまった。

県道6号線を行くつもりが、なぜか国道245号線に向かってしまう。その内に、最初の下りでブレーキをかけると、後ブレーキがキーキーと音がする。大洗市に入った所で、弘重さんにTELして聞いてみる。“シューを八の字形にすればよい”と言われ、6角レンチでやってみる。ぴたりと音がしなくなった。さすが弘重さんだ。“ありがとうございます。直ったよ。”、“よかったね。気をつけて。”気持ちよくなって走り、そのまま国道51号線に入る。



徒歩東北旅行中の平井君

今日は向い風。道は平坦で走りよいが、速度は時速15km/h平均だ。強い向い風の時は13km/hとなる。時間がかかることを覚悟して、暑さの中を黙々と走っていく。今日のコースは海はあまり見えなかった。



鹿島神宮

福島県は農村風景だったが、茨城県も農村風景はあるが、南下するに従って浴道を中心に都会的な雰囲気になってくる。旭村を過ぎて大竹という所で上下線とも車が渋滞している。日曜日で、大竹海水浴場に出かける車の人々たちだと思う。特に入口で混雑していた。大洋村でコンビニにて休憩したところ、徒歩で東北旅行をしている25歳のフリーター平井君に出会う。5月初旬に出発したという。千葉の人だ。好青年。

鹿島大野を過ぎたあたりで、あまりに暑いので日照りよけに小商店に寄り、アイスクリームを食べる。この店の奥様から出発時にアクエリアスをいただく。酷暑の中、本当にありがたい。店の名前は久保商店。宿でお礼の電話をする。

鹿島市に入り、手焼きせんべい屋「炭屋さん」で鹿島神宮への行き方を聞く。ここでもお茶のボトルとせんべいをいただく。宿でお礼の電話をする。

鹿島神宮に向かっていくと、高校生がいたので入り口を聞くと、近道を行きましょうと、入口の鳥居まで上り坂を自転車を押してくれて案内してくれた。大助かり。今日は多くの方からたくさん親切をいただいた。ここ神宮の入口の「よしのや」でざるそばを昼食として食べる。

鹿島神宮では、入口に自転車を置き、徒歩で参拝する。奥殿への参道の大杉の並木は荘厳だ。脇にさざれ石があった。本堂でお参り。ここは剣豪塚原ト伝の里でもある。日本最大最古の長刀があった。



さざれ石

鹿島神宮からは、国道124号線に入り、真直ぐな道を利根川近くを平行に南東



利根川 一銚子大橋より一

に下って行く。向い風が正面から当たり苦しかった。暑さもあり利根川にぐんぐんと浸かってみたくは思ったが、一番近いところでも国道から200m離れていたため実行できなかった。銚子大橋を渡り、17時銚子駅についたが今日の宿「藤田屋」を探すのに少し手間取って17時10分頃到着。

部屋に入り、夕食の買い物に近くのスーパーに行き、刺身・豆腐・野菜等を購入。入浴後、部屋で食事。洗濯をしてベランダに干す。日誌を書き、ゆっくりして22時就寝する。

※ 今日のデータ	出発	8時00分	到着	17時10分
走行距離	95.51 km		走行時間	5時間54分56秒
平均時速	16.1 km/h		最高速度	? km/h
積算距離	6033.79 km		総走行距離	10059.27 km

第81日 8月13日(月) 晴

銚子市～勝浦市大原町

大原町 [セブンイレブン駐車場] テント泊

5時起床。今日の予定を確認し、荷物を整理、洗濯物を取り入れる。7時朝食。バンクのタイヤをバケツにつけて開いた穴を調べ確認、修理する。荷物を自転車に取り付け、出発準備をする。

今日も快晴、朝から強い日照りが差している。写真を撮り、お礼を言って8時20分出発する。利根川西岸沿いに下り、銚子漁港のそばを通り、海鹿島の海岸を見ながら君ヶ浜に出る。朝から多くの海水浴客でにぎわっている。犬吠崎を眺める。白い灯台が立つ。犬吠崎からの眺めもよい。180°に太平洋が広がっており、海岸は岩場もあり、降りれば楽しめそう。半島を回る県道254号線は、ここからU.D.が連続しており、道も漁村を通りわかりにくい。分かれ道で何度か道を尋ねながら県道286号線に入る。この道も長いU.D.の連続で暑さと合わせてしんどかった。ようやく国道126号線に入った時は10時を過ぎていた。ここまで走行距離19km。



犬吠崎

国道126号線を約5km走り、いよいよ九十九里浜の県道30号線に入る。途中、にわか雨に遭い、急遽民家に雨宿り、ここのおばあさんに冷えたサイダー2本をいただく。のどの乾いた暑いときに飲むと、とてもおいしかった。

少し走った所に飯岡という展望公園があったので、九十九里浜を一望しようと寄ってみる。浜は弓なりにずーとつづいていた。海は遠浅のようで、岸边には、何本も長い白波が寄せていた。道はずーと平坦だ。ただ、今日も少々向い風で進み方は遅い。残念ながら、この道は海から100～200m入ったところを走っており、海は見えない。所々海水浴場入口で左折し、海岸に出て眺めてみる。どこも海水浴

客はいっぱい、にぎわっている。



九十九里浜

九十九里浜の浜は幅広く、海は遠浅のためか適度な波がつくれ、サーフィンを楽しむ人たちがたくさんいた。浜にはテントやパラソルが色とりどりに並び、水遊びではしゃぐ人たちがたくさん居た。暑さのため水分をたびたびとる。頑張って九十九里浜の約三分の二を走り、九十九里町で昼食とする。「よし乃屋」で、九十九里名物の「いわしの刺身・てんぷら定食」を食べる。

ここから、さらに県道30号線を走り、白子、長生と通り一宮町へ。相変わらず向い風で日照りは熱い。途中、コンビニで大原キャンプ場入口を聞くが、よくわからない。地図で大体の見当をつけ、入口と思われる所で聞くと、その通りだった。コンビニで夕食を購入し、大原キャンプ場に着く。

管理人さんに“お願いします”と言うと、“今日は、夏休みでお客はいっぱいだ。申し訳ありません。”と言われる。“もう日暮れに近いし、一人で、小テントだから何とか泊めてください。”と頼んだがだめだった。御宿町の実谷キャンプ場を教えてくださいましたが遠いのであきらめた。仕方なく、大原町のコンビニで、テント泊のお願いをすると、ありがたいことにOKして下さった。そして、向かいにある店長所有の建設事務所の敷地内にテント泊するように取り計らって下さった。水道も使わせてもらい、身体もきれいに拭いて、夕食をとる。暑いのでテントの中は入口を開けて網にしていたが、日没後も汗がにじんで本当に暑かった。20時30分就寝。



いわしの刺身・天ぷら定食



サーフィンを楽しむ若者たち

※ 今日の日データ	出発	8時20分	到着	18時00分
走行距離	101.66 km		走行時間	5時間56分38秒
平均時速	17.0 km/h		最高速度	? km/h
積算距離	6135.45 km		総走行距離	10160.93 km

第82日 8月14日(火) 晴

勝浦市大原町～館山市白浜町

白浜町[根本マリン]テント泊

5時起床。洗面、朝食、荷物の整理、出発準備をして、コンビニ店員さんにお礼を言って、6時20分出発する。

今日も、朝から熱い太陽がじりじりと照りつけ、準備の段階から汗だくになる。上下ユニホームだけ着用。国道128号線外房黒潮ラインを走る。道は平坦だが、やや向い風。御宿町、安房町と進む。豊浜のビーチと勝浦灯台の見える半島で一休み。整形外科はお盆で休みと思うが、勝浦市のGSで聞くと、電話をして下さっ

た。そして、すぐ近くの塩田病院はやっておられる、院長先生は整形専門だということだった。総合病院だから時間はかかるが、ということだったが、まだ8時20分だったので行ってみることにする。



鵜原海水浴場

医師の方は若く、山口県防府市出身だった。指のギブスはもう4週間近くなるから取ったほうがよい、ということで取ってもらう。関節が固まらないように動かした方がよいと言われる。手を洗って、清拭した。しばらくは無理をしないようにとも言われた。10時50分終了。GSに寄ってお礼を言って再出発する。

勝浦市内は、異常に車が混んでいて、トンネルも多く、なかなか進めなかった。

興津では市街地を走る。天津でも市街地を通る。鴨川シーワールドも観光客で車は渋滞、入口では入場券を持った人が列を作って並んでいた。警備の方に聞くと、イルカのショーが素晴らしいということだ。

鴨川市で昼食にする。潮騒市場は客がいっぱいで並んで待っていたので、となりの「ガスト」に入り、坦々麺（冷やし）を食べる。鴨川市も市街地を通り、つづいて国道128号線外房黒潮ラインを南下する。道の駅「鴨川オーシャンパーク」で小休憩。明日のユニホームを洗濯する。自転車に取り付けて干す。海岸には、海水浴場がつきつきと現われる。景色や海水浴場のにぎやかさを写真を撮る。浜千鳥の歌碑と表示があったので、海岸に出てみると海水浴場の監視のお嬢さんから、「日本一周」すごい。「どこから来たの。いつごろ出たの?」と聞かれ、ドリンク（ウォータ）を差し入れてもらった。



太平洋上に浮かぶ積乱雲

和田町を過ぎ、下三原というところで県道297号線に入る。道路の右側を走ると樹木の陰になって涼しいので、対向車に気をつけながら右側を走る。千倉町ちとせからは国道410号線になる。しばらく走り千倉町千倉からは、国道410号線からはずれて、海が見える県道のルートを走る。道は小さくカーブしているが、海の眺めがよい。



監視員のお嬢さん

道の駅「ちくら潮風王国」で小休憩。根本マリンキャンプ場への行き方とコンビニ・スーパーの情報を聞く。ここから先も海浴いのルートがよいということで、つづけて海浴いを走る。安房白浜は植物も南国ムードで、海水浴場もいくつもあった。ワシントンアパームやフェニックスがあり、ハマユウ、ブーゲンビレアなどが咲いていた。

まもなく、房総半島南端の野島崎灯台が見えてきた。ずーと沖には、大きな貨物船が数隻航行していた。岬からの展望も素晴らしい。このスーパーで夕食・朝食を購入し、

根本マリンキャンプ場に到着する。

ここには、多くの海水浴客などがキャンプしていた。キャンプ場はテント・車でいっぱい、500人～1000人位キャンプしているのではないかと思われる。私は手続きを済ませ、キャンプ場の入口近くにテント設営する。水シャワーを浴びて、さっぱりして夕食をとる。携帯・デジカメの充電をし、明日のユニホームを干す。このキャンプ場は、お互い余りあいさつを交わさないようだ。22時就寝。



「根本マリン」キャンプ場

今日のコースも平坦で走りよかった。

※ 今日の日	出発	6時20分	到着	18時00分
	走行距離	89.30 km	走行時間	5時間05分16秒
	平均時速	17.5 km/h	最高速度	? km/h
	積算距離	6224.75 km	総走行距離	10250.23 km

第83日 8月15日(水) 晴

館山市白浜町～木更津市

木更津市 [ホテル銀河]

4時30分起床。洗面後、天気がよいので水平線上を昇ってくる太陽を見ようと思っ浜に出てみたが、日の出の方向がずっと東方向で陸地から昇ってくる状況の地形で残念だった。

今日も太陽が昇ってくると朝からじりじりと熱い。出発準備で汗をかいた。海水浴・キャンプのお客さんは、食器を洗ったり、朝食の準備をしたり、朝からこまめに働いていた。

7時40分出発。この辺りは農漁村という感じだ。あるおばさん、畑で花を作っておられるが、“朝から暑い中を畑に行く。貧乏暇なしだよ。”と言っておられる。でも、元気なおばさんだった。国道410号線から分かれ、県道257号線に入る。



房総フラワーライン

房南パラダイス(植物園)に寄る。開園前だったが、入口門が開いており少し入って見せてもらう。平砂浦は、長いビーチでサーファーたちが朝から準備をしていた。また、この県道257号線は房総フラワーラインとも言われ、道の両サイドはずっと花が植えられていて、きれいなロードだった。

南西方向沖に、伊豆大島が見える。頂上付近に雲がかかっていた。わりあい近いのだなと思った。

岬を回っていくと、遠くに伊豆半島が見えてきた。左手先端の方は高く右につながっていた。洲崎灯台に登ってみる。東京湾が一望できる。秋の頃には富士山も見えるそうだが、今日は見えなかった。右手の方向には、今日の目的地木更津方面が色濃く見える。

つづいて、県道257号線を館山市に向かう。西岬の海浜も美しく海水浴の人々

も楽しそうだった。このルートには富士見台とか富士見という地名がいくつかあった。ここから眺める富士山はきっと絶景なのだろう。館山市には安房博物館があったので入ってみる。65歳以上は無料だった。主として漁業の展示だった。水族館も併設しており、東京湾の魚たちが庶民的に飼われていた。多くは、私のダイビングで出会う魚たちだった。

ここからも、沿線沿いの県道302号線を通る。富浦で右手の山々の長い断崖に大きな観音様が幾体も見えた。あとで調べると崖観音と言われていることがわかった。

富浦から国道127号線に入る。暑い日照りの中を、内房なぎさラインを北上する。道の駅「きよなん」で昼食をとる。海の幸がいろいろあったが、やはり刺身定食(1000円)にする。ここで、ハンカチが汗でびしょりなので水洗いさせてもらう。そして、ボトルに氷水をいっぱいにもらう。しばし休憩。何と言っても暑い。今日が一番暑いのではないかと思う。カキ氷を食べる。

暑さの中を再出発する。この12時~14時の間が最も暑かったように思う。湊という所のコンビニで小休憩。おばさんが一緒に写真を撮ってくれと言われる。快く応じる。ここを出発してすぐ、後ろから追いかけてきた乗用車の家族連れがアクエリアスの凍ったのを“これを飲んで、頑張るって行って”とくださる。ありがとうございます。



西岬の海浜



崖観音



国道127号線から分かれて、県道259号線を通り佐貫町で国道465号線に入る。あくまで海岸沿線を進む。今日のコースも殆んど平坦で、気温は暑かったが、時折吹いてくる風に涼しさを感じながら走った。

宮津市からは、県道90号線と国道16号線を走り、木更津市に入って行った。このコースは、道も広く、立派に整備されており、かつ、強い追い風で快走することができた。

「ホテル銀河」に到着。今日は満室という。木更津市の花火大会だからだ。入浴後、コインランドリーで洗濯をして、夕食をして、花火を見に行こうと計画していたが、コインランドリーが閉まっており、やむなくホテルに帰り、風呂で明日の物だけ洗濯して風呂場に干す。ホテルのレストラン「潮騒」で夕食。〈あさり御膳〉(2100円)をいただく。まもなく花火が始まり、部屋からもよく見えた。花火大会を見物に街に出る。多くの人出で、歩けない位だ。頭



木更津市の花火大会

上では、シュルシュル・ドーンと花火の花が開く。屋台もにぎやかだ。花火と祭りの華やいだ雰囲気存分に味わった。22時就寝。

※ 今日のデータ 出発 7時40分 到着 16時00分
走行距離 95.83 km 走行時間 5時間10分11秒
平均時速 18.5 km/h 最高速度 ? km/h
積算距離 6320.58 km 総走行距離 10346.06 km

第84日 8月16日(木) 晴

木更津市～東京都

東京都 [甥の勝村巖君宅]

5時起床。日誌を書き、出発準備をする。7時よりホテルのレストラン「WINDS」で朝食。洗濯物は殆んどかわいていなくて、濡れたユニホームを着て、今晚着る予定の短パン・ランニングシャツを荷物にくくりつけて、乾かす状態にして出発する。

今日も朝から強い日差しが差している。県道87号線を進み、アクアラインを見に行く。橋の下から眺める。真直ぐな長い美しい橋が東京湾に伸びて、遥か遠くのだるまさんのような形の「海ほたる」までつながっていた。



アクアライン

袖が浦市役所の前を通り、国道16号線に入る。千葉臨海工業地帯を走るこの国道16号線は、真直ぐで追い風に乗って速いスピードで進む。暑いのでおよそ5km毎に水分をとる。

千葉市に到着し、駅前のSOGOに寄り、セーラーカートリッジを購入する。スポーツドリンク粉末は売ってなかった。ここで、甥の巖君からメールがあり、“今日は自分宅に泊まってください。にぎやかに歓迎します。”というので、隅田川YHはキャンセルする。ただ、姪の牧さんは仕事で会えないということで少々残念。



隅田川

さらに進み、習志野市の「更科京屋」で昼食。〈たぬきそば〉を食べる。具も多くボリューム満点でおいしかった。しばらく休憩、励まされる。ここで、一昨年徒歩日本一周の八王子市在住・吉村靖夫さんに電話する。“明日会いたい”という返事。

酷暑の中を、千葉街道国道14号線を東京に向かう。船橋市、市川市と通り、江戸川を渡り東京都に入る。この辺りから交通量がぐんと増えてくる。新中川、荒川と渡り、いよいよ都心に入る。隅田川に架かる浅草橋に至る。この辺りから道が複雑で分からない。交番を見つけ、巖君のいる早稲田への行き方を聞く。

国道6号線→日本橋で右折→→神田→神保町→九段下→市ヶ谷見附→早稲田
405・402号 302号

と教えてもらう。このルートにしたがって順調に進むが、信号が多くすぐに赤になり、なかなか思うように進まない。九段下交番で再度、行き方を尋ねる。

九段下→飯田橋→神楽坂下→早稲田 と教えてもらい、そのように走る。飯田橋でちょっと迷ったようだが、神楽坂の町並みを通り、その雰囲気を感じ取れてかえってよかった。早稲田電停に着き、巖君にTEL。ここで待つ。

まもなく姪の麻美さんが自転車で迎えに来る。早稲田大学の門の前を通っている時、あらかじめ連絡していた長男・啓から“今、早稲田電停に着いたよ。”という電話が入る。麻美さんとともに、早大門前で待つことにする。しばらくして

啓も合流、早大門をバックに記念写真を撮る。巖君宅まで徒歩で約10分、途中、お土産にビールとワインを買って持って行く。到着した時には19時を過ぎていた。

家には、巖君の婚約者と彼女の母様が迎えてくれた。巖君一人かと思っていたのでびっくりする。巖君・麻美さん・啓と4人で外食をしようと思っていたが、“待っていました。手作りの料理です。みんなでいただきます。”と言われ、恐縮しながらもありがたくいただくことにする。巖君もまもなく仕事から帰ってくる。



甥の巖君宅にて・みんなで会食

入浴後、夕食。みんなで楽しく会話しながらいただく。婚約者は料理の先生、お母様も料理の仕事をしておられるということで、西洋風カレーはとてもおいしかった。

その内に、婚約者の妹さん、巖君の八戸時代の同級生二人（広島海上保安庁と

東京在住の人）も来て総勢8人、にぎやかな夕食会となった。ビールも足らなくなり、巖君と東京の同級生が再購入に行く。十分にいただいて、大いに話して大満足

の一日となった。22時就寝。

吉村さんよりTELあり。明日、正午、九段下交番で会うことになる。

※ 今日のデータ 出発 7時40分 到着 18時30分

走行距離 95.89 km 走行時間 5時間30分41秒

平均時速 17.3 km/h 最高速度 ? km/h

積算距離 6416.47 km 総走行距離 10441.95 km

第85日 8月17日（金） 晴

東京都～横浜市 横浜市 [神奈川YH]

9時30分起床。こんなに遅くまで眠っていたとは本当にびっくり。やはり、疲れがたまっていたのだろうか。巖君は、この部屋は光りが全く差さない部屋だからと言っていたが…。

洗面、朝食後、しばらく歓談。10時30分、巖君、フィアンセ、八戸同窓生は仕事に出かける。私は、それから出発準備をし、11時20分、消灯し錠をかけて出発する。

鶴巻町の巖君の家から出たすぐのGSで、九段下への行き方を聞くと、早稲田電停から来た昨日の道とは、易い行き方を教えてくれた。

鶴巻町→飯田橋→九段下 という簡単な道順で、約20分で九段下に到着した。

正午、吉村さんと再会。二年ぶりの再会だ。吉村さんは、日本時計学会の事務局長をしておられ、毎週2回東京の事務所に出てこられるとのこと。九段下のレストランで昼食をしながら交歓する。食事は〈しょうが焼き定食〉と〈生ビール〉。吉村さんは、日本徒歩一周後、最近では内陸を歩いておられるということで、よく日焼けしておられた。食後、近くの靖国神社にお参りする。遊○館にも行ってみる。

14時、吉村さんと別れ横浜に向かう。今日もちりちりと強い太陽が照りつける。九段下 → 神保町→神田駅→日本橋（国道15号線に） と教えてもらい、安靖国通り

心して走って行ったが、神保町で神田駅への方向を間違えて、あちこちと大分時間がかかり、ようやく日本橋に着いた。



日本橋

日本橋は、日本の道路網の基点とあって、特別の感慨が湧く。警備員の方に写真を撮っていただく。ここから、国道15号線を下って行くが、車も人も多く、きた、信号も多く、なかなか進まない。銀座を抜ける時は、特に人通りが多かった。銀座街はあか抜けている。

品川を過ぎたところ辺りから、ようやく混雑が少なくなり、当たり前のように走れるようになる。

多摩川を渡り神奈川県に入る。鶴見、東神奈川と過ぎ横浜に入るが、国道15号線が終わり、

「神奈川YH」への行き方に迷う。みなとみらいの方向に入り、おかしいと思い右折して高島町へ。高島町から桜木町に向かい、もみじ坂を登って「神奈川YH」に到着する。

宿泊手続きをして、入室。同室者3名あり。入浴後、夕食を購入に行くがにわか雨が降り、約30分間コンビニで待機する。休憩室で食事。食後、日誌を半分書き、明日の行程の予定を確認する。22時就寝する。

（注）今日は、本来ならば長男・啓の所に宿泊するところであるが、お盆で家族は山口の私の妻の所と広島の実家山下さんの所に帰省しており、啓の所への宿泊は取り止めたのである。

※ 今日のデータ 出発 11時20分 到着 18時00分

走行距離	37.17 km	走行時間	2時間27分33秒
平均時速	15.1 km/h	最高速度	? km/h
積算距離	6453.64 km	総走行距離	10479.12 km

第86日 8月18日（土） 曇時々小雨
横浜市～神奈川県二宮町



台湾から旅行中の許永森さん

二宮町 [妹・阿部弘子宅]

5時起床。日誌の続きを書く。早く出発したかったが、管理人さんが7時前まで居られないので玄関が開かず、やむなく待つ。その間、休憩室で台湾から旅行に来られた許永森さんと話す。十日間、JR切符で九州～東北を旅されるとのこと。日本語が達者だ。台湾の70歳以上の方は殆んど日本語が話せるそうだ。台湾の方は、日本には戦前・戦中よくしてもらった（復興・近代化・産業等）と、尊敬と親しみの気持ちを持っておられるそうだ。



横浜・中華街

空は曇、今にも降ってきそう。テントと銀マットに防水カバーをかける。7時20分出発。

国道133号線から県庁前を通り、レンガ倉庫を見学に行く。そこから中華街に行き、「龍仙」で朝食に〈龍仙粥〉を食べる。750円。おいしい。ここから、山下公園に行き、花壇や船を見る。つづいて、「みなとが見える丘公園」に登る。横浜ベイブリッジがよく見えた。散歩中の老夫婦から声をかけられ、気をつけて行くように言われる。

ここから下って、県道82号線に出る所で雨が降り始める。まだ、開いていない駐車場に車を止めて、荷物に防水カバーを取り付け。上衣合羽を着る。帽子もヘルメットの下にかむる。大降りにならなくて小雨という状態がしばらく続く。横浜見物で時間

を取ったので、少々気持ちが焦る。関門を通り、八幡橋で国道16号線となる。横須賀までがとても遠かった。横須賀港には自衛隊の潜水艦が停泊していた。三春町で国道134号線を進み三崎町方面へ向かう。久里浜を通り三浦海岸に出る。この頃には雨は上がっており、少しほっとする。昨日までの暑さと打って変わって曇空で、涼しさもあり、よかつたと思う。三浦町で、和風レストラン「茂作」で昼食、〈特別たぬきそば〉を食べる。12時20分。



横浜ベイブリッジを望む

13時再出発。国道134号線の坂を登

り、引橋で右折、鎌倉へ向かう。三浦半島最南端の城ヶ島は割愛する。

葉山では、皇室の御用邸があった。入ることはおろか、門は閉まり、警備員が居り、のぞいて見ることさえできなかった。葉山は、本当に高級避暑地という感じの所だった。森戸神社があり、頼朝公の信奉した神社ということで、お参りし朱印をいただく。潮騒公園も森戸、逗子のいずれの海水浴場もにぎわっていた。逗子海水浴場では、特にカラフルな色取り取りのサーフィンでウィンドサーフィンを行っていた。海に花が咲いたようだった。



逗子海水浴場

いくつかのトンネルを抜け、鎌倉に入る。由比が浜もにぎわっていた。このコンビニ



江ノ島

で、ヨーグルト・赤飯を食べ、アイスクャンデーで休憩する。

ここから、江ノ島までは、ずーと車が渋滞しており、車の左を走るのに、すり抜けながら走るという感じだった。この七里ヶ浜では、サーフィンをする人々が多くいた。うまく波に乗ってすべる姿は、気持ちいいだろうと思う。江ノ島は、島の東側全体が海浜リゾートとなっており、ここも多くの人でいっぱいだった。

江ノ島を過ぎると車は減り、辻堂からは快走した。こちらの湘南海岸も多くのサーフィン客でにぎわっていた。松並木の中を茅ヶ崎、平塚と過ぎ、大磯の手前で国道1号線に入る。この国道1号線は箱根駅伝のコースだ。大磯ロングビーチは高速道路に面しているので見ることはできなかった。

二宮町で県道71号線に右折して、妹・阿部弘子宅に向かい、17時50分到着する。

ご主人・武さんは出張中で不在。甥の晃君もボーイスカウトの指導で今日はいない。まず、お風呂に入りさっぱりする。まもなく弘子さんの友達の中山さんご夫妻も来られ、四人で会食する。お酒を酌み交わしながら、自転車の話他色々で交歓する。ご主人さんはこうしたアウトドアに大変興味がお有りのようだ。21時頃会食が終わり、弘子さんは洗濯をしてくれる。



サーフィンのメッカ・湘南海岸

22時30分就寝。長男・啓は23時30分頃来たとのことだ。

※ 今日の日	出発	7時20分	到着	17時50分
走行距離	110.99 km	走行時間	6時間37分23秒	
平均時速	16.7 km/h	最高速度	? km/h	
積算距離	6564.63 km	総走行距離	10590.11 km	

第87日 8月19日(日) 晴

神奈川県二宮町

二宮町[妹・阿部弘子さん宅にて休養]

起床7時。今日は一日休養の日とする。寝具を片付け、洗面、雨戸を開ける。今日は朝から日が照り続けている。朝食を弘子さんと啓と三人です。朝食後3日分日誌を書き始める。

10時、啓の車で三人で小田原市の百貨店「ロビンソン」に買い物に行く。外は猛烈に暑いですが、百貨店の中に入ると涼しい。食品類を中心に色々買い物をして、「イトーヨーカドー」にも行く。帰りに、二宮町のカメラ店に寄り、デジカメのカードの写真をCDに入れてもらう依頼する。

お昼は、弘子さんの作った〈冷麦〉。暑い時にはこれに限る。おいしかった。

午後日誌の続きを書き、完了。15時過ぎ、カメラ店に受け取りに行く。少しゆっくりして後、啓は明日があるからと帰る。

夕方、晃君帰ってくる。ボーイスカウトのことなど労をねぎらう。しばらくして、夕食。晃君の話を色々聞きながら会食する。仕事のこと、夢のこと、身体のことなど。

会食後、明日のコース、ゴールまでの日程調整をする。伊豆半島巡りは3日間を4日間に変更する。暑さの中、U.D.のコース。無理をしないように。石廊崎ペンション予約する。22時就寝。

※ 今日のデータ 一日、妹・阿部弘子さん宅で買い物、旅の整理、休養をする。

第88日 8月20日(月) 晴

二宮町～伊東市

伊東市 [道の駅・伊東マリンタウン] テント泊

6時30分起床。洗面後、雨戸を開け、荷物の整理。朝食後、静岡市の石田氏、大阪市の稲田君に手紙を書く。晃君のパソコンで宿の検索を行なう。10時過ぎから出発準備を始める。暑いので、これだけで汗びっしょりになる。



妹・阿部弘子さん宅

昼食に、そば・かき揚げ入りと野菜ジュースをいただく。ボトルを冷凍庫から出し、ボトル受けにセット。出発しようとする、自転車が安定しない。前タイヤの空気が異常に少なくなっていた。ボンベで空気を注入し、栓をきちんと閉める。

11時50分、炎天下の中を出発する。石田氏・稲田君への手紙をポストに投函。県道71号線から右折、国道1号線に入る。暑さの中を平坦な道を西走。小田原城を見学する。

堅固なきれいな城だ。遠くに箱根がかすんで見える。

早川口で国道1号線と分かれて、国道135号線に入る。急に道が狭くなり、歩道もない。車は多い。危険極まりない。海は青く、山はきれい。石橋を過ぎて、真鶴有料道路(沿岸線)と分かれて山道になる。曲がりくねった標高100m以上はあると思われる山坂道だ。時々、海が見える。景色はよい。

湯河原町も観光の町だ。湯河原町を過ぎるとすぐに熱海ビーチライン(有料)と分かれて、山坂道になり、登って行く。ここも曲がりくねった国道で標高100mはあると思われた。峠を越えて下っていき、熱海に至る。



熱海市



小田原城

熱海は温泉のメッカ、高級ホテルが建ち並び、観光ムードいっぱいの雰囲気だ。

金色夜叉の松があった。港には、ヨットもたくさん停まっていた。丁度、伊豆半島からの連絡線がもどってきた。大きな船だが、前後の翼を拡げて浮かび70km/hの速さで飛ぶように走るようだ。

ここから、錦ヶ浦の峠を越えて伊豆多賀に至る。沖には初島が見えていた。大きな白い建物がある。ここで小休憩し、伊東市に向かう。ここまで水分はこまめに取るよ

うにしてきた。網代の海岸線も道幅が狭く、曲線で、上りがつづき、トンネルも多く、極めて危険だ。慎重に進む。下って行って宇佐美に入る。宇佐美町の海岸線を見ながら道の駅「伊東マリンタウン」に到着する。

ここには、物産店・レストランなど色々な店がある。温泉施設も併設した大きな道の駅で、多くの人でにぎわっていた。事務所に行き、名刺を渡してテント泊をお願いすると、女性の事務員さん快諾くださり、芝生の中にテントを設営させていただく。設営中、温泉のマスターさんが来られて、入浴招待券をくださり、色々と便宜をはかってくださった。



道の駅「伊東マリンタウン」

温泉に入浴後、同温泉のレストランで夕食、今日は、〈アジのフライ定食〉と〈ビール2本〉。その後、休憩室で日誌を少しつけて休憩、21時テントに帰り就寝する。

夜中は、車の通る走る音で度々目が覚めた。

【記事】・食事中、榎本さんから電話あり。

・「白い恋人」営業停止。函館市の海鮮市場へ電話する。注文、発送依頼した「白い恋人」の他の品への交換を依頼。OKとのこと。夕方再び電話あり、他の品物はゆっくり決めてくださいとのこと。ほっとする。

・ さくら会からの連絡のこと、妻より電話あり。

※ 今日のデータ 出発 11時50分 到着 17時30分

走行距離 64.04 km 走行時間 3時間54分15秒

平均時速 16.3 km/h 最高速度 ? km/h

積算距離 6628.67 km 総走行距離 10654.15 km

第89日 8月21日(火) 晴

静岡県伊東市～南伊豆町石廊崎

石廊崎[ペンション・フラットフォー]

5時起床。洗面後、6時まで日誌の残りを書く。天気は晴れ。出発準備、写真を撮り、7時出発。

出発してすぐのコンビニで朝食。今日のコースも、道幅狭く、U.D.の連続で苦しい。しかも、トンネルもあり、それも上り坂のトンネルだ。バランスを崩したり、止まったりすると大変だ。一生懸命、慎重に、頑張ってこいで登る。メガネをかけていると、顔、頬、手腕に汗が流れてくる。しかし、上りだから、片手で汗を拭こ



東伊豆温泉郷

うとするとバランスが崩れるので拭けないし、上りだから止まって拭くわけにも行かない。これが一番困る。最初の田代トンネルの上り坂は本当に長かった。

山間の殿山、小室、富戸、八幡野と通り、赤沢の海の見える所に出た。富戸で、車から“どこから?”と声をかけられる。

伊豆半島は、海がきれいだ。青く澄んだ色に、複雑な海岸風景。山々は高く、大きく、濃い緑におおわれている。入り江毎に温泉郷があり、

どこも寄ってみたい気持ちになる。

ここから、温泉郷の連続で、当然U.D.も連続して出てくる。赤沢温泉、大川温泉、北川温泉、熱川温泉、片瀬白田温泉と並ぶ。白田温泉では、山の中腹に別荘と思われるカラフルな家々が林立していた。さらに南下し、稲取温泉。ここまでは、砂浜はなく、山肌は急斜面で海に入っている。今井浜に来て、はじめて砂浜が現われる。海水浴客で明るい海浜風景だった。

さらに南下し、下田市に入る。伊豆一の宮「白浜神社」にお参りする。ここ白浜は下田市のリゾート地という感じで、多くの若者たちが最後の夏を楽しんでいた。

道の駅「開国下田みなと」に寄り、観光案内所で食事処の案内図と地図をもらう。

駅前の「天城」という食事処で〈金目鯛定食〉の昼食をとる。

日中はとても暑い。さらに国道136号線を南下し、日野で夕食を購入。県道16号線を進む。いよいよ伊豆半島の南端になってくる。入り組んだ海岸線で、岩々が変化に富んだ海岸風景を見せてくれる。道はフラットだ。菟掛島という美しい島もあった。



南伊豆の海岸

この近くにアロエの原生地があり、「アロエセンター」にも寄ってみた。アロエのアイスクリームはおいしかった。ここのおばさん方も自転車日本一周に関心しておられる。ここから、急坂を上り下りして、今日の宿ペンション「フラット・フォー」に着く。

ご主人は、とても親切にしてくださる。露天風呂に入る。小さいが周りの緑がいっぱいに入ってくる風情

のある露天風呂だった。部屋で夕食。くつろぐ。

※ 今日のデータ 出発 7時00分 到着 17時00分

走行距離 69.62 km 走行時間 5時間16分41秒

平均時速 13.1 km/h 最高速度 ? km/h

積算距離 6698.29 km 総走行距離 10723.77 km

第90日 8月22日(水) 晴

南伊豆町石廊崎～西伊豆町土肥

土肥 [さぎ波キャンプ場] テント泊



石廊崎の朝日

5時起床。洗面をし、石廊崎へ出かける。宿から250m下って石廊崎港。ここから1Km歩いて灯台へ行って見た。日の出を見たかったが、もやがかかって水平線から昇る太陽は見られなかった。

宿へ帰り、6時25分出発する。今日のコースもU.D.の連続で、東海岸よりもきつかった。つらいU.D.を越えていきながら、所々の展望台で美しい海岸風景を眺め癒される。山々は高く、大きい。南国の花も見られる。



急斜面の東伊豆



白浜海水浴場

差田で国道136号線に入り、再びU.D.を越えていく。途中小さな商店があったので、パンと牛乳を朝食に食べる。この店のおばあさんに聞くと、“この辺りは農家が多いが、農業だけでは生活はできず、若い人は殆んど勤め人として外に出かけ勤務している。農業は主として老人の仕事で、それも細々としている。”ということであった。

高い所から見る妻良、子浦の風景は美しかった。子浦からマーガレットラインと呼ばれるロードも格別きつかった。途中、「峠の茶屋」でひと息休憩。ここで自転車旅行中の学生さんと出会う。川崎市の人で、一週間行ける所まで行くという。帰りは輪行するとのこと。今日は三島まで行くという。若い人は元気だ。「峠の茶屋」だから、もうすぐ峠かと、ここのおばあさんに聞くと、“まだまだこれからだ。まだ、1/3だ”と言われ、さらに覚悟する。ここで、「石部」という無料の露天風呂があることを教えてもらう。



ペンション「フラット・フォー」



美しい妻良・子浦の風景

ここからも小さなUD.がいくつもあって、つらい気持ちで松島町へ向かう。

石部で教えてもらった露天風呂を探す。すぐに見つかり、行ってみると「平六地蔵露天風呂」といい、丁度、家族連れの子が入浴していた。ここは、男女混浴で水着を着けたまま入る。広い湯船に山から温泉が注がれて、滝のように落ちてくる。まさに自然の中にある露天温泉だ。ゆったりと気持ちよく入る。

松崎町は観光の町、長八美術館・記念館とともに、お店がずらりと並んでいる。その中の一つの店の方が“ところてんを食べて休んでいらっしやい”と言われる。〈ところてん〉を二杯いただいて、三島町の米山先生へのお土産〈びわのプリン〉を買う。ここで、堂ヶ島の「うらしま茶屋」を教えてもらい、2Kmほど走って「うらしま茶屋」に着く。ここで昼食〈海鮮ラーメン〉。



堂ヶ島

再出発。本当に厳しい。登っても登っても峠に着かない長い上り坂を越えて、GSで頭を水洗いをさせてもらう。水ももらう。

ここから、さらにきついU.D.を二つ越えて、軽食喫茶に着く。風景もよかったし、お腹も足しておこうと、コーヒーと一緒に笹餅を二個食べる。

さらに、2~3つの峠を越えて、ようやく雲見に下って行った。雲見の海岸線に下りて、

堂ヶ島は、一段と美しい風景だった。海と小島と松の変化に富んだ配置が何ともいえない芸術美だ。写真を何枚も撮る。

ここからは、また大小のトンネルを抜けて宇久須に至る。宇久須からも、同様に大小のトンネルがあり、特に上り坂のトンネルがいやだった。そして、恋人岬に至る。岬までは800m歩くということで、入口で写真のみとする。

ここから少し行くと、「達磨寺」があった。

ここは、京都の法輪寺の別院だそうだ。健康になる寺ということで、達磨さんの像をさすった。住職さんが日本一周される人のためにと、拝観料のいる仏像を特別に見せてくださった。立派な坐像の達磨仏だった。写真も撮ってくださる。

ここから、坂を下って行って、土肥のさぎ波キャンプ場に到着する。すでに、5～6つのテントが張られていた。テント設営後、シャワーを浴びてさっぱりする。テントで夕食。その後、洗濯をして軒下の物干しに干す。蚊は全くいなくて、気持ちのよい夕べだ。家族連れのカンパの方々ばかりだった。中学生が二人、自転車で伊豆半島一周を三日間でするといふ。“すごい体験になるよ。がんばってね。”と励ます。20時就寝。

※ 今日のデータ 出発 6時25分 到着 17時00分
走行距離 64.20 km 走行時間 4時間50分35秒
平均時速 13.2 km/h 最高速度 ? km/h
積算距離 6762.49 km 総走行距離 10787.97 km

第91日 8月23日(木) 曇時々小雨

西伊豆町土肥～三島市長泉町

5時起床。海岸で朝食。土肥の海岸は温泉ホテルをバックに美しい。ワシントンヤシもよくマッチしている。

荷物を整理、自転車にセットし、テントもたたんで防水カバーをかけ、これもセットして、出発準備が完了したところで、7時過ぎ猛烈な雷雨がやってくる。まさに大雨、土砂降り、雷が頭上で鳴り、大嵐の様相だ。洗濯干し場に自転車とともに逃げ込む。他のお客さんの親子も入って来られる。しばらく待って、7時40分ようやく収まってくる。雷雨の完全に止んだ8時出発する。

土肥金山の入口を見る。9時閉館なので中の見学は割愛する。つづいて、世界一の花時計を見る。この公園の花壇もきれいに整備されていた。つづいて、土肥温泉足湯に浸かる。他に若い男女数人も浸かっていた。



土肥温泉足湯

雨が降り出して、ここで小休憩。お店でパンとおにぎりを食べる。小雨が止まないの、バッグにも防水カバーを取り付け、上衣合羽を着て出発する。

すぐに急な上り坂になり、自転車に乗っては登れず降りて押す。そうしていると、折角合羽を着たのに雨は止み、日が照ってくる。暑いので、止まって合羽を脱ぐ。約300m押して登り、少し傾斜が緩やかになったので、再び乗ってこいで登る。

三島市長泉町 [米山巖先生宅]



土肥の海岸と温泉ホテル

天気の方は、雨は上がっているが、いつ降りだしてもおかしくない状況だ。県道17号線に入ると、いきなりカーブした長い上りになる。懸命にこいで登る。途中の旅人岬からの景色はきれいだった。川崎市から来たという家族旅行の方から声がかかり、一緒に写真撮影。ジュース一本いただく。ここからさらに登って曲がりくねったやや平坦な道路になる。部分的に道幅狭いが海の眺めが素晴らしい。小さなU.D.を繰り返しながら、戸田へ下っていった。

ここの上りも結構長かった。展望所「夕映えの丘」で景色を眺める。天橋立を思わせる絶妙な眺めだ。

ここからさらに50mばかり急坂があり押して登る。「夕映えの丘」で写真を撮り合った若いカップルから“頑張っ”と車中から声をかけてもらう。曲がりくねった平坦路を走り、井田に下りていった。下りたと思うと、すぐに上り坂になる。ここも長い急坂で、粘りが効かず押して登る。約800m押していくと、やや緩やかな坂になり再び乗って登る。曲がりくねった上り坂をこいで、頂上の井田トンネルに至る。ようやく登ったという思いだった。下りの途中展望所があり展望する。遠く富士山が雲の上に浮かんで見えた。ここから、いくつもカーブをしながら長い下り坂を大瀬崎へ下って行った。

これまでで今日のコースが一番苦しかったと思う。

駿河湾を左手に、対岸に富士市、沼津市が見えている。曲った平坦道を伊豆の国市へ向かう。平沢という所で「貝殻亭」というレストランがあったので入り、昼食〈焼魚定食〉を食べる。お手製のからしがいい味を作っていた。米山先生、石田勝彦君に電話する。ここから、富士山が雲の陰からよく見えた。

14時過ぎ出発。すぐに、迎えに来られた米山先生に出会う。初めての出会いに握手を交わして、先生の先導で長泉町に向かった。国道17号線から江浦で駿河湾から分かれて県道に入る。放水路を見ながら四日町を通り、国道136号線を北上する。三島市で三島大社にお参りする。



お世話になった米山先生ご家族



「夕映えの丘」からの眺め



井田の展望所より遠く富士山を望む

まもなく、長泉町の米山先生宅に到着する。防水カバーを道場に干し、自転車もそこの玄関に入れ、貴重品だけ持って本宅にお邪魔する。お嬢様に迎えられる。すぐに入浴をさせていただき、洗濯をさせてもらう。まもなく、奥様帰られてみなさんと一緒に夕食。たくさんのご馳走とビールをおいしくいただく。「うな重」もとてもおいしく、元気が出る。自転車旅行のこと、家族のこと、スポーツ少年団のことなど、楽しく会話が弾んだ。22時就寝。

※ 今日の日	出発	8時00分	到着	16時30分
	走行距離	66.68 km	走行時間	4時間36分41秒
	平均時速	14.4 km/h	最高速度	51.4 km/h
	積算距離	6829.17 km	総走行距離	10854.65 km

第92日 8月24日(金) 曇

三島市長泉町～静岡市

静岡市 [梅乃屋旅館]

7時起床。パンと牛乳、野菜、鶏肉などの朝食をいただき、コーヒーもよばれる。天気は曇。暑さはなきそう。

8時30分出発。米山先生の先導で、県道394号線を下って駿河湾の防潮堤に向かう。通勤時間帯を少し過ぎているが、車も人も多い。歩道と車道を出たり入ったりしながら進む。防潮堤に入ってから人は人もなく、のんびりとマイペースで海・山の景色を見ながら走る。

千本松浜は壮大で15Kmもつづいている。日本一の松原と思う。残念ながら、雲が低く垂れ込めており富士山は見えない。駿河湾の千本松浜には釣り人が何人もいた。

田子の浦港に至る。平安時代の「田子の浦ゆ……」の面影はない。それでも、一時公害で汚れていた港も、今はきれいになっているとのこと。米山先生曰く、田子の浦から眺める富士山は絶景だそうだが、今日は曇空でまったく見ることができず残念この上ない。道の駅「富士」で小休憩。米山先生は、〈熱いうどん〉、私は〈熱いそば〉を食べ、お腹を少しふくらます。



千本松浜



防潮堤を走る一米山先生撮影一

富士川は幅が大きい。ここを渡ると、再び海岸線の防潮堤に入る。吹上の浜には、「桜えび」を干すそう。その時期には、桜えびを干すピンク色の浜とバックに富士という風景は風物詩になるということだ。蒲原では桜えび通りを通る。ここでしか獲れないえびだそう。国道1号線と平行している県道を走り、清水市に入る。ここで石田君よりTELあり、17時頃店に行くことにする。清水市には、サッカーの清水エスパルスの本拠地があった。

国道150号線から三保に入る。三保の松原を通り、羽衣の松に到着する。石段を登り、駿河湾の見える丘から羽衣の松が見えた。松は浜にあり、老木(樹齢650年)だったが、枝振りによく、さすがに手を広げているようだ。写真撮影。ここで、昼食、〈ねぎとろ丼〉を食べる。少しだけビールで乾杯する。三保の松原で、私の自転車走行の様子を写真にとっていただく。

米山先生にはここまでの伴走本当にありがたく、感謝の気持ちでいっぱい。特別なコースを設定してくださり、一人旅では見ることのできない景色や、歴史・風物をたくさん見たり学んだりすることができた。走行距離は片道60Km以上もあり、帰りの到着は私が宿に入る時刻よりもかなり遅くなるようで、申し訳ない気持ちだ。三保入口にもどり、ここで米山先生に厚くお礼を言って別れる。



羽衣の松 一米山先生と一

国道150号線を駿河湾を見ながら下り、久能山の入口に着く。高い石段で往復

1時間はかかるということで、下からの写真撮影だけにする。さらに走り「登呂の遺跡」を見学する。丁度、整備工事中で、住居の復元したものだけしか見ることができなかった。水田後というのがあり、弥生人の生活を偲ぶことができた。



石田君ご家族

ここから約20分走り、静岡駅に到着する。駅ビルにある石田君の宝石店「パミール」を訪問する。彼とは、年賀状こそ毎年交歓していたが、学生時代以来の再会となる。頭は白くなっていたが、どっしりしていて、立派な実業家という感じだった。握手を交わす。奥様、お嬢様にも挨拶する。しばらく交歓し、改めて懇親の約束をしてひとまず退出する。

今日の宿「梅乃屋」に到着。入浴して、さっぱりする。18時30分、石田君の招待で駅ビルの料理店で懇親する。ビールがおいしい。刺身盛り合わせとしらす、は

んてんをいただく。彼は、ここまでの店に築き上げるまでの出会いや苦労の話をしてくれた。信念を持って着実に進んできて今日があると敬服する。21時終了。名残を惜しみながら再会を約して別れる。

宿に帰り、洗濯をし、明日のコースの検討をして24時就寝する。

※ 今日のデータ 出発 8時30分 到着 17時00分

走行距離	87.95 km	走行時間	5時間26分00秒
平均時速	16.1 km/h	最高速度	58.7 km/h
積算距離	6917.12 km	総走行距離	10942.6 km

第93日 8月25日(土) 晴

静岡市～静岡県天竜川

天竜川 [竜洋海浜公園キャンプ場] テント泊

5時起床。日誌を二日間分付ける。出発時、写真撮影。県道354号線から、国道84号線に入り、駿河湾に向かう。途中、コンビニで朝食。国道150号線に入り、駿河湾沿いに御前崎に向かう。少し走って県道416号線に入り、海に近い道に入る。米山先生に無事出発の電話を入れる。

直ぐに、大崩海岸の上りにかかる。チェーンに音がしはじめたので、上りの前に油をさす。約1.5 Kmの上りを汗をかいて登る。峠からの眺めは断崖の上から見下ろすという感じだった。富士山は今日もかすんで見えなかった。下って行って焼津市に至る。



大崩海岸

焼津市でカメラ店を見つけデジカメカードの写真をCDに入れてもらう。ここで、近くに深層水が湧く所があると聞いた。焼津市から県道31号線を行くつもりが、いつの間にか国道150号線を走っており、もうこの道を行くことにする。暑いのは暑いがお盆の頃の照りつけるような灼熱の暑さとは違うので、いくらか楽だ。陰に入ると冷やとし、気持ちが良い。また、平坦な道で走り易かった。

もまなく、大井川に至る。大きな川だ。渡るのに大分時間がかかった。1 Km以

上あったと思う。榛原町、相良町と過ぎ、須々木海岸を走っている時、母子の家族連れに止められる。色々に興味を持って日本一周のことを聞かれる。御前崎に住んでいるが、一泊泊っていかないとと言われる。今日は天竜川まで行き、竜洋海浜公園のキャンプ場でキャンプする予定だと言って、感謝の気持ちを述べておことわりする。計画があるのなら残念だが仕方がないね。気をつけて旅を続けてくださいと温かい言葉をいただく。子どもたちとも挨拶を交わしてお別れをする。数分後、車で追い越される時、車の窓から子どもたちの頑張っている声に励まされる。このあたり砂防松林がつづく。

地頭方から県道357号線に入り、御前崎の岬に向かう。途中、御前崎港で港祭りをやっていた。寄ってみると、丁度海上保安庁の船「あしたか」が入港し接岸するところだった。上官と思しき方に徳竜希君は乗っていないか聞いてみたが、彼は乗っていないということだった。お祭りは地元の漁師さんのお祭りという感じで素朴なにぎやかさだった。すぐそばにある「御前崎海鮮なぶら館」で昼食にする。まぐろの刺身がメインの〈なぶら定食〉を食べる。



なぶら定食



御前崎

御前崎は、遠浅の海に岩がごつごつあり、波が岩に打たれて白波を上げていた。灯台は高台にあり、下から眺める。

御前崎からの県道357号線は遠州灘を見ながら快走する。このあたりの砂浜は海がめの産卵地だそうだ。また、サーフィンのメッカでもあり、若者たちがたくさん楽しんでた。再び国道150号線にもどり、浜岡原子力発電所があった。時間が遅くなっていたので見学はやめる。

菊川を渡り、大須賀を通り、太田川を渡って、地平線近くまで下がった太陽を前面に見ながらキャンプ場入口に至る。ここのスーパーで夕食を購入。まもなく、天竜川そばにある竜洋海浜公園キャンプ場に到着する。真っ赤な大きな真ん丸い太陽が地平線に沈みかけていた。

管理事務所で宿泊料2,415円と聞きびっくり。でも、もう行く所もないし、施設もしっかりしているので入村する。多くのマイカーでキャンプに来た人たちのテントが並んでいた。私は、21番にテント設営。シャワーを浴びて、夕食。コインランドリーで洗濯、乾燥。夜は涼しい。22時就寝。



竜洋海浜公園キャンプ場

※ 今日の日	データ	出発	7時10分	到着	18時15分
	走行距離	110.5 km		走行時間	6時間28分53秒
	平均時速	17.0 km/h		最高速度	? km/h
	積算距離	7027.62 km		総走行距離	11053.1 km

第94日 8月26日(日) 晴

天竜川～愛知県伊良湖岬 伊良湖岬 [休暇村伊良湖キャンプ場] テント泊
隣のテントの家族連れのお父さんに声をかけられる。伊豆の今井浜から来られた



家族キャンプ中の親子

2家族親子計7人だ。こうした家族キャンプも子どもを健やかに育てる上で大変意義のあることと思う。このお父さん、自分も自転車日本一周の夢を持っているとのことだ。コーヒーをご馳走になる。この家族に見送られて7時30分出発する。

海側の国道150号線に行く。有料の遠州大橋を渡り、続けて遠州灘大橋を渡る。この橋からチヌを釣る人がいて、少し話をする。結構釣れるそうだ。少し行って、コンビニで朝食にそうめんを食べる。目の前が中田島砂

丘だった。米津という所で国道1号線に入り、浜名湖に着く。

弁天島で景色を見る。湖はあまりきれいに澄んではない。犬を泳がせている家族や遊泳をしている人たちがいた。赤い大鳥居は名物だろうか。駅の下を通り抜ける道をくぐって北側に行く。北側の弁天島をぐるっと走って周って見た。湖には、種々のイカダがあり、浜では湖遊びをしている人たちがいた。

国道1号線をさらに下り、大倉戸ICを過ぎて、潮見坂の峠を登る。約1.5Km

の上りカーブ、十分に汗をかいた。峠を下った白須賀の道の駅で小休憩。アイスクリームを食べる。こういうのがひと時の清涼剤となる。

ここから渥美半島に入っていくことになる。渥美半島太平洋側の国道42号線は小さなU.D.が結構あり、上りの毎に汗をかいた。快走とはいかなかった。道は海岸から離れており、海は殆んど見えなかった。伊古部町を過ぎ、坂下を少し下った所に軽食喫茶「あら波」があり、日替わり定食<とりの唐揚げ定食・コーヒー付>700円で昼食をとる。ごはんお替りをする。ボトルに水をもらう。

ここから、さらに百々、大草、高松一色と走る。沿線には卵の牧場がたくさんあった。畑には、作物はなく、耕していたり、小さな苗を植えたりしていた。ビニールハウスもたくさんあったが、中はこれから植えるという様子だった。作物を植える時期なのかなと思う。松田君にメールを入れる。今日は、陸上少年団の県下関大会だ。労をねぎらう。

和地を過ぎたあたりで自転車道があり走ってみる。海岸に出る。遠州灘を眺める。釣り客がいた。あまり釣れていないようだった。岸に打ち寄せる波は大きい。伊良湖岬へは急坂を登っていった。手前の岬の上からは日の出の石門がきれいによく見えた。伊良湖岬は、夕日に向かって眺めるので、逆光で、恋路が浜が光って見え、岬は明瞭には見えにくかった。



浜名湖



伊良湖岬

道の駅「伊良湖クリスタルボルト」は、鳥羽に渡るフェリーの伊良湖港と併設していた。レストランで冷たい水をよばれる。おいしい。

ここから、休暇村伊良湖まで約3 Km。途中、コンビニで夕食・朝食を購入。村に入る。ここも、2700円の宿泊料だった。竜洋海浜公園と同じオートキャンプ場だからだろう。数グループの方がキャンプしておられる。37番にテント設営。蚊取り線香を炊いて、常設のテーブルを掃除して夕食をする。その後、「国民休暇村伊良湖」の温泉に入浴に行く。ゆったりと疲れをとる。携帯の充電をさせてもらい、コインランドリーで洗濯、乾燥をする。その間、広間で日誌をつけたり、新聞を読んだり、テレビを見たりしてくつろぐ。21時50分退出し、テントに帰る。22時30分就寝。

※ 今日のデータ 出発 7時30分 到着 17時55分
走行距離 82.61 km 走行時間 5時間19分12秒
平均時速 15.5 km/h 最高速度 ? km/h
積算距離 7110.23 km 総走行距離 11135.7 km

第95日 8月27日(月) 晴

愛知県伊良湖岬～安城市

安城市 [道の駅・デンパーク] テント泊

5時起床。まだ暗い。大分、夜明けが遅くなってきたようだ。朝食をとり、5時30分からテーブルで日誌を書く。6時40分書き終えて、身辺整理・片付けをして、出発準備をする。今日も晴れ、暑くなりそうだ。

36番の方に、国道259号線までの行き方を聞く。前タイヤの空気が少なめなので、空気を注ぎ、7時35分出発する。途中、キャンプ場の中にあるゴミステーションにゴミを始末する。休暇村の入口で写真撮影。すでに太陽が照り付けている。



休暇村・伊良湖

国道259号線に入り、畑作業で苗を植えておられるおばあさんに話しかける。キャベツの苗だそう。そういえば、到る所でキャベツの苗が植えられており、自動水やり機が回って水をやっている。自転車で部活に行く男子中学生と話す。日本の中学生はどこに住んでいても部活に熱心に取り組んでいるのだと思う。この中学生の説明で、渥美半島はキャベツの産地だとわかる。



キャベツ畑・渥美半島

宇津江では、海側の旧道を走る。海が見えて景色がよかった。田原市に入り、道の駅「田原めっくんはうす」で小休憩。富島、老津と過ぎ、GSで豊川橋(有料道路)は自転車通行可能かどうか聞くと、「大丈夫、今は無料になっている」とのこと、冷たい氷の入った水をボトルに入れてくださる。

大崎ICの分かれ道で、国道23号線の豊川橋に行くか、そのまま豊橋市内に行くか迷ったが、そのまま国道259号線を通って豊橋市内に行くことにする。豊橋市内に入り、愛知

大学前で左折、豊橋環状線を走る。豊橋は岩国よりにぎやかな中都市という感じだ。国道23号線に入り、そのまま進むつもりが新栄西の交差点で右折するのを見落として直進、どこまで行っても渡るはずの渡津橋に至らない。トラックの運転手さんに聞くと、“方向が違う。名古屋方面へ行くのなら、真直ぐ行ってバイパスで右折しなさい。”と言われる。完全に道を間違えていたことに気づき、真直ぐに進んで行くとバイパスに出た。そこで右折すると豊川橋にさしかかった。ここではじめてどこを走ってきたかわかった。このバイパスは大型トラックの多い渋滞した道で、豊川橋を渡る間中のろのろだった。

暑い。汗をふきながら、水分を取って進む。それでもお盆の頃よりは楽だ。国道23号線を蒲郡市に入る。三河名物のうどんを食べたいと思い探しながらかつて行くがなかなか見つからない。ようやく見つかったので行くと休業日だった。さらにすすんで市街地を出る所に大きな老舗のうどん屋さんがあった。ここで食事とともにデジカメの充電・コンタクトレンズの洗浄の電源をお願いすると、みごとに断られた。やむなく、うどんをあきらめて引き返し「すき家」に行き、食事と電源をお願いするとOKということで、ここで昼食をとる。〈マーボー牛丼とビール〉。1時間以上かかるので〈豚汁〉を再注文した。それでも計1,080円とは安い。これからは「すき家」にしようかと思う。無事、洗浄と充電が終わり、お礼を言って、水をもらって出る。

国道23号線を走っていると、須美から先は自転車、原付通行不能だった。やむなく、県道383号線を通り、小島江原からは県道43号線に入り道光寺町南で右折し県道12号線を通して道の駅「デンパーク安城」に着く。とんだ国道23号線だ。

「デンパーク安城」手前のコンビニで夕食・朝食を購入し、「デンパーク安城」の休憩所に行くと、自転車旅行中の若者・横山君（31歳・むつ市の方）がいて、話をする。ここで、夕食をとりながら親しく会話が弾む。どこにテントを設営しようかと相談した結果、夜露をさけてということで、この駅の軒下に並んで設営する。



道の駅「デンパーク安城」・横山君と

夜は、洗面所で身体をふいてさっぱりする。22時就寝。蚊はいなくて、暑くて寝苦しいということもなかった。

※ 今日の日データ	出発	7時35分	到着	17時20分
	走行距離	83.10 km	走行時間	5時間50分02秒
	平均時速	14.2 km/h	最高速度	53.6 km/h
	積算距離	7193.33 km	総走行距離	11218.8 km

第96日 8月28日（火） 晴

愛知県安城市～名古屋市

名古屋市 [愛知県青年会館]

5時20分起床。洗面後、ベンチで朝食。6時40分まで日誌を書く。朝の公園は気持ちがいい。

7時50分、横山君とともに出発する。県道12号線を通り、今本町西という所で国道1号線に入る。国道1号線は、車線も2車線で大型車も多くなく、走りよか

った。私が先導し、彼が後からついて来るというパターンで進む。知立市で第2朝食をとろうということで、「すき家」に入る。彼は牛丼300円、私は朝食定食（ごはん・卵・みそ汁・漬物）280円を注文する。

出発時、トイレに行って出て見ると彼がいない。もう出発したのだろうと思い追いかけたが見つからなかった。桶狭間で戦跡があり寄ってみる。小さな公園の中に今川義元の墓や碑・案内板があった。戦場の面影はまったくなかった。強烈な日照りではないが、今日も暑かった。ただ、道はずっと平坦だったので、そんなにきつくはなかった。



桶狭間古戦場跡

11時30分、熱田神宮に着く。ここには、草薙の剣が祀られているようだ。戦国時代、武将が戦勝祈願に訪れた所だ。この手洗いの水をボトルにもらう。お参りをして、横山君を探したが見つからなかった。



熱田神宮

ここから、国道19号線を北上し、12時30分、今日の宿「愛知県青年会館」に寄る。宿泊の手続きをして、荷物を置いて、整形外科を探してもらう。指の骨折の経過と右手首のガングリオンの処置をしてもらうためだ。すぐ近くの整形外科「山崎病院」を紹介してもらう。早速、出向く。少し待って14時10分から診察を受ける。ガングリオンのこぶの粘液を抜き、指の骨折は触ってみただけで経過良好ということだった。右手首はついても痛くなくなり即治

った。私の自転車日本一周に先生も看護婦さんもいたく感激され、元気をつけてとアミノバリューを1本くださる。

名古屋城に向かう。途中、「黒の黒麺」というラーメン店があったので、入り昼食をとる。名古屋名物のみそと炭の入った麺で真っ黒いラーメンだった。スープがおいしかったし具もよかった。ここを出て、名古屋城に到着し周辺を周って行くが、どこが入口かわからない。通りがかりの五十代の男性の方に聞くと、すぐその先を左折したらよいと教えてくださって、私の自転車日本一周にひどく感動されて、“自分は小学校のボランティアで、俳句や書道を教えている。子どもたちに話してやりたい。この積極性や感謝の気持、やり遂げる精神力は日本人の鏡だ”と感動の言葉を述べられる。さらに、“道中、何かに役立ててください。裸で失礼ですが。”と千円札を出される。私は、“お気持ちはありがたいが、受け取れません。”と断ったが、“是非、私の気持ちを受け取ってほしい。”と言われ、私は、お気持ちを無にしてもいけないと思い、丁重にお礼を言っていた。お名前は佐野様といわれた。



名古屋城

名古屋城は、戦禍で消失したが復元さ

れたものだ。がっしりした美しい城だ。入城門も堅固なものに見えた。天守閣の金の鯨は、実物大のものが置いてあったが、すごく大きい。虎の障壁画を見たが、今は展示していないということで残念だった。備前長船の銘の入った刀があった。多くの美術工芸品、武具類、写真などが展示されていた。

宿に帰り部屋に入ると、同宿者3名はすでに来ておられた。名古屋大大学院受験生と外国から観光に来た青年、医学書の行商をしている井上さん。畳の部屋に4人同宿する。井上さんと一緒に夕食兼飲みに行く。お仕事のことを中心に私の旅のこと等々いろいろと話し交歓する。帰ってから洗濯、入浴。22時就寝。

※ 今日のデータ 出発 7時50分 到着 12時30分
走行距離 38.94 km 走行時間 2時間28分03秒
平均時速 15.5 km/h 最高速度 43.2 km/h
積算距離 7323.27 km 総走行距離 11257.7 km

第97日 8月29日(水) 雨のち曇

名古屋市～三重県津市

津市 [香良洲公園キャンプ場] テント泊

6時起床。今日は朝から雨。洗面後、井上さんは沼津へ行く仕事ということで出発される。6時40分、事務室に行き玄関の戸を開けてもらって近くのコンビニに行き、朝食<サンドイッチと牛乳>を購入、宿にもどり朝食をとる。荷物をバッグに入れ、自転車に取り付ける。防水カバーを付け、雨合羽は上衣のみ着る。

雨の中、7時55分出発する。県道63号線を下る。出発してすぐメーターが作動せず、道路高架下で作動するように調節する。空気(前輪)も少し注入する。続



木曾川



揖斐川と長良川の輪中

けて県道63号線を下って行く。大分進んだが、国道1号線に出ず、名古屋港という表示が見える。道路工事中の作業員に聞いてみると、大分行き過ぎており大失敗。

表示を見落としたのだろう。約1Kmもと来た道をもどり、国道1号線に入る。このあたりで雨が小降りになってくる。

国道1号線を少し進んだ中島辺りで、少し晴れ間も見えてきたので合羽を脱ぐ。日光大橋辺りで、朝食食べ放題60分380円という店があった。試しに食べてみようと思入る。洋食、野菜、各種飲み物があり十分に食べる。380円とは安い。

木曾川、揖斐川、長良川の有名三川を渡る。輪中の中を見ながら走る。きれいに整備されている。桑名を走っている時、40代の男性に止められ、“自分も自転車愛好者です。これを飲んで元気に走ってください。”とポカリスエットをくださる。“ありがたいです”とお礼を言っていた。

富田という所で、国道23号線に移ろうかと思ったが、大型車がビュンビュン走っているのでやめる。そのまま、国道1号線を走り追分からは県道103号線を走る。うどん自分手作りの店で昼食・休憩をする。

白子、磯山、白塚と過ぎ、津市に入る。津駅の観光案内所に寄り、香良洲キャンプ場について尋ねる。その結果、香良洲公民館に行き、産業建設課で許可証を提出し、許可証表示と水道のカギを預かる。親切に対応してくださった。夕食と朝食を「マックスバリュー」で購入し、キャンプ場に行く。私一人だった。雨の心配もあるので、炊飯棟の中にテントを設営する。テーブルが活用できた。近所の60歳代の男性・太田さんが来られて、夜21時頃までいろいろと話をする。太田さんから、なしを2個差し入れがあり、一緒に全部いただく。おいしかった。月がまん丸できれいだった。広く芝生で整備されており、大きな杉の木もあり、環境のよいキャンプ場だった。



香良洲キャンプ場

※ 今日のデータ 出発 7時55分 到着 17時30分
 走行距離 93.89 km 走行時間 5時間21分13秒
 平均時速 17.5 km/h 最高速度 55.3 km/h
 積算距離 7417.16 km 総走行距離 11351.59 km

第98日 8月30日(木) 曇時々雨

三重県津市～志摩市

志摩市 [伊勢志摩YH]

5時30分起床。洗面。身辺整理をしていると太田さんが来られる。いろいろと話す。“伊勢に行ったら、伊勢うどんもよいが、てこね寿司を食べるとよい”と教えてくれる。日誌を28日と29日の半分を書いて、出発準備をする。朝食はコッペパンと牛乳をとる。

7時38分、太田さんにお礼を言って出発する。公民館に許可証表示と水道のカギを返し、国道23号線への行き方を尋ねる。聞いた通りに進み、近道で国道23号線に入る。天気は曇、暑くなくてよい。追い風に乗って、どんどん南下する。あつと言う間に松阪市に入り、のどかな田園風景の中を快走する。



伊勢神宮・外宮

伊勢市宮川大橋手前で県道60号線に入り、伊勢神宮外宮に向かう。外宮に到着し、清めの水で手を清める。森閑とした砂利道の参道を通り社務所に至る。朱印帳に朱印をもらい、本宮に行く。本宮は扉で閉められており、ここで参拝する。二礼二拍手一拝。本宮の社は横から斜め方向に見るだけで、写真撮影も禁止だった。バスガイドの初任者研修の行列が研修していた。いくつかの社にお参りして外宮を後にする。表通りのお店で〈伊勢うどん〉

を食べる。手造りの丸いうどんで、汁は濃く少ない。

ここから、県道22号線を通って二見が浦に行く。夫婦岩を見て、引き返す途中猛烈な雷雨となる。「まるやま」というお店で雨宿りさせてもらう。ここで、太田さん推薦の〈てこね寿司〉を食べる。ごま・のりのまぶしてある寿司の上にカツオの刺身がふんだんに乗っている。これは、本当に珍しい。30分して、雷雨が止んだ

のでお店の前で写真を撮ってもらい、出発する。

国道23号線を進み、鳥羽市を走る。この辺りは、今年のお正月に妻と来た所で、いづらか印象に残っている。ミキモト真珠島を左手に見る観光船発着所で小休憩。ここからは、国道167号線を走り、五知峠を越えて磯部に向かう。峠を越えて下りの途中、雨が降り出してテントと銀マットに防水カバーをかける。再出発し下っていくと雨も止んでくる。

磯部に到着し、「KOA伊勢志摩キャンプ場」でテント泊の予定なのでスーパーで夕食・朝食の買い物をする。キャンプ場に向かうとすると、再度雨が降り出して、雨足がさらに強くなる。これはとてもテント泊はできないと判断し、「伊勢志摩YH」にTELする。宿泊OKということで、荷物にも防水カバーを取り付け「YH」に向かって行った。

「伊勢志摩YH」は、少し高台にある。対岸にスペイン村と思われる遊園施設が見える。入浴、浴場から見える景色は抜群だ。おだやかな伊雑の浦をはさんで、素晴らしい海の景色だ。対岸のスペイン村がより華やかに見えた。ディズニーランドの小型のようだ。その後、ゆっくりと夕食。それから、洗濯をしながら日誌を書いた。

※ 今日のデータ 出発 7時38分 到着 16時15分
走行距離 74.80 km 走行時間 4時間06分54秒
平均時速 18.1 km/h 最高速度 46.3 km/h
積算距離 7491.96 km 総走行距離 11426.39 km

第99日 8月31日(金) 曇一時雨
三重県志摩市～尾鷲市



伊勢志摩ユースホステル

尾鷲市 [熊野古道の宿・末広]

5時30分起床。洗面後、荷物を片付け、寝具を整え、朝食(パンと牛乳)。その後、荷物を自転車のバッグに入れ、6時40分出発。天気は曇、自転車前輪に空気を注ぐ。県道61号線、右手に逆光の伊雑の浦・志摩スペイン村を見ながら走り、県道16号線に入る。緩やかなU.D.あるが、快調に進む。海岸が美しく入り組んで、小島もいくつかある湾に出て、道も国道260号線となる。

南勢町には、総合支所や立派な文化会館があった。海が道まで迫っている。小さな峠を越えては海に出る。南勢町を過ぎるとU.D.がきつくなる。長く曲りくねって高く登る。登りきってトンネルとなる。山間部に入りながら、曲って登りトンネルを越えては再び海に出る。山間部は景色といっても単調だが、海に出るとその眺めは目を楽しませてくれる。

直方には平家の落人の説明版があった。南島町でも、何度も同じようなU.D.の連続だった。極め付きは、紀勢南島トンネルだった。麓から、遙か高い所にトンネル入口が見える。おそこまで登るのかと思うと、気が重かった。畑で働いているおばさんと話すと、“日本一周する人が何を言うね。あんな坂楽なもんだよ。”と叱ら



二見が浦



「まるやま」



てこね寿司

れる。豪傑のおばさんがいるもんだ、と舌を巻くとともに勇気をいただいた。急な登りの区間約300mは押して登った。

今日は早く出て、殆んど見学もなしに走ったので、午前中に74Km進み、道の駅「紀伊長島マンボウ」に着いた。ここの側のディスカウントショップで缶ビール350mlを買い、のどを潤す。昼食は、道の駅で〈名物さんま寿し付きうどん〉650円を食べる。足りないので、焼きたてパン2個とコーヒーを追加する。ここでボトルに水をいただく。



美しい南勢町の海岸風景

出発してすぐに雨が降り始める。GSに寄り、屋根の下で荷物にカバーを取り付け、合羽（上のみ）を着る。ここからは、雨の中U.D.もやや緩やかで、ぐんぐん進む。海山町まで7つのトンネルを越した。車は意外と少なかった。船津から道の駅「海山」までの約5Kmは、船津川に沿って平坦な道だった。

今日の行程の最後の上り、馬越峠・尾鷲トンネルまでは約2.8Km上りが続いた。眼前に大きな山が迫り、山と山の谷合の間から遠く眼下に海が見えた。トンネルを抜け、下っていくと尾鷲市街に入っていた。割合、町らしいにぎやかさだ。尾鷲駅でタクシーの運転手さんに「熊野古道の宿・末広」への道を聞く。駅から200mの所だった。



熊野古道の宿「末広」のご主人と奥様

宿のご主人も奥様もいい方で、自転車の管理も袋をかけてくださるし、お茶も出してくださるし、翌朝の食事も6時30分にしてくださるし、洗濯もしてくださる等々、とてもよくしてもらう。

ここは、朝食付きのみの宿なので、スーパーでビールと刺身ととうふを購入し、部屋で一杯やる。その後、外出し「鬼瓦」という店で夕食をとる。宿に帰り、名古屋の阪田君に手紙を書き、その後日誌をつける。就寝23時10分。

※ 今日の日データ	出発	6時40分	到着	15時55分
走行距離	103.28km		走行時間	6時間30分05秒
平均時速	15.8km/h		最高速度	51.2km/h
積算距離	7595.24km		総走行距離	11529.67km

第100日 9月1日（土）曇時々晴

三重県尾鷲市～和歌山太地町

太地町 [太地キャンプ場] テント泊

朝からどんよりと曇、降らないことを祈る。国道42号線、いきなり矢ノ川トンネルに向けて長い上り坂を登る。

矢の川トンネルは前半上り、後半下りとなっており、中間点付近までは出口が見えない。出口が見えてくるとほっとし、中間点を過ぎて下り坂になるとうれしい気持ちになり、速度を上げて下る。続いて大又トンネルも長さ1000m以上の同じようなトンネルだった。

大又トンネルを抜け、カーブしながら下って道の駅「きのくに」で小休憩。秋刀魚寿しと〇〇寿し（たかなの葉で巻いている）は、熊野の名物だそうだ。

つぎの峠、小阪峠（標高340m）は大したことなく越えて、大泊へ下って行った。名勝「鬼ヶ城」は、今正月妻と一緒にいったのでパスする。少し行った所に「獅子岩」があり、寄ってみる。本当にライオンそっくりの形をしている。写真を撮ってもらう。



熊野の大自然の中を走る

ここまでは、大きな峠越えだったが、ここから新宮市までは、熊野灘沿いの真直ぐで平坦な道だった。この長い砂浜は七里御浜と呼ばれている。御浜町に道の駅「パーク七里御浜」があり小休憩。

ここから約5Kmで「紀宝町ウミガメ公園」に着く。ここでは、海がめ飼育センターを見学ができた。この浜はアカウミガメの産卵地で、浜に産卵した卵を掘り出して飼育センターで孵化し育てて、浜から海にもどすのだそうだ。そうしないと自然のままでは減少し、絶滅の恐れがあるのだそうだ。センターの水槽には大亀と今年7～8月に孵った数十匹の子がめが泳いでいた。熊野灘の浜は長い長い砂浜だった。今にも亀がやってきそうな浜だった。食堂でうどんを食べる。暑いので水分をいっぱい取る。



飼育センターの子がめ



世界遺産「熊野速玉大社」

熊野川を渡り新宮町に入る。熊野速玉大社に参詣する。丹塗りの鮮やかな社殿だ。境内にそびえる巨木のナギは樹齢1000年といわれる。

さらに下って、那智勝浦に至る。ここは、海岸や半島に変化があり、きれいだ。美しい風景を見ながら一気にくじらの里太地に向かう。太地町に入ると、くじら料理の店がたくさんあった。「太地キャンプ場」は、シーズンを終わり管理事務所も閉まってお水道も止められていた。雨の心配があるので、管理事務所

の裏の割合広い軒の下にテントを設営する。洗面やトイレは約500m離れた所の「くじら浜公園」の施設を使用する。ここは「くじら博物館」をはじめ諸施設がある。公園を散策する。捕鯨船第81京丸をバックに写真撮影する。夕食後、明日のコースを確認し20時就寝する。

※ 今日のデータ 出発 7時15分 到着 17時00分
 走行距離 84.28 km 走行時間 5時間18分35秒
 平均時速 15.8 km/h 最高速度 ? km/h
 積算距離 7679.52 km 総走行距離 11613.95 km

第101日 9月2日(日) 雨・曇後晴

和歌山太地町～白浜町椿

白浜町椿[民宿・海の店]

夜中、2時頃大雨が降る。止んだと思うと、また4時頃それ以上の超大雨が降る。

5時20分起床。雨は止んでいる。洗面に行き、片付け・出発準備をする。防水体制を取る。6時30分出発しようとしていると降雨となる。しばらく様子を見る。

7時過ぎ、ようやく小降りになり、上がったので7時10分出発する。森浦のコンビニで朝食をとっていると、豪雨が降り始める。急いで自転車を軒下に入れ、しばし待機する。割合長く降り続き、7時40分頃小降りになる。合羽を着て、7時50分再出発する。

小雨の中、いきなり上り坂を登る。顔や腕に汗が流れる。雨は気にならない。峠を越えて下里に下り、しばらく平坦路を走る。やや内陸に入り、徐々に登っていく。この辺りで雨が上がり、少し晴れ間も見えてくる。峠を少し下った所で合羽を脱ぎ、フロントバッグの防水カバーを取る。ここで白浜町の民宿「海の店」に本日の宿を確保する。

再出発すると、また雨が降り始める。もう、大降りになれば別だが、このまま走ることにする。海に出て、紀伊大島が見えてくる。大きい島だ。雨は降ったり止んだりだった。橋杭岩に至り、どうしてこういう自然の形ができたのか不思議に思う。写真撮影。この辺りで雨が止む。



橋杭岩



潮岬

串本市街地から左折、県道40号線→41号線のU.D.のある道をぐるっと周って潮岬に着く。潮岬の沖の太平洋は、その名の通り潮が速く流れており、白波も立っていた。青い海、緑の山々、白い雲の浮かぶ青い空、このコントラストは素晴らしかった。

潮岬で、元自衛官の坂田さんが自主的ボランティアだと、岬や灯台を案内してくれた。うれしかった。このことを楽しんでおられるような様子だった。灯台に登り、岬や周辺を360°眺望する。潮岬沖には数

隻の貨物船が運航していた。

ここから岬を周回して串本町に向かっていると、坂田さんが追いついてきて、須賀の浜を眺める眺望スポットを教えてくれる。さらに、串本町で、飛び魚の芸術(絵画・彫塑)を行なっている現漁師さんの営業所を紹介してくれる。坂田さん、いろいろとありがとうございました。ここでお別れをする。

少し行って、軽食堂で昼食(焼き飯)をとる。ボトルに水をもらう。氷を入れてもらう。

ここから先は、U.D.の連続だった。U.D.が30箇所以上はあったと思う。でも、海岸線の眺めは素晴らしくきれいだった。紀伊半島の西側に来ると空も晴れ上がって、気温も30°を越えてものすごく暑くなった。上りではメガネの下の汗を拭くのに困る。潮の香りを全身に感じながら走る。



串本市を展望

田子という所の海浜公園で、透明のボートに乗り込んでいる若者のグループがあった。話かけて聞いてみると、サンゴや魚を透明ガラスのボートで見に行くのだそうだ。楽しいだろうなと私も乗りたい気持ちになった。



透明ガラスボート

江住という所では、日本童話の園という看板があったが、時間の都合から写真撮影だけでパスする。

それにしても、自分自身このU.D.によく対応できるものだと思う。並みの体力ではできないと思う。

私はすごい体力の持ち主になっているのだと改めて思う。また、腹も減る。日置川を過ぎた上りを登り切った所の食堂で〈きつねうどん〉を食べる。

今日の宿泊地椿温泉に着く直前、後ギヤのローの部分2枚がすべる。歯がちびたのと思う。これはやばい。

椿温泉「海の店」に着く。到着と同時にビール350mlでのどを潤す。丘の宿に入り、入浴、椿温泉はすべすべして気持ちがよい。夕食には、冷しそばと親子丼を注文する。ゆっくりと落ち着く。洗濯をして、手紙を書き、夜の温泉街を散策する。夜空の星もきれいだ。23時就寝。

※ 今日の日データ	出発	7時10分	到着	17時10分
	走行距離	95.70 km	走行時間	5時間35分02秒
	平均時速	17.1 km/h	最高速度	? km/h
	積算距離	7775.22 km	総走行距離	11709.65 km

第102日 9月3日(月) 晴
和歌山白浜町～有田市湯浅町



白浜町・椿温泉

有田市湯浅町 [一二三旅館]

5時30分起床。荷物を整理。洗濯物を取り入れる。自転車に荷物を入れる。女将さんに水をもらい、写真を撮っていただいて、6時55分出発する。

天気は快晴。今日のコースは主として国道45号線だが、U.D.は多少あるものの昨日に比べるとずっと楽だった。上りはあっても距離が短く、すぐに峠となる。後ギヤのロー2枚は上りに使うのだが、今日もずれて使えず、ロー3枚目を使用して登るが、どの坂も全部登れた。

椿を出発すると、海・山は後方からの朝日に照らされてとても鮮やかできれいだ。特に、海の青さ、山の緑、空の青と白、素晴らしい。

富田橋の交差点下にある郵便局で手紙を投函する。今日から学校は新学期、交差点では保護者・警察官が交通安全指導を行っており、“ご苦労様です。”と声をかける。ここから、県道34号線に入り、白浜町に向かう。白浜町へは、中位の峠を越えて入っていく。ハイビスカスが真っ赤に咲いている。その他の花も美しい。海岸と温泉地域の風景が、うまくきれいに溶け込んでいる。ビルの建ち並ぶ温泉街は、日本有数の温泉リゾートといえる。

三段壁と千畳敷は圧巻だった。天気も快晴なので、海の大自然とともに、本当に

素晴らしい風景だった。三段壁で、自家用車で日本各地を旅している愛媛県の古希の男性も、“日本は自然も人も美しい”と言っておられた。

とにかく暑い。30°以上はあると思われる。水分を十分に摂る。白浜町のコンビニで朝食。牛乳とおにぎりとバナナ1本。白砂の開放的な海岸「白良浜」で小休憩。円月島を見て、白浜をぐるっと一周する。藤島のコンビニで、今日の宿有田市の「一二三旅館」を確保する。ここでもりポピタンDとあんパン1個食べる。

ここから、県道33号線を走る。平坦な道、追い風に乗って快走する。田鶴から県道31号線に入り、田辺市は市街地を走る。昔ながらの狭い道路、専門店の並ぶ街中は懐かしい。元町で国道42号線に戻り、きれいな海岸線を見ながら南部町に入る。ここは梅の名産地で、国道に面して梅の製造・販売、見学所がいくつかあった。また、やしの木の道というのがあり、身体を和ませてくれた。

岩代、切目、印南と走り、続けて頑張って御坊まで走る。御坊のレストランで昼食（かき揚げ定食）、みそ汁・野菜・豆腐もついて550円だった。

御坊からは、午後の暑い日差しを受けながら、じわじわと登り由良トンネルを越える。門前から、再びじわじわと直線コースの上りを走り、続いてカーブの連続した上りを約3Km登る。ギヤはローの3枚目を使って登るのでしんどいが、2回休憩を入れて登りきる。水越トンネルを抜けると、湯浅町に気持ちよく下って行った。16時30分に到着する。



一二三旅館

「一二三旅館」は湯浅駅前にあった。入浴後、街中を散策する。その後、洗濯をし、屋上に干す。18時夕食。やはり、宿の夕食は多彩なおかずがあって、しかも落ち着いておいしく食べられる。ビールを飲みながら最高。2日間の日誌を書く。天気予報、台風が近畿地方に向かっている。明日は大丈夫。23時就寝。

※ 今日の日データ	出発	6時55分	到着	16時30分
	走行距離	98.85 km	走行時間	5時間40分11秒
	平均時速	17.4 km/h	最高速度	? km/h
	積算距離	7874.07 km	総走行距離	11808.5 km

第103日 9月4日（火） 晴

和歌山県有田市～大阪府和泉市

和泉市 [富田屋旅館]

5時30分起床。洗面後、昨日の日誌の続きを書く。洗濯物を取り入れ、出発準備をする。6時45分朝食。やはり、日本の朝食はよい。のり・さけ・ほうれん草・



白良浜



円月島

豆腐・みそ汁・卵焼き・漬物。ごはん2膳いただく。今日も快晴。暑くなりそう。ボトルに氷をいっぱい入れた水をもらう。

7時35分出発。国道42号線に入り、登校中の小中高校生に“おはようございます。”と声をかけながら走る。上り坂も後輪ギヤ、ローから3枚目のギヤで登れる。この国道はじめは少し上りがあったが、有田市を過ぎるまでずーと平坦な道で気持ちよく走る。

有田市はみかんの産地、太陽の輝く緑色の山は麓から頂上近くまで全部みかん畑だ。所々のみかん畑では、人工の噴水器で水をまいている風景が見られた。



有田市のみかん畑

天神のトンネルを越えると海南市に下って行った。コーゾウノ鼻から「和歌山マリーナシティ」がよく見えた。海南市街を抜けて、「マリーナシティ」に行ってみる。ムーンブリッジを渡ると、大駐車場があり多

くの人でにぎわっているのだなという感じだった。入っていくと温泉やマリンスポーツ施設、潮風市場、そして色々な物産店などがあつた。ホテルも数軒あつた。潮風市場を見学する。



紀三井寺

ここから約5 Km北上して紀三井寺へ参詣する。百数十段の急な石段を登り、右手に新しいお堂があり、ここには日本一の立像の観音様が安置されているとのことだ。左手に旧来の本堂があり、主としてこちらに思いを込めてお参りする。ここは、桜の名所でもあり、また三名水のあるお寺でもある。



和歌山城

ここからさらに6 Kmほど北上すると、右手の丘の上に壮麗な和歌山城が見えてきた。薄緑色の緑が印象的だ。写真撮影。ここから国道26号線に入る。紀ノ川大橋を渡りまもなく、「ガスト」の店に入り昼食とする。二種類の味の味わえるカレーライスを食べる。パサダというパンのような主食もあり珍しく、またおいしかった。1,350円だった。

ここから孝子峠（標高100m）を越える。ロー3枚目のギヤで登る。弘重さんにギヤのことを電話する。“帰着までそれで頑張ってください”と

ということで、私も決心がついた。峠を越えて大阪府に入る。

大阪府に入り、追い風に乗ってひたすら和泉市に向かう。国道26号線は、海は見えない。都会風と同じような光景が続く。関西空港を見たいとは思ったが空港連絡橋は自転車は入れない。今夜の第1回卒業生との会もあるので、パスすることにする。国道26号線を泉南市・泉佐野市・岸和田市と走り、16時30分和泉府中駅に到着する。交番で、今日の宿泊所「富田屋旅館」を聞き、旅館に落ち着く。

すぐに稲田泰雄君に到着のメールを入れる。そして、入浴をする。入浴が終わると稲田君からメールが入っていた。[19時に「がんこ」という店に6人集まるこ

とになっている。18時30分に迎えに来る]ということだった。了解の電話を入れ、すぐに洗濯をしかける。その間、明日のコースの確認をする。そして、日誌を少し書く。

18時30分過ぎ、稲田君が車で迎えに来る。洗濯物の脱水中だったので10分ほど待ってもらう。稲田君は、顔も雰囲気も全く変わってなくて、人間が重厚にり、落ち着いている。頭はさすがに白髪になっている。会話は、昔の通りで先生と教え子という感じで話が弾んだ。

「がんこ」に着くと、岡本礼子さん・徳尾美恵子さん・岡本民子さん・山代さんがすでに来ていて、再会を喜び合った。少し話している内に大庭仁水君が来て、みんな揃った。〈お造り御膳〉を注文して、ビールとお茶で乾杯、会食・懇親をする。学校時代のこと・それからのこと・今のこと・これからのことなど楽しく会話が進んだ。こういう教え子たちとの会が持てることは、本当にうれしいことだ。彼等・彼女たちも喜んでいて。稲田君は“和泉市に新たな交流の会ができてうれしい”とも言っていた。〈寿し〉も注文したが残って、持って帰ってもらう。21時30分、お開きにして宿まで送ってもらう。志を出して受け取ってもらったが、6人からの激励ということになってしまった。



教職最初の教え子たちと

天気予報では、台風は6日～8日頃、伊豆半島方面へ向かうということで、私の進路への襲来は免れたかと思う。23時就寝。

※ 今日のデータ 出発 7時35分 到着 16時40分
走行距離 95.31 km 走行時間 5時間29分38秒
平均時速 17.3 km/h 最高速度 ? km/h
積算距離 7969.38 km 総走行距離 11903.81 km

第104日 9月5日(水) 晴

大阪府和泉市～神戸市

神戸市 [神戸垂水YH]

6時起床。洗面後、洗濯物を取り入れ出発準備をする。6時45分頃、稲田君がやって来る。同級生野球部の中川君・村上君の住所を書いたものをもらう。宿のご



住吉神社

主人に見送られて、稲田君に国道26号線まで誘導してもらって、神戸に向かう。稲田君には何日も前から連絡・調整・準備をしてもらって、昨日・今日と大変お世話になり本当に感謝している。

朝早いので、国道26号線も学生・生徒の登校や成人の徒歩通勤者や通勤の車も多い。ただ、道は高架道の下で今宮までずーと日陰になっていて楽だった。住吉町で住吉大社に参拝した。四つの本宮があり、一の宮から三の宮は住吉大師様、四の宮は神功皇后を祀っているそうだ。太鼓橋(そり橋が本名)は珍しい。淀君の奉納だそうだ。

今宮町で左折して国道43号線に入る。神戸までは、国道2号線よりずっと距離も短く、交通量も少ないと考えたからだ。ただ、大阪平野の海に近い側にあり、川を7つ渡らなければならない。歩行者と自転車には、橋を渡る時に車道とは別に橋の手前と渡った後の所にジグザグの階段あり、自転車はスロープを押して上り下りするようになっている。橋を渡るその都度、自転車を押して登り、ブレーキをかけて押して下り、大変な時間と労力がいった。特に、登りは重たかった。ただ、国道43号線はずっと高架高速道の下にあり涼しく、車は多いが道も広くそんなに恐くはなく橋を渡るときを除いて快走した。



大阪府港区の風景



神戸市・中華街

尼崎・西宮と走り、13時過ぎ三宮の元町に着く。中華街に入り、稲田君に報告のメールをする。ここで昼食。「中国樂園」で〈フェイコーロ一定食〉を食べる。豚と肉の中国料理にスープとごはん。スープとごはんはおかわり自由で、各三膳いただく。昼食後、中華街を散策。豚まんを食べ、豚の足の煮たのを持ち帰りに買う。豊中さんから、井原岩国市長へ訪問の件 TELあり。稲田君から、了解と激励のメールあり。

この後、メリケンパークに行き、園内を散策、ポートアイランド方面を見る。須磨海岸では、源平合戦の跡と敦盛塚を見学する。海は、前方に淡路島が見えてくる。明石大橋も見える。

17時、垂水駅前の交番で本日の宿「神戸垂水YH」の場所を尋ね、17時10分到着する。すぐにシャワーを浴びてさっぱりして、洗濯を仕掛ける。それから、近くのファミリーマートでビールとつまみを購入、のどを潤す。すこし、ゆっくりしてから、洗濯物を乾燥機にかける。その間、日誌を少し書く。洗濯物を取り入れて部屋に干し、外出する。夕食は、〈石焼フカヒレごはん〉とする。

宿に帰り、再び日誌を書く。昨日の半分と今日の全部。明日のコースを確認。第1回卒業生守田陽一君に会えればよいと思う。23時就寝。

※ 今日のデータ 出発 7時20分 到着 17時10分

走行距離	78.92 km	走行時間	4時間51分33秒
平均時速	16.2 km/h	最高速度	? km/h
積算距離	8048.30 km	総走行距離	11982.73 km

第105日 9月6日(木) 曇時々小雨

神戸市～兵庫県赤穂市

赤穂市[赤穂海浜公園] テント泊

出発後すぐに牛井店で朝食セットで食事。この店で、守田陽一君の住所播磨町宮北の位置を尋ねる。親切なお客さんが分かり易く教えてくださった。

国道2号線を下る。明石大橋下の舞子公園で橋をバックに写真撮影。きれいな橋だ。明石大橋の下を通るときには、こんな巨大な橋をよく架けたものだと感心する。

明石市で、国道2号線の陸橋の上から天文科学館を見る。東経135°日本標準時の時刻は7時55分を指していた。明石市街では、多くの通勤者・通学生が出勤・登校していた。“おはようございます。”の声をかける。

高津橋で左折し、国道250号線に入る。瓜生交差点の交番で守田君の住所から住居の位置を教えてもらう。

42年振りに守田君に会う。互いに懐かしく、再会を喜び合う。奥様とともに寄ってくれるかなと待っていたそうだ。近くの喫茶店でコーヒーを飲みながら積もる話をする。彼は、近年股関節が悪くなり、歩行がかなり困難ということで杖をついている。仕事（柏原塗研）も今年5月に退職したとのこと。障害者手帳をもらっているそうだ。今年11月に兵庫の病院で手術する予定という。私はうまくいくように信じている。約1時間後、自宅まで帰りお二人の見送りを受けて再出発する。

天気は曇。台風の影響か、時々小雨模様になる。前方の空は青空が見える。播州大橋を渡り少し行き、曾根で国道2号線にもどる。今日のコースはずーと平坦だ。姫路城まで頑張って走る。姫路城の手前の「すき家」で昼食。姫路城の庭を散策し、小休憩する。お店でアイスクリームを食べたり、倉敷でお世話になる吉村三嗣さんや数人にメールしたりする。



守田陽一君ご夫妻



姫路城



明石大橋



天文科学館・明石市

ここから国道2号線を少し走り、太子東で国道179号線に入り西に向かう。太子町に斑鳩寺があった。奈良にあるものとはばかり思っていたが、ここにあるとは…。喜んで参詣する。山門で出合ったおばあさん。山口県の下松市から、近くに嫁いでいる娘の所に来ているという。娘と一緒にここに何回もお参りに来るとのこと。この娘さんの話によると、この斑鳩寺は法隆寺の別寺で、かつて、ここで取れた米を奈良に届けていたのだそうだ。本堂には、お釈迦様・阿弥陀様・観音様の三体が祀られているとのこと。それにしても、元気なおばあさんだった。境内を散策する。本堂の側に聖徳堂があった。側面は六角形で夢殿のよう。

さらに西走。相生橋で左折、赤穂市に向かう。相生町の老舗で吉村さんへのお土産くしほみ饅頭をを購入する。道の駅「あいおい白龍城」で小休憩。

ここから、標高100mの高取峠を越えて赤穂海浜公園に至る。手前のスーパーで夕食を購

入する。

公園内にキャンプ場があるのだが、17時で閉園となっており、門は閉まり管理
人室にも誰もいない。ウォーキングや散歩に来ている人たちが何人も来られて、芝
生の中とか、どこどこでキャンプしたらよいか、熱心に心配し話しをしてくださ
る。結局、入場門の所が大きな屋根になっているので、ここにキャンプすることに
決める。

今日は入浴はなし。テントを設営し、洗面。ベンチで夕食をする。スーパーで買
ったお刺身でのビールは格別だった。20時過ぎ就寝。

※ 今日のデータ 出発 6時50分 到着 18時00分
走行距離 83.67 km 走行時間 4時間49分01秒
平均時速 17.3 km/h 最高速度 ? km/h
積算距離 8131.97 km 総走行距離 12066.4 km

第106日 9月7日(金) 晴時々曇

兵庫県赤穂市～倉敷市

倉敷市 [吉村三嗣氏宅]

5時30分起床。洗面後、海浜公園内に入
り少し散策。よい環境の公園だ。池もある。
亜熱帯植物もある。よく整美されている。公
園周辺では、散歩やウォーキングをする人が
結構おられる。その後、荷物を片付け、テ
ントを撤収して7時出発する。



赤穂海浜公園

天気はさわやかな晴れ空。出発してすぐの
コンビニで朝食。赤飯とパンと牛乳、足らな
くてソーメンを追加して食べる。

県道32号線を通り、赤穂市街を抜ける。
新田という所から国道250号線を西に向かう。すぐに標高40mの鳥打峠、つづ
いて標高100mの福浦峠を越える。

いい汗をかく。この後は、ずーと平坦な道で、暑さは仕方なかったが、快調に走る。
日生港は小豆島との連絡港で、丁度フェリーが入港してきたところだった。



吉井川

この辺りは海産物の里で、日生に「五味の市」、
伊里に「伊里の市」があった。「伊里の市」に寄
ってみる。吉村氏への土産に乾物と思ったが
生ま物しかなかった。片上で国道2号線に入る。
吉井川にかかる備前大橋の手前に「備前長船刀
剣の里」があったがパスする。吉井川は、ゆっ
たりとした大きな川だった。

浅川という所で、国道2号線はバイパスとな
り、旧国道2号線の国道250号線と分かれる。
バイパスで行けるだろうと思い、そのまま国道

2号線を進む。すぐに自転車の走れる道ではないことがわかったが、引き返せない
のでそのまま竹原という所まで約3Km走りバイパスから出る。側道があったので、
その側道に行くことので進むが、U.D.が激しくこれも困難だとわかり、工事中
の方に“倉敷方面に行く一番いいルートは？”と尋ねると、“県道37号線から県
道28号線を進み、岡山市で国道250号線を進むのがいい。”と教えてもらう。

地図でも確認して、このルートで行くことにする。大分遠回り、時間も大幅にロスしてしまった。浅川で国道250号線に入っておくべきだったと悔やむ。

岡山市に入り、回転寿司「すし丸」で回転寿司で昼食をとる。隣の席のご夫婦と色々話しながらいただく。

すぐに倉敷に向かうには時間があるので、備前の一の宮「吉備津神社」と「吉備津彦神社」にお参りする。備前の一の宮が吉備津彦神社、お宮参りの夫婦・祖父母がおられてほほえましい。境内は、池もあってよい雰囲気、散策しておられる人もある。約2Km走って、山の反対側にある備中の一の宮・吉備津神社に至る。どちらも同じ吉備津彦を祀っている。この人は桃太郎のモデルとなっているようだ。吉備津神社の本堂は補修中で全景の写真は撮れなかった。祈祷殿を撮る。

県道389号線・162号線を通り倉敷駅前に至る。駅前の天満屋で〈五種の果物入り洋菓子〉を吉村氏へのお土産に買う。明日寄るところの天倉さんと草間さんには〈吉備団子〉を購入する。



吉備津彦神社



吉村三嗣氏ご夫妻

県道274号線を通り水島へ向かう。国道2号線を過ぎて峠を越えて下って行くと水島に入る。中央第一病院の所で吉村氏にTELし、行き方を聞いて新日本石油の社宅に到着する。

奥様の出迎えを受けて、自転車を6階の玄関に入れる。吉村氏はカヌーの打ち合わせで少し遅くなるということで、お風呂をいただいて、少しゆっくりしながら帰宅されるのを待つ。その間、洗濯物を洗濯機にかけて、奥様に近況をうかがったりする。吉村氏、20時帰宅。氏の入浴後、三人で夕食。大いに飲み、食べ、語り

合う。23時まで続く。就寝。

※ 今日の日	出発	7時00分	到着	18時00分
	走行距離	101.80km	走行時間	5時間57分24秒
	平均時速	17.0km/h	最高速度	? km/h
	積算距離	8233.77km	総走行距離	12168.2km

第107日 9月8日(土) 曇

倉敷市～竹原市

5時30分起床。洗面後、洗濯物を取り入れ、荷物を自転車のバッグに入れる。6時30分朝食をいただく。7時過ぎ出発準備をしていると、急に豪雨となる。慌てて、防水カバーを取り付け、しばらく様子を見る。ようやく雨が止んだので、8時出発する。

吉村さんがマウンテンバイクで先導してくれる。大変うれしい。水玉大橋を渡り、国道429号線を通ること

竹原市 [草間叔母宅]



カブトガニ・笠岡市

にする。この道を国道429号線までおよそ1Km一緒に走ってもらう。平坦な道で楽だった。竹川橋で国道2号線に入る。金光、鴨方、里庄とほとんど平坦な道を快調に走る。U.D.もあるが極めて緩やかだ。

笠岡市で左折し、国道2号線から3Km南にある「カブトガニ博物館」を見学する。昔、子どもの頃には竹原の海にもカブトガニがたくさんいてよく遊んだものだが、どうして激減し保護しなければならない状況になったのだろうか。

さらに西に向かって走る。大門手前で広島県の標識が見えた。いよいよ帰ってきたなという感慨になる。福山市は、そのまま走り抜ける。神島橋を渡り、瀬戸町から旧国道2号線の県道54号線を行く。松永道路東口で国道2号線となる。尾道大橋まで快走する。尾道大橋・尾道水道を写真撮影。千光寺の華麗な寺院も山の中腹に見えた。



尾道水道



尾道ラーメン



三原ヤッサ踊り像

尾道駅前行き、尾道ラーメンの美味しい店を尋ねる。二店教えてもらう。早速向かったところ「朱夏」は休業日、もう一つの店は20名位の行列となっていた。やむなく、「一番館」というお店に入る。店長お薦めの〈角煮ラーメン大盛〉1000円を食べる。肉は本当に太い角煮で、具もたくさんあり、おいしかった。アーケード街を通り駅前にもどる。徳山から来たというご夫婦に、林芙美子の像の前で写真を撮ってもらう。

国道2号線を、右手に山、左手に岩子島を見ながら西に向かう。遠くに因島大橋も見える。まもなく、左手に小佐木島を、前方に筆影山を見ながら三原市に入る。糸崎を過ぎて、左手に分かれる三原バイパスができていた。国道2号線を直進する。三原港で、ヤッサ踊りの像があった。楽しい像だ。写真に収める。

ここから、国道185号線に入り、JR呉線沿いに幸崎に向かう。須波・幸崎の山・海の風景は昔のままだった。有竜島の沖の浅瀬がずっと伸びているのが見えた。子どもの頃、足をひねって貝を捕ったことを思い出す。

妻の実家天倉さんに着くと、義兄の龍彦さんが畑作業をしていた。畑がきれいになっている。父母は、私の姿を見てびっくりしている。冷たいお茶をよばれながら母屋でしばらく歓談する。自転車の荷物を見て、“すごい”、“すごい”と言っている。約1時間いて、気をつけて行くようにと励まされて出立する。幸陽ドックが夕陽に照らされて輝いていた。大久野島は逆光で黒く見える。久津の峠を越えて忠海に入る。

忠海駅前の草間叔母宅に着く。叔母が待っていた。自転車を車庫に入れて、居間に落ち



天倉父母と兄夫婦

着く。少し話して、入浴。浴衣に着替えてから、洗濯をする。夕食は、刺身付きで叔母の手造りをいただく。叔母は、耳は遠くなっているが、とても元気で頭も明晰、よく話す。いっぱい話を聞いて、20時寝間に入る。机に座って日誌を書く。21時就寝。

※ 今日のデータ 出発 8時00分 到着 17時00分
走行距離 99.54 km 走行時間 5時間36分08秒
平均時速 17.7 km/h 最高速度 ? km/h
積算距離 8333.31 km 総走行距離 12267.74 km

第108日 9月9日(日) 曇時々晴

竹原市～広島市

広島市 [前田啓雄氏宅]

6時起床。洗面、朝食、叔母の話を聞く。出発準備をする。今日は大学時代の友人、広島市の前田啓雄氏宅までの行程だ。叔母が持たせてくれた前田氏への土産のメロンと昼食弁当、のど飴の袋、何とか荷物に入る。叔母の心遣いが痛いほどよくわかる。今日の行程は短いので、少し日誌の続きを書き9時出発する。



母校・忠海高校

国道185号線を西へ向かう。忠海高校門で写真撮影。校舎は当時とは違っているが母校は懐かしい。瀬戸内海に面した「エデンの海」の碑から海を眺める。瀬戸の島々の風景は本当に美しい。ここで、忠海床浦台に在住の〇〇さんに会う。この人は、数年前に自転車で日本を縦断したという人で話が弾んだ。長浜では、家族連れなど数人の人が海水浴を楽しんでいた。

大乗を通り、左手に阿波島、前方に契島を見ながら竹原市街に入る。ここの観光センタ

ーで前田氏へのお土産「たこめしの素」と「かきめしの素」を購入する。荷物はもう一杯一杯になった。

竹原市からは、国道432号線を通り賀茂川沿いに北上する。左手に大明神社、右手に和賀神社を見て、新庄で国道2号線に入る。

ここから田万里を通り仁賀口までの4Kmには最も急なヘアピンカーブの上り坂があり、メガネをはずして懸命にこいで登って行った。汗がぼたぼたと落ちる。頂上に着き、汗を拭いて一休み。ここで景山和彦先生に電話する。奥様が出られて連絡を喜ばれる。“主人は敬老会に出席しているが連絡する”と言われる。30分後に西条・中心部の交差点に行くということで、期待しつつ快走する。西条バイパス入口で国道486号線(旧2号線)に入り、少し進んだところで、後ろから景山先生の車が来て声をかけられる。“この先の右手レストラン”ということで、レストラン「」で再会する。先生は、西条中学校校長を退職後、現在西条公民館館長を務めておられる。敬老会をちょっと中座してきたという



景山和彦先生ご夫妻と

ことだ。奥様と三人で会食をしながら、自転車旅行の話を中心に、話の花が咲く。約1時間一緒に交歓する。

この後、西条の酒蔵「賀茂鶴酒造」を見学する。専務さんのお話とビデオ鑑賞があった。試飲もしてみる。大吟醸「賀茂鶴」は逸品だ。

国道486号線を八本松まで走り、ここで国道2号線と合流する。ここからは下り坂で快調に下っていった。海田町に近づくにつれて、車の数が多くなる。歩道をはるることが多くなる。海田町交差点を真直ぐに抜けて仁保に向かう。黄金橋を渡り、左折して(株)マツダの前を通り丹那町に至る。この辺り黄金山の南側は、私の学生



前田啓雄氏ご夫妻

時代には海だった所だ。今はすっかり変わって一つの街になっている。

まもなく、学生時代の友人前田啓雄氏宅に到着する。前田氏は待っておられた。恩様ともども歓待して下さる。自転車は玄関に入れ、離れの部屋に必要な荷物だけ入れる。早速、お風呂をよばれる。夕食時には同じ同級生の市川宏氏(旧姓歌原)夫妻も来られて、前田氏夫妻とともに五人で食事・懇親をする。市川氏は広島市立高校に勤め、今は教育相談員の仕事をしておられる。

23時頃、名残を惜しみながら終了する。23時30分就寝。

※ 今日のデータ 出発 9時00分 到着 17時00分
走行距離 74.71 km 走行時間 4時間13分50秒
平均時速 17.6 km/h 最高速度 ? km/h
積算距離 8408.02 km 総走行距離 12342.45 km

第109日 9月10日(日) 晴

広島市～岩国市由宇町

由宇町 [由宇総合支所] ゴール

5時起床。洗面をして、日誌を書く。6時30分から荷物を自転車バッグに入れ、出発できるようにする。7時過ぎから朝食をいただく。パンに卵焼き・野菜にみそ汁はおいしかった。空は晴れ、雲は高いところに鰯雲のように見えた。

8時10分出発する。広大付属学校前を通り、皆実町電停から御幸橋を渡る。ここは通勤・通学の人であふれ、また歩道は多くの自転車も走り、ぶっつきりそうな状況だった。御幸橋から左折し、広島デルタの一番南の道路を南千田橋、吉島橋、昭和大橋、庚午橋と走っていった。庚午橋を渡り国道2号線に入る。ここは、かつて廿日市市から平和公園まで平和行進で歩いた道だ。帰りに走って帰ったこともあった。こんなことを思い出しながら新井口を過ぎ、五日市で小休憩する。



広島市・天満川と江波山

楽々園エミール幼稚舎前で齊藤正美先生ご夫妻とお孫さんが出迎えて下さる。大変ありがたい。握手を交わす。少しだけ話し再出発する。

廿日市市に入り、佐方本町で藤井篤さん宅に寄るが不在。つづいて最終勤務先「佐



廿日市市佐方会館の皆さんと

方会館」に寄ると、山中攻二館長さんはじめ職員の方々総出で迎えてくれて、花束をいただく。丁度押絵講座のある時で生川加代子先生他講座参加者数十名と元職員天川一夫さんも出て来られて迎えてくれる。全員で写真撮影。そうしていると西広島タイムスの記者が取材に来られて、しばし取材を受け、写真を撮られる。花束は、会館に飾っていただくようにさしあげて、お礼を言って出発する。佐方川で元相談員藤井春美さんに会い、しばし話しをする。

つづいて、国道2号線を走り廿日市市役所に寄ると、庁舎玄関で平野幸三教育長さんをはじめ教育委員会職員、それに丁度市内校長会が行なわれていたということで、校長さん方全員で、横断幕を掲げて歓迎してくれる。こんなに大勢の方々に盛大に迎えていただいて本当にびっくりした。花飾りのレイも三つもかけてもらう。お礼の挨拶をして出発する。



岩国市由宇総合支所・ゴール

つづいて、串戸公民館の信藤広茂館長さんの所へ寄る。突然の訪問にとっても驚かれた様子で、しばらく話し休憩する。つづいて、平良公民館の徳誠一館長を訪ねる。彼もびっくりされて、冷たいお茶をいただきながら少し話しをする。

野坂中学校の横を通り、国道2号線地御前に出て、大竹市に向かう。丁度12時待ち合わせ場所の大竹駅に着くと、同窓教員仲間の田中弘明氏・村田豊和氏・村重洋典氏・信藤広茂氏それに自転車仲間の吉野茂

氏が待っていて、拍手で迎えてくれる。駅前の「山口屋」で食事会、歓談をする。

ここから、岩国市装束まで吉野氏が伴走してくれる。つづいて、岩国市今津の友田クリニック院長先生に帰着の報告に寄る。大変喜んでくださる。

ここから、国道188号線を下り、マイペースで由宇町に向かう。天気は快晴、藤生では甲島、前島がはっきりと見え、海もおだやかで浜に小さな波が寄せている。

16時、由宇川を渡り、右折して由宇総合支所に入っていく。道路と駐車場の両側に多くの小学生、知人、支所の職員が待っており、拍手で迎えてくれる。右手を振って元気いっぱいゴー



出迎えの皆さんとともに

ルする。

陸上少年団森重亮太郎君、廿日市さくら会有田幸夫先生より花束を贈られ、県会議員榎本利光後援会末本早さん、ランニング部高本雅代さん、妻美智子よりレイをかけてもらう。皆さんにお礼の言葉を述べる。ゆうスポーツクラブ会長山川敏武さんの合図で日本一周完走おめでとうの万歳三唱が行なわれる。もう一度、少年団の子どもたちに話をして解散する。その後、中国新聞・読売新聞・周南新報の新聞記者さんより取材を受ける。

17時10分、自宅に帰着する。自転車は、そのまま裏の自転車置場に置く。すぐに入浴。着替えをする。夕食は、妻手造りの赤飯に鯛、ビールでおいしくいただく。“お母さん(妻)、長い間ありがとう。”

※ 今日のデータ 出発 8時10分 到着 16時00分

走行距離	65.25 km	走行時間	3時間43分39秒
平均時速	17.6 km/h	最高速度	? km/h
積算距離	8473.27 km	総走行距離	12407.7 km

おわりに

日本一周自転車の旅、全行程12400Km、所要日数163日、晴天ばかりではなく雨の日もあれば、台風通過の時もありました。さらに、30°を越す酷暑の時もありました。また、平坦な道ばかりではなく、登り坂もあれば下り坂もあり、アップダウンの連続の時もありました。苦しい時もありましたが、それにも何倍も増して美しい日本の自然や風景・風俗を見聞できたこと、どこに行っても温かい心にいっぱいふれたこと、本当にうれしいことばかりでした。いやな思いをしたことは一つもありませんでした。あらためて、日本は思いやりの深い・温かい国だと実感できた素晴らしい旅でした。初めて出会った新しい友だちもたくさんできました。

また、病気一つせず、毎日“今日はどんな景色が見れるかな”“どんな出会いがあるかな”と期待に胸を膨らませて元気に出発できたのも、こうした皆さんのお陰だと感謝しています。

ゴール後、約二ヶ月かかってこうしてお世話になった方々におよそ120通のお礼の手紙を書きました。

このたび、毎日走った後に書きました日記風の一日の記録をもとに、この貴重な体験を旅行記としてまとめることができました。地域での新たな仕事に取り組みながらの作業でしたので二年間かかりましたが、ここに関係者の方々にお配りしたいと思います。

これからは、海外を走ってみたいという夢もありますが、日本の内陸を隈なく走ってみたいということもあります。また、スポーツ少年団の子どもたちの育成や地域のふれあい活動の振興など由宇町の方々への恩返しもしていきたいとも考えて取り組んでいるところでもあります。機が熟せばまた新たな旅に出かけたいと気持ちを温めています。ありがとうございました。

[追悼]

平成19年5月27日(P. 86・87)、浜田市石見海浜公園で出会い、親しく交歓させていただいた原野亀三郎さんは、約一ヶ月後の6月下旬ご本人日本一周旅行の最終日、長野県の自宅まで数10Kmのトンネルの中でダンプカーにはねられて亡くなられました。80歳とは思えない若々しい人格者でとても残念でなりません。心から哀悼の意を捧げ、ご冥福をお祈りいたします。